



MERCURY QUALITY CENTER™

VERSION 8.2 SERVICE PACK 1

管 理 者 ガ イ ド

MERCURY™

Mercury Quality Center™

管理者ガイド

Version 8.2 Service Pack 1

MERCURY™

Mercury Quality Center 管理者ガイド, Version 8.2 Service Pack 1

本マニュアル, 付属するソフトウェアおよびその他の文書の著作権は, 米国および国際著作権法によって保護されており, それらに付随する使用契約書の内容に則する範囲内で使用できます。Mercury Interactive Corporation のソフトウェア, その他の製品およびサービスの機能は次の 1 つまたはそれ以上の特許に記述があります。米国特許番号 5,511,185; 5,657,438; 5,701,139; 5,870,559; 5,958,008; 5,974,572; 6,137,782; 6,138,157; 6,144,962; 6,205,122; 6,237,006; 6,341,310; 6,360,332; 6,449,739; 6,470,383; 6,477,483; 6,549,944; 6,560,564; 6,564,342; 6,587,969; 6,631,408; 6,631,411; 6,633,912; 6,694,288; 6,738,813; 6,738,933; 6,754,701; 6,792,460 および 6,810,494。オーストラリア特許番号 763468 および 762554。その他の特許は米国およびその他の国で申請中です。権利はすべて弊社に帰属します。

Mercury, Mercury Interactive, Mercury のロゴ, Mercury Interactive のロゴ, LoadRunner, WinRunner, SiteScope および TestDirector は, Mercury Interactive Corporation の商標であり, 特定の司法管轄内において登録されている場合があります。上記の一覧に含まれていない商標についても, Mercury が当該商標の知的所有権を放棄するものではありません。

その他の企業名, ブランド名, 製品名の商標および登録商標は, 各所有者に帰属します。Mercury は, どの商標がどの企業または組織の所有に属するかを明記する責任を負いません。

Mercury Interactive Corporation
379 North Whisman Road
Mountain View, CA 94043
Tel: (650) 603-5200
Toll Free: (800) TEST-911
Customer Support: (877) TEST-HLP
Fax: (650) 603-5300

© 2005 Mercury Interactive Corporation, All rights reserved

本書に関するご意見, ご要望は documentation@mercury.com まで電子メールにてお送りください。

目次

Quality Center 管理者ガイドへようこそ	vii
本書の使用方法	viii
Mercury Quality Center のマニュアル	ix
オンライン・リソース	x
表記規則	xi

第 1 部 : サイトの管理

第 1 章 : 「サイト管理者」の概要	3
「サイト管理者」の起動	3
「サイト管理者」	5
「サイト管理者」のパスワードの変更	6
第 2 章 : Quality Center プロジェクトの管理	7
Quality Center プロジェクトの管理について	8
Quality Center プロジェクトの構造について	8
Quality Center ドメインの作成	10
Quality Center プロジェクトの作成	12
Quality Center プロジェクトのコピー	16
プロジェクトの詳細の更新	19
プロジェクト・テーブルのクエリ実行	22
プロジェクトの無効化と有効化	24
プロジェクトへの Ping	25
プロジェクト名の変更	25
プロジェクト・リストからのプロジェクトの削除	26
プロジェクトの削除	26
ドメインの削除	27
接続文字列の編集	28
Quality Center プロジェクトへのアクセスの復元	29
Quality Center プロジェクトのバックアップと復元	31
プロジェクトの不具合モジュール名の変更	32

第 3 章：プロジェクトのアップグレードと移行	33
プロジェクトのアップグレードと移行について	34
Quality Center プロジェクトのアップグレード	34
TestDirector プロジェクトの Quality Center 8.2 SP1 への移行	38
第 4 章：Quality Center ユーザの管理	49
ユーザの管理について	49
新しいユーザの追加	50
LDAP からのユーザのインポート	52
ユーザ・プロパティの定義	59
パスワードの変更	61
ユーザに対する LDAP 認証の有効化	62
ユーザの削除	63
第 5 章：ユーザ接続とライセンスの管理	65
ユーザ接続とライセンスの管理について	65
ユーザ接続の監視	65
Quality Center ライセンスの管理	67
第 6 章：サーバとパラメータの設定	69
サーバとパラメータの設定について	69
サーバ情報の設定	70
新しいデータベース・サーバの定義	73
データベース・サーバのプロパティの変更	76
Quality Center 設定パラメータの設定	78
第 2 部：プロジェクトのカスタマイズ	
第 7 章：プロジェクトのカスタマイズの概要	91
プロジェクトのカスタマイズの開始	91
[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウについて	95
第 8 章：プロジェクト内のユーザの管理	99
プロジェクト内のユーザの管理について	99
プロジェクトへのユーザの追加	100
ユーザ・グループへのユーザの割り当て	102
プロジェクトからのユーザの削除	104

第 9 章：ユーザ・グループと権限の管理	105
ユーザ・グループと権限の管理について.....	106
ユーザ・グループの追加.....	107
ユーザ・グループ権限の設定.....	108
移行ルールの設定.....	112
ユーザ・グループに対するデータの非表示.....	115
ユーザ・グループへの既存の権限セットの割り当て.....	118
ユーザ・グループ名の変更.....	118
ユーザ・グループの削除.....	119
[ユーザの権限の設定] のタスクについて.....	119
ユーザ・グループのモジュールへのアクセスのカスタマイズ.....	128
第 10 章：Quality Center プロジェクトのカスタマイズ	131
Quality Center プロジェクトのカスタマイズについて.....	131
プロジェクト・エンティティのカスタマイズ.....	132
プロジェクト・リストのカスタマイズ.....	140
第 11 章：メールの設定	145
メールの設定について.....	145
メール・フィールドの指定.....	146
メール条件の定義.....	148
不具合に関するメールの題名のカスタマイズ.....	149
第 12 章：トレーサビリティ通知ルールの設定	151
トレーサビリティ通知ルールの設定について.....	151
トレーサビリティ通知ルールの設定.....	154
第 13 章：ワークフロー・スクリプトの生成	155
ワークフロー・スクリプトの作成について.....	156
不具合モジュール・フィールド・リストのカスタマイズ.....	157
不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ.....	161
第 3 部：ワークフローのカスタマイズ	
第 14 章：ワークフローのカスタマイズの概要	167
第 15 章：ワークフロー・スクリプト・エディタを使った作業	171
ワークフロー・スクリプト・エディタを使った作業について.....	171
スクリプト・エディタ.....	172
ワークフロー・スクリプトの作成.....	176
ツールバーへのボタンの追加.....	179
スクリプト・エディタのプロパティの設定.....	182

第 16 章 : ワークフロー・イベントのリファレンス	187
Quality Center イベントについて	187
Quality Center イベント・プロシージャの命名規則	189
Quality Center イベントのリファレンス	190
第 17 章 : ワークフロー・オブジェクトの参照情報	207
Quality Center オブジェクトについて	207
Actions オブジェクト	210
Action オブジェクト	210
Fields オブジェクト	212
Field オブジェクト	213
Lists オブジェクト	215
TDConnection オブジェクト	216
User オブジェクト	216
第 18 章 : ワークフローの例	219
ワークフローの例について	220
使用例 : 不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ ..	221
使用例 : タブ名の変更	225
使用例 : メモ・フィールドへのテンプレートの追加	226
使用例 : フィールドの別のフィールドに基づく変更	227
使用例 : ユーザ・グループに基づくフィールドの変更	228
使用例 : オブジェクトの検証	228
使用例 : フィールドの検証	229
使用例 : 動的フィールドのリストの提示	230
使用例 : フィールド変更時のフィールド・プロパティの変更	232
使用例 : ユーザ権限の制御	232
使用例 : ボタン機能の追加	233
使用例 : エラー処理	234
使用例 : セッション・コンテキストの取得	235
使用例 : セッション・プロパティの取得	235
使用例 : 空のパスワードの検出	236
使用例 : メールの送信	237
使用例 : 入力された最後の値の保存	238
使用例 : フィールド値の他のオブジェクトへのコピー	241
第 4 部 : 付録	
付録 A : Quality Center サーバ・コンポーネントの検証	245
索引	249

Quality Center 管理者ガイドへようこそ

Mercury の Web ベースのテスト管理ツール Mercury Quality Center (旧 TestDirector) へようこそ。Quality Center では、テスト要件の指定、テストの計画、テストの実行、不具合の追跡など、アプリケーションのテスト・プロセスのすべての段階を組織立てて管理できます。

Quality Center プロジェクトには、テスト・プロセスの全体を通じて、開発者、テスト担当者、品質保証管理者など多くのユーザがアクセスします。テスト・プロジェクトの情報を保護、維持、管理するために、ユーザはアクセス権の異なるグループに割り当てられます。TDAdmin ユーザ・グループに属する Quality Center 管理者のみが、Quality Center のすべての領域にアクセスできるフルアクセス権を持っています。

Quality Center の管理者は、「**サイト管理機能**」を使用して、Quality Center プロジェクトの作成と維持、Quality Center のユーザ、接続、ライセンスの管理、データベース・サーバの定義、Quality Center 設定の変更を行います。

また、「**プロジェクトのカスタマイズ機能**」を使用して、プロジェクトのエンティティおよびリストのカスタマイズ、ユーザ・グループおよび権限の設定、メールの設定、トレーサビリティ通知ルールの設定、Quality Center モジュール内のワークフローの設定を行います。

Quality Center は、出荷時にはパスワードが設定されていません。したがって、テスト・データを不正なアクセスから保護するために、Quality Center テスト・プロセスの早い段階でパスワードを設定することを強くお勧めします。

本書の使用法

本書では、Quality Center の管理、保守、カスタマイズについて説明します。

本書は、次の 4 部構成になっています。

第 1 部 サイトの管理

サイト管理機能を使用した Quality Center プロジェクトの管理について説明します。これには、プロジェクト、ユーザ、接続、ライセンス、サーバ、および設定パラメータの保守が含まれます。

第 2 部 プロジェクトのカスタマイズ

[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウを使って、プロジェクトのユーザとその権限を定義し、プロジェクトへのアクセスを制御する方法について説明します。また、プロジェクトのユーザの固有のニーズに合わせて、プロジェクトをカスタマイズする方法についても説明します。

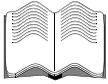
第 3 部 ワークフローのカスタマイズ

Quality Center ユーザ・インタフェースをカスタマイズしてユーザが実行できるアクションを制御するためのワークフロー・スクリプトの作成方法について説明します。

第 4 部 付録

Quality Center が使用する Quality Center サーバ・コンポーネントの多くをテストする診断ツール、Quality Center Checker の使用方法について説明します。Quality Center Checker を実行すると、Quality Center へのアクセスに関連する多くのサーバ側の問題の原因を特定できます。

Mercury Quality Center のマニュアル



Quality Center には、本書以外に次のドキュメントが付属しています。

『**Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド**』: Quality Center を使ってテスト・プロセスのすべての段階を組織立てて実施する方法について説明します。要件の定義、テストの計画、テストの実行、および不具合の追跡方法を取り上げます。

『**Mercury Quality Center インストール・ガイド**』: クラスタ環境のサーバ・コンピュータへ、あるいはスタンド・アロン・アプリケーションとして Quality Center をインストールする方法について説明します。

『**Mercury Quality Center チュートリアル**』: Quality Center を使ってアプリケーション・テスト・プロセスを管理する方法について、自分のペースで学べるガイドです。

『**Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ・ガイド**』: Quality Center のオープン・テスト・アーキテクチャに従って、独自の設定管理、不具合の追跡、および自社開発のテスト・ツールを Quality Center プロジェクトに統合する方法について説明します。また、包括的なオンラインの「**Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス**」も参照できます。

『**Mercury Business Process Testing ユーザーズ・ガイド**』: Business Process Testing を使用して、ビジネス・プロセス・テストを作成する方法について説明します。

オンライン・リソース

Quality Center には、次のオンライン・リソースが用意されています。

ヘルプ ▼

注：[ヘルプ] ボタンは、Quality Center ウィンドウの右上にあります。

「**最初にお読みください**」：Quality Center に関する最新のお知らせと情報が含まれます。

「**新機能**」：最新バージョンの Quality Center における新しい機能について説明しています。[ヘルプ] ボタンをクリックして、[**新機能**] を選択します。

「**オンライン文書**」：PDF 形式の全ドキュメントを表示します。オンライン・マニュアルの表示や印刷には、Adobe Reader を使用します。このソフトウェアは Adobe 社の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp>) からダウンロードできます。[ヘルプ] ボタンをクリックして、[**オンライン文書**] を選択します。

「**Mercury Quality Center オンライン・ヘルプ**」：Quality Center の使用中に生じた疑問の解決方法を即座に調べることができます。メニュー・コマンドやダイアログ・ボックスの説明、また Quality Center のタスクの実行方法を確認できます。[ヘルプ] ボタンをクリックして、[**オンライン ヘルプ**] を選択します。

「**Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス**」：Quality Center の COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスを提供します。Quality Center のオープン・テスト・アーキテクチャを使用して、ユーザ独自の設定管理ツール、不具合追跡ツール、および自社開発のテスト・ツールを Quality Center プロジェクトに統合できます。[ヘルプ] ボタンをクリックして、[**オンライン文書**] を選択します。[**Quality Center API**] の下で、[**Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス (ヘルプ・ファイル)**] を選択します。

「**Mercury Quality Center サイト管理 API リファレンス**」：サイト管理者クライアントの COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスを提供します。サイト管理者クライアント API を使用して、アプリケーションを編成、管理し、Quality Center のユーザ、プロジェクト、ドメイン、接続およびサイトの設定パラメータを保守できます。[ヘルプ] ボタンをクリックして、[**オンライン文書**] を選択します。[**Quality Center API**] の下で、[**Mercury Quality Center サイト管理 API リファレンス (ヘルプ・ファイル)**] を選択します。

オンライン・カスタマー・サポート：普段お使いの Web ブラウザで、Mercury カスタマー・サポート Web サイトを開きます。このサイトではサポートの要請をすることができます。Mercury の Web サイトの URL は、<http://www.mercury.com/jp/services/support/> です。あるいは、[ヘルプ] ボタンをクリックして [オンライン技術サポート] を選択します。

Mercury の Web サイト：普段お使いの Web ブラウザで、Mercury のホームページを開きます。このサイトでは、Mercury の最新情報や製品に関する情報をご覧になれます。新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマー・サポート、教育サービスなどに関する情報をご覧いただけます。Web サイトの URL は <http://www.mercury.com/jp/> です。あるいは、[ヘルプ] ボタンをクリックして [Mercury Interactive Web サイト] を選択します。

表記規則

本書では次の表記規則に従います。

- | | |
|---------|---|
| 1, 2, 3 | 太字の数字は、操作手順を示します。 |
| ▶ | ブリット記号はオプションまたは特徴を示します。 |
| > | 大なり記号はメニュー・レベルを区切ります（例：[ファイル] > [開く]）。 |
| [太字] | インタフェース要素の名前は、その要素を使用したアクションを実行する手順の説明で全角の大括弧に 太字 で示します（例：[実行] ボタンをクリックします）。 |
| 太字 | メソッド名や関数名、変数名、新機能は、 太字 で示します。 |
| Arial | 使用例やユーザがそのまま入力しなければならない文字列は、Arial フォントで示します。 |
| <> | ファイル・パスまたは URL アドレスの中の可変部分は、山括弧で囲んで示します（例：<製品のインストール・フォルダ> %bin）。 |
| ... | 構文内の省略記号は、同じ形式で項目をさらに組み入れることができることを意味します。 |

第 1 部

サイトの管理

第 1 章

「サイト管理者」の概要

「サイト管理者」を使用して、Quality Center のプロジェクト、ユーザ、およびサーバの作成と保守ができます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ 「サイト管理者」の起動
- ▶ 「サイト管理者」
- ▶ 「サイト管理者」のパスワードの変更

「サイト管理者」の起動

「サイト管理者」を使用して、Quality Center のプロジェクトの作成と保守を行います。

「サイト管理者」を起動するには、次の手順を実行します。

1 「サイト管理者」の起動には、次の 2 つの方法があります。

- ▶ お使いの Web ブラウザを起動し、Quality Center の URL として、`http:// < Quality Center サーバ名 > /qcbn` を入力します。Mercury Quality Center の初期ウィンドウが表示されます。[**サイト管理者**] リンクをクリックします。
- ▶ あるいは、Web ブラウザを起動し、サイト管理者の URL として、`http:// < Quality Center サーバ名 > /sabin` を入力します。

「サイト管理者」を初めて実行すると、アプリケーションがコンピュータにダウンロードされます。2 回目以降の実行では、Quality Center によって自動的にバージョン確認が行われます。サーバに新しいバージョンがあることが検出されると、そのバージョンがコンピュータにダウンロードされます。

注：コンピュータにファイルをダウンロードするには、管理者権限でログインする必要があります。管理者権限が必要となるのは、Quality Center の最初の実行、新しいバージョンへのアップグレード、またはサービス・パックを適用する場合です。

Quality Center のバージョンが確認され、必要に応じて更新されると、「サイト管理者」のログイン・ウィンドウが開きます。



- 2 [パスワード] ボックスに、パスワードを入力します。

標準では、「サイト管理者」にパスワードは定義されていません。パスワードの定義または変更の詳細については、6 ページ「「サイト管理者」のパスワードの変更」を参照してください。

パスワードを Quality Center に記憶させるには、[パスワードの記憶] を選択します。

ログイン

- 3 [ログイン] をクリックします。「サイト管理者」が開きます。

「サイト管理者」

「サイト管理者」には次のタブがあります。

- ▶ **[プロジェクト]** タブ：Quality Center プロジェクトの管理を行います。新規のドメインおよびプロジェクトの追加，プロジェクト・データのクエリの実行，プロジェクトの復元，プロジェクト名の変更，プロジェクトの有効化 / 無効化などを行うことができます。詳細については，第2章「Quality Center プロジェクトの管理」を参照してください。

Quality Center の以前のバージョンから現在のバージョンにプロジェクトをアップグレードすることもできます。詳細については，第3章「プロジェクトのアップグレードと移行」を参照してください。

- ▶ **[ユーザ]** タブ：新規ユーザの追加およびパスワードの変更など，ユーザのプロパティの定義を行います。詳細については，第4章「Quality Center ユーザの管理」を参照してください。
- ▶ **[接続]** タブ：Quality Center サーバに現在接続しているユーザを監視します。詳細については，第5章「ユーザ接続とライセンスの管理」を参照してください。
- ▶ **[ライセンス]** タブ：使用中の Quality Center のライセンス総数を監視し，ライセンス・キー番号を変更します。詳細については，第5章「ユーザ接続とライセンスの管理」を参照してください。
- ▶ **[サーバ]** タブ：ログ・ファイルやメール・プロトコルなどの Quality Center サーバ情報を変更します。詳細については，第6章「サーバとパラメータの設定」を参照してください。
- ▶ **[DB サーバ]** タブ：データベース・サーバを管理します。新しいデータベース・サーバの追加，サーバの接続文字列の編集，サーバの標準の管理者ユーザ名とパスワードの変更，ユーザ・パスワードの変更などを行うことができます。このタブは Quality Center Enterprise Edition でのみ使用できます。詳細については，第6章「サーバとパラメータの設定」を参照してください。
- ▶ **[サイト構成]** タブ：Quality Center の構成パラメータを変更します。詳細については，第6章「サーバとパラメータの設定」を参照してください。

ツール ▾

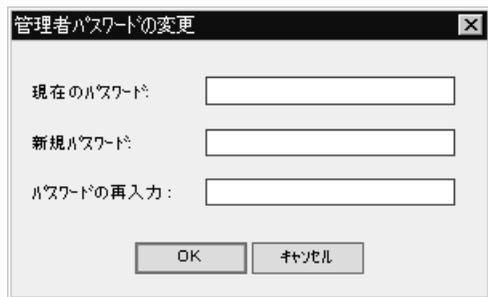
「サイト管理者」には，[サイト管理者] ウィンドウの右上に **[ツール]** ボタンもあります。**[移行ツール]** を選択すると，TestDirector で作成したプロジェクトを Quality Center へ移行することができます。詳細については，第3章「プロジェクトのアップグレードと移行」を参照してください。

「サイト管理者」のパスワードの変更

「サイト管理者」の情報を保護するため、パスワードを定義してください。標準では、「サイト管理者」にパスワードは定義されていません。

「サイト管理者」のパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 Mercury Quality Center のオプション・ウィンドウ（最初のページ）または Mercury Quality Center ログイン・ウィンドウで、[**サイト管理者**] リンクをクリックします。または、[**スタート**] > [**プログラム**] > [**Mercury Quality Center**] > [**Site Administrator**] を選択します。サイト管理者ログイン・ウィンドウが表示されます。
- 2 [**パスワードの変更**] リンクをクリックします。[管理者パスワードの変更] ダイアログ・ボックスが開きます。



管理者パスワードの変更

現在のパスワード:

新規パスワード:

パスワードの再入力:

OK キャンセル

- 3 [**現在のパスワード**] ボックスに、現在使用しているパスワードを入力します。
- 4 [**新規パスワード**] ボックスに、新しいパスワードを入力します（最大 20 文字）。
- 5 [**パスワードの再入力**] ボックスに、新しいパスワードを再度入力します。
- 6 [**OK**] をクリックします。

第 2 章

Quality Center プロジェクトの管理

「サイト管理者」を使用して、Quality Center のドメインおよびプロジェクトの管理と保守が行えます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ Quality Center プロジェクトの管理について
- ▶ Quality Center プロジェクトの構造について
- ▶ Quality Center ドメインの作成
- ▶ Quality Center プロジェクトの作成
- ▶ Quality Center プロジェクトのコピー
- ▶ プロジェクトの詳細の更新
- ▶ プロジェクト・テーブルのクエリ実行
- ▶ プロジェクトの無効化と有効化
- ▶ プロジェクトへの Ping
- ▶ プロジェクト名の変更
- ▶ プロジェクト・リストからのプロジェクトの削除
- ▶ プロジェクトの削除
- ▶ ドメインの削除
- ▶ 接続文字列の編集
- ▶ Quality Center プロジェクトへのアクセスの復元
- ▶ Quality Center プロジェクトのバックアップと復元
- ▶ プロジェクトの不具合モジュール名の変更

Quality Center プロジェクトの管理について

Quality Center で作業を開始するには、まず「Quality Center プロジェクト」を作成する必要があります。Quality Center プロジェクトは、テスト・プロセスに関連するデータの収集と格納に使用されます。Oracle または Microsoft SQL データベースで動作する Quality Center プロジェクトを作成できます。空の Quality Center プロジェクトを作成したり、既存のプロジェクトの内容を新しいプロジェクトへコピーすることができます。また、既存のプロジェクトへのアクセスを復元することもできます。

プロジェクトの作成後は、SQL ステートメントの定義と実行によるプロジェクト内容へのクエリーと、プロジェクトへのアクセスの有効/無効の設定を行うことができます。また、以前の TestDirector で作成したプロジェクトを、現在のバージョンの Quality Center へ移行することもできます。

Quality Center プロジェクトは、「ドメイン」ごとにグループ分けされています。ドメインには、関連し合う Quality Center プロジェクトのグループが含まれ、多数のプロジェクトの整理や管理に役立ちます。

注：Quality Center Standard Edition には、次の制限があります。

- ▶ 各 Quality Center サーバに同時に接続できるユーザは5人のみです。
 - ▶ 使用可能なドメインは DEFAULT ドメインのみです。
-

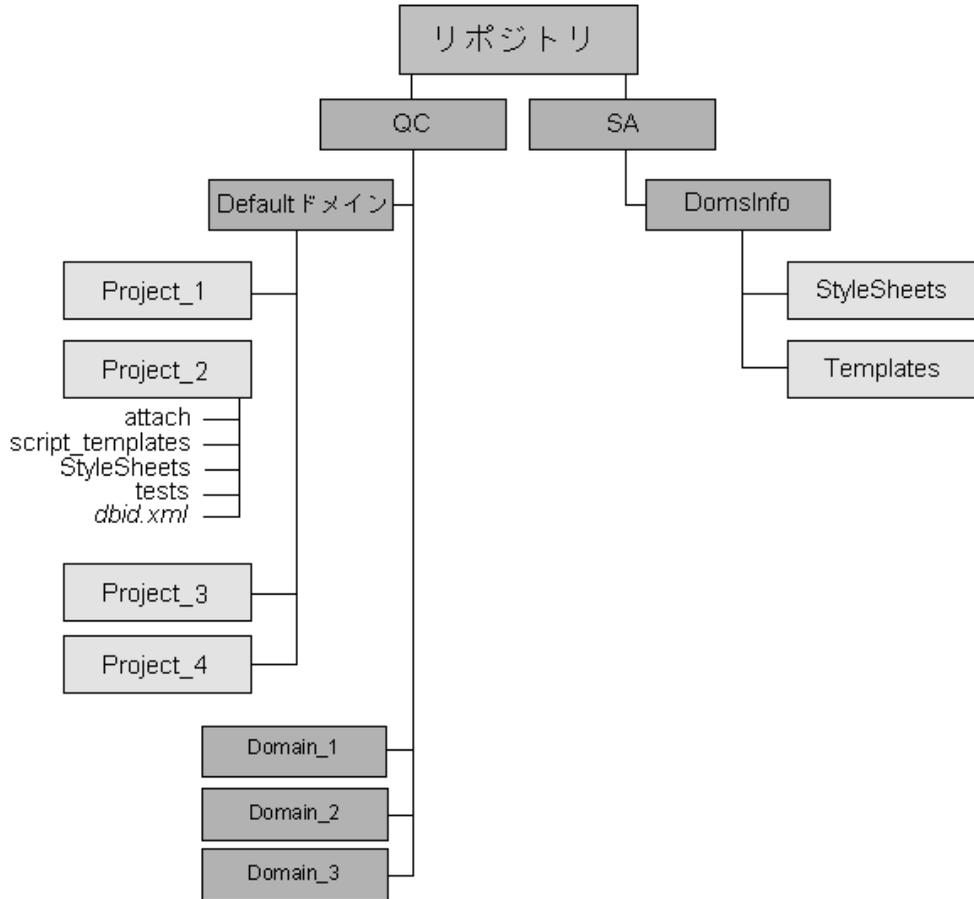
Quality Center プロジェクトの構造について

Quality Center をインストールすると、インストール・プログラムによって「リポジトリ」が作成されます。リポジトリは、Quality Center ドメインとサイト管理者のデータを格納するディレクトリです。リポジトリには、次のサブディレクトリが含まれます。

- ▶ **QC:** このディレクトリには、Quality Center ドメインが格納されます。標準のドメインのほかに、ユーザ定義のドメインも含む場合があります。各ドメインには、Quality Center プロジェクトが含まれます。

- ▶ **SA:** このディレクトリには、**DomsInfo** サブディレクトリのサイト管理者のデータが格納されます。

次の図にリポジトリの構造を示します。



この例では、**QC** ディレクトリの下で **Project_1** から **Project_4** までが、**Default** のドメインに格納されます。ユーザ定義のドメインは、**Domain_1**, **Domain_2**, **Domain_3** です。

新しい Quality Center プロジェクトには、次のサブディレクトリとファイルが含まれます。

- ▶ **attach** : 添付ファイルを格納するためのサブディレクトリ。
- ▶ **script_templates** : テスト・スクリプトのテンプレートを格納するためのサブディレクトリ。
- ▶ **StyleSheets** : 不具合、要件、またはテストに関するメールを送信するときに使用する、スタイル・シートを格納するためのサブディレクトリ。
- ▶ **tests** : 自動テストを格納するためのサブディレクトリ。
- ▶ **dbid.xml** : プロジェクト情報を格納する初期化ファイル。このファイルはプロジェクトへの接続を復元する場合に必要となります。詳細については、29 ページ「Quality Center プロジェクトへのアクセスの復元」を参照してください。

SA ディレクトリの **DomsInfo** サブディレクトリには、次の情報が含まれます。

- ▶ **StyleSheets** : グローバル・スタイル・シートを格納するためのサブディレクトリ。
- ▶ **Templates** : 新しいプロジェクトを作成するときに使用される、データベース・テンプレートを格納するためのサブディレクトリ。

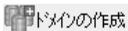
Quality Center ドメインの作成

「サイト管理者」に新しいドメインを追加できます。Quality Center では、プロジェクト・リストのプロジェクトは、ドメインごとにまとめられます。

注 : 新しいドメインの作成は、Quality Center Enterprise Edition でのみ可能です。

ドメインを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [**プロジェクト**] タブをクリックします。
- 2 [**ドメインの作成**] ボタンをクリックします。[ドメインの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 [**ドメイン名**] に入力し、[**OK**] をクリックします。



新しいドメインがアルファベット順にプロジェクト・リストに追加されます。
右の表示枠の「**物理ディレクトリ**」にはドメインの場所が表示されます。



- 4 ドメインやそのプロジェクトに関して質問や問題がある場合の連絡先として名前を追加するには、**[連絡先名]** リンクをクリックします。**[連絡先名の設定]** ダイアログ・ボックスに担当者の名前を入力し、**[OK]** をクリックします。
- 5 ドメインの担当者の電子メール・アドレスを追加するには、**[連絡先電子メール]** リンクをクリックします。**[連絡先の電子メールを設定]** ダイアログ・ボックスに電子メール・アドレスを入力し、**[OK]** をクリックします。

- 6 ドメインに同時に接続できるユーザ数を変更するには、[ユーザ制限] リンクをクリックします。[ドメインのユーザ制限] ダイアログ・ボックスが開きます。



[最大 X 接続] を選択し、同時に接続できる最大数を入力します。[OK] をクリックします。

注：プロジェクトに同時に接続できるユーザの数を変更することもできます。詳細については、19 ページ「プロジェクトの詳細の更新」を参照してください。

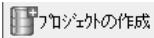
Quality Center プロジェクトの作成

Oracle または Microsoft SQL で、Quality Center プロジェクトを作成できます。新しいプロジェクトを作成する場合には、空のプロジェクトを作成するか、既存のプロジェクトの内容をコピーできます。詳細については、16 ページ「Quality Center プロジェクトのコピー」を参照してください。

注：Quality Center に必要な Oracle 権限、または Microsoft SQL 権限については Quality Center Knowledge Base (<http://support.mercury.com>) を参照してください。Oracle 権限については ID 32903 を、Microsoft SQL 権限については ID 32905 を検索してください。

プロジェクトを作成するには、次の手順を実行します。

1 「サイト管理者」の [プロジェクト] タブをクリックします。



2 [プロジェクトの作成] ボタンをクリックします。[プロジェクトの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。

プロジェクトの作成

プロジェクト名:

所在ドメイン:

データベースの種類

Oracle

MS-SQL

戻る 次 キャンセル ヘルプ

3 [プロジェクト名] ボックスに、Quality Center プロジェクト名を入力します。

4 [所在ドメイン] ボックスからドメインを選択します。

ヒント：プロジェクトを作成した後も、ドラッグ・アンド・ドロップ操作を行うことで、[プロジェクト] リスト内で別のドメインにプロジェクトを移動できます。

5 [データベースの種類] から「Oracle」または「MS-SQL」を選択します。

6 [次] をクリックします。次のダイアログ・ボックスが開きます。

7 標準設定では、Quality Center のインストール時に定義された値は [サーバ名] 「DB 管理者ユーザ」、および [DB 管理者パスワード] に表示されます。追加のデータベース・サーバが定義されている場合は、[サーバ名] リストから別の名前を選択できます。

注： 定義済みのデータベース・サーバについての詳細は、73 ページ「新しいデータベース・サーバの定義」を参照してください。

- 8 **[次]** をクリックします。Microsoft SQL プロジェクトを作成している場合は、手順9に進みます。Oracle プロジェクトを作成している場合は、次のダイアログ・ボックスが開きます。



[テーブルスペースに作成] ボックスで、リストから格納場所を選択します。

[一時テーブルスペース] ボックスのリストから、新しいプロジェクトの一時格納場所を選択します。

[次] をクリックします。

- 9 次のダイアログ・ボックスが開きます。



プロジェクトの詳細を確認します。内容を変更するには、**[戻る]** をクリックします。

- 10 新しいプロジェクトを有効にするには、**[プロジェクトの起動]** を選択します。詳細については、24 ページ「プロジェクトの無効化と有効化」を参照してください。
- 11 新しいプロジェクトを作成するには、次の方法を使用できます。
 - ▶ **[作成]** をクリックして、空の新しいプロジェクトを作成します。新しいプロジェクトが **[プロジェクト]** リストに追加されます。
 - ▶ **[コピー]** をクリックして、既存のプロジェクトの内容を新しいプロジェクトにコピーします。詳細については、16 ページ「Quality Center プロジェクトのコピー」を参照してください。

Quality Center プロジェクトのコピー

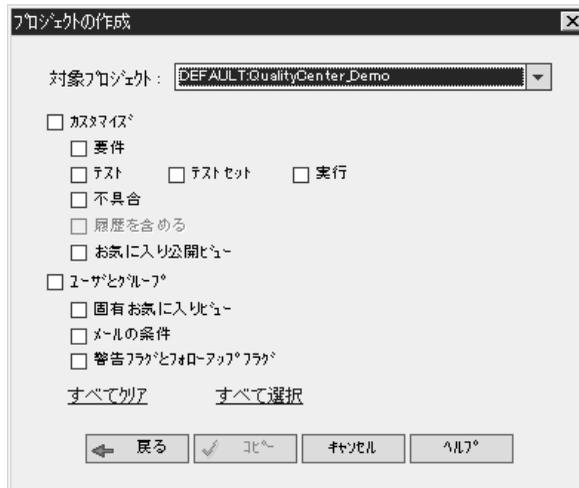
新しい Quality Center プロジェクトを作成する場合には、既存のプロジェクトの内容を新しいプロジェクトにコピーできます。

注：コピーしている間に Quality Center サーバが利用不可能になった場合には、コピー処理を後で再開することができます。コピーを再開するには、「サイト管理者」を再び開き、**[プロジェクト]** リストからプロジェクトを選択します。右の表示枠で **[ここでクリック]** リンクをクリックします。

Quality Center プロジェクトをコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 コピーするプロジェクトを無効にします。詳細については、24 ページ「プロジェクトの無効化と有効化」を参照してください。
- 2 12 ページ「Quality Center プロジェクトの作成」の手順 1 ～ 手順 10 を実行します。

- 3 [プロジェクトの作成] ダイアログ・ボックスで、[コピー] をクリックします。次のダイアログ・ボックスが開きます。



- 4 [対象プロジェクト] ボックスから、コピーするプロジェクトを選択します。
- 5 [カスタマイズ] を選択し、プロジェクト・リスト、ホスト・データ、システムおよびユーザ定義フィールド、移行ルールを新しいプロジェクトにコピーします。このオプションが選択されている場合は、次をコピーすることもできます。

オプション	説明
要件	プロジェクトから要件データをコピーします。このオプションを選択すると、 [履歴を含める] が選択できるようになります。
テスト	プロジェクトからテスト・データをコピーします。このオプションが選択されている場合は、次のオプションをコピーすることもできます。 <ul style="list-style-type: none"> • [テスト・セット]：プロジェクトからテスト・セット・データをコピーします。 • [実行]：プロジェクトから実行データをコピーします。 このオプションを選択すると、 [履歴を含める] が選択できるようになります。

オプション	説明
不具合	プロジェクトから不具合データをコピーします。このオプションを選択すると、 履歴を含める が選択できるようになります。
履歴を含める	選択されているオプションの履歴データをコピーします。
お気に入り公開ビュー	プロジェクトから公開お気に入り表示データをコピーします。詳細については、『Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- 6 **[ユーザとグループ]** を選択すると、ユーザおよびグループ情報、アクセス許可設定をコピーできます。このオプションが選択されている場合は、次をコピーすることもできます。

オプション	説明
固なお気に入りビュー	プロジェクトから固なお気に入り表示データをコピーします。詳細については、『Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
メールの条件	メールの設定データをコピーします。詳細については、145 ページ「メールの設定」を参照してください。
警告とフォローアップフラグ	警告とフォローアップ・フラグをコピーします。詳細については、『Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- 7 オプションをすべてクリアするには、**[すべてクリア]** をクリックします。
- 8 オプションをすべて選択するには、**[すべて選択]** をクリックします。
- 9 **[コピー]** をクリックすると、**[プロジェクト]** リストに新しいプロジェクトが追加されます。

プロジェクトの詳細の更新

データベースの種類およびプロジェクトのディレクトリなど、プロジェクトの詳細の表示と更新を行うことができます。不具合を通知する電子メールを自動送信するよう設定することもできます。

ヒント：プロジェクトはドラッグ・アンド・ドロップ操作を行うことで、[プロジェクト] リスト内の別のドメインに移動できます。ただし、この操作では、プロジェクトの物理的な場所は変更されません。

プロジェクトの詳細を更新するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [プロジェクト] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストから、プロジェクトを選択します。



注：プロジェクトが無効な場合は、プロジェクトのアイコンが赤で表示されま
す。プロジェクトを有効にする方法については、24 ページ「プロジェクトの無
効化と有効化」を参照してください。

3 [プロジェクト データベース] には、次のプロジェクトの詳細が表示されます。

フィールド	説明
データベースの種類	データベースの種類。MS-SQL または Oracle のどちらか です。
データベース名	データベースに定義されているプロジェクト名。
データベース サーバ	データベースに格納されているデータベース・サーバの名 前。
次のプロジェクトから 作成	プロジェクトはこのプロジェクトのコピー元のプロジェク ト。[Empty Database] という値は、プロジェクトがコ ピーされていないことを示します。詳細については、16 ページ「Quality Center プロジェクトのコピー」を参照し てください。
次のプロジェクトから 復元	プロジェクトの復元の元となったプロジェクト。詳細につ いては、29 ページ「Quality Center プロジェクトへのアク セスの復元」を参照してください。 このフィールドは [次のプロジェクトから作成] の代わり に表示されます。
次のドメインから作成	プロジェクトのコピー元のドメイン。
次のドメインから復元	プロジェクトの復元の元となったドメイン。詳細につ いては、29 ページ「Quality Center プロジェクトへのアクセス の復元」を参照してください。 このフィールドは [次のドメインから作成] の代わりに表 示されます。
接続文字列	接続文字列 接続文字列を変更するには、28 ページ「接続 文字列の編集」を参照してください。

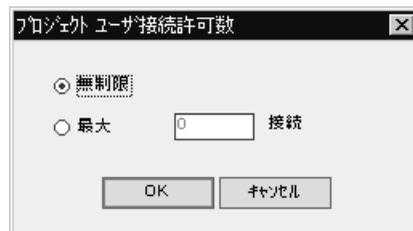
フィールド	説明
DB ユーザ パスワード	データベースが格納されている Oracle サーバのユーザ・パスワード。このパスワードを変更するには、76 ページ「データベース・サーバのプロパティの変更」を参照してください。
プロジェクトディレクトリ	ファイル・システムのプロジェクト・リポジトリの場所。

- 4 [不具合のメールを自動的に送信する] を選択すると、プロジェクトのメールの設定が有効になります。これは、設定されている不具合フィールドが更新されるたびに指定のユーザに自動的に電子メールを送信するよう Quality Center に指示するものです。メールの設定の詳細については、第 11 章「メールの設定」を参照してください。

不具合を通知するメッセージは指定した送信間隔で自動的に送信されます。送信間隔を編集するには [サイト構成] タブで MAIL_INTERVAL パラメータを見つけます。電子メールに添付ファイルや履歴をつけるかどうかを指定することもできます。詳細については、78 ページ「Quality Center 設定パラメータの設定」を参照してください。

現在の時間間隔中に蓄積された不具合のメッセージを手動で送信するには、[今すぐ電子メールを送信] ボタンをクリックします。

- 5 プロジェクトに同時に接続できるユーザ数を変更するには、[ユーザ制限] リンクをクリックします。[プロジェクト ユーザ接続許可数] ダイアログ・ボックスが開きます。



[最大 X 接続] を選択し、同時に接続できる最大数を入力します。[OK] をクリックします。

注：プロジェクトに同時に接続できるユーザの最大数は、そのドメインに接続できるユーザの数を超えないようにしてください。詳細については、10 ページ「Quality Center ドメインの作成」を参照してください。

- 6 プロジェクトの説明を追加するには、**[説明]** リンクをクリックします。[プロジェクト説明の編集] ダイアログ・ボックスに説明を追加し、**[OK]** をクリックします。



- 7 **[プロジェクトリストの更新]** ボタンをクリックすると、特定ドメインのプロジェクトが最新の情報に更新されます。すべてのドメインのプロジェクトを最新の情報に更新するには、**[プロジェクトリストの更新]** の下向き矢印をクリックし、**[すべてのドメインを更新]** を選択します。

プロジェクト・テーブルのクエリ実行

プロジェクトに格納されている特定のデータを問い合わせることができます。SQL ステートメントを定義して実行することで、プロジェクトへのクエリを実行します。次の例は、SQL クエリとそれによって返される結果を示しています。

クエリー	結果
<pre>select * from BUG where BG_STATUS = 'Open'</pre>	「開始」状態のすべての不具合。
<pre>select * from BUG where BG_RESPONSIBLE = 'james_qc' or BG_RESPONSIBLE = 'mary_qc'</pre>	James または Mary のどちらかに割り当てられているすべての不具合。
<pre>select count (*) from BUG where BG_RESPONSIBLE = 'mary_qc'</pre>	Mary に割り当てられている不具合の数。
<pre>select * from BUG where BG_RESPONSIBLE='james_qc' and BG_STATUS='open'</pre>	James に割り当てられている「開始」状態のすべての不具合。

上に示した例の最初の SQL クエリーが返す結果は次のとおりです。

The screenshot shows the Mercury Quality Center interface. On the left is a tree view with 'BUG' selected. The main window displays the following SQL query and its results:

```
SELECT * FROM BUG
where BG_STATUS = 'Open'
```

BG_CYCLE_ID	BG_BUG_ID	BG_STATUS	BG_RESPONSIBLE	BG_PROJECT	BG_SUBJECT	BG_SUM
-1	20	Open	mary_qc	Mercury Tours (71	Mercury	
-1	21	Open	mary_qc	Mercury Tours (71	Welcome	
7	22	Open	james_qc	Mercury Tours (71	User Na	
-1	1	Open	james_qc	Mercury Tours (78	The list	
-1	3	Open	james_qc	Mercury Tours (78	The list	
-1	5	Open	james_qc	Mercury Tours (78	The list	
-1	6	Open	mary_qc	Mercury Tours (76	IF error	
	7	Open	peter_qc	Mercury Tours (72	Incorrec	
2	10	Open	mary_qc	Mercury Tours (76	User prc	
2	11	Open	mary_qc	Mercury Tours (76	User Prc	
2	12	Open	mary_qc	Mercury Tours (76	User prc	
2	13	Open	mary_qc	Mercury Tours (85	Change:	
-1	16	Open	peter_qc	Mercury Tours (80	The itne	
-1	17	Open	peter_qc	Mercury Tours (80	The itne	
7	24	Open	james_qc	Mercury Tours (71	IMG tag:	
7	25	Open	james_qc	Mercury Tours (71	User Na	
2	26	Open	peter_qc	Mercury Tours (80	The itne	
2	27	Open	peter_qc	Mercury Tours (80	The itne	
1	35	Open	mary_qc	Mercury Tours (72	The ave	

プロジェクトのクエリーを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [プロジェクト] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストから、プロジェクトをダブルクリックします。
- 3 テーブルを選択します。このテーブルに対して自動的に「SELECT *」クエリーが実行され、テーブルのすべてのデータが SQL クエリー結果グリッドに表示されます。
- 4 SQL 表示枠に SQL ステートメントを入力し、クエリーを定義します。
- 5 [SQL の実行] ボタンをクリックするか、ALT + Q キーを押します。クエリーによって返されたデータは SQL クエリー結果グリッドに表示されます。

プロジェクトの無効化と有効化

Quality Center プロジェクトは無効または有効にできます。プロジェクトを無効にすると、Mercury Quality Center ログイン・ウィンドウの[プロジェクト]ボックスからプロジェクト名が削除されます。このプロジェクトはサーバから削除されるわけではありません。プロジェクトを無効にすると、プロジェクトに現在接続しているユーザは強制的にログアウトされます。

注：接続中のユーザに対して整合性が失われる可能性のあるデータを変更する前に、プロジェクトを無効にすることをお勧めします。

プロジェクトを無効にするには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の[プロジェクト]タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト]リストから、プロジェクトを選択します。
- 3  [プロジェクトを非アクティブにする] ボタンをクリックします。[警告] ダイアログ・ボックスが開き、接続中のユーザすべてが切断されるというメッセージが表示されます。
- 4 [OK] をクリックして確定します。プロジェクトが無効になり、[プロジェクト]リスト内のプロジェクトのアイコンが変わります。

プロジェクトを有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の[プロジェクト]タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト]リストから、プロジェクトを選択します。
- 3  [プロジェクトの起動] ボタンをクリックします。プロジェクトが有効になり、[プロジェクト]リスト内のプロジェクトのアイコンが変わります。

プロジェクトへの Ping

「プロジェクト」が「サイト管理者」に接続されているかどうかを確認できます。

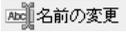
プロジェクトの Ping を行うには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [プロジェクト] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストから、プロジェクトを選択します。
- 3  [Ping コマンド] ボタンをクリックします。
- 4 Ping が正常に完了したというメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

プロジェクト名の変更

[プロジェクト] リスト内のプロジェクト名は変更できます。

プロジェクト名を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [プロジェクト] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストから、プロジェクトを選択します。
- 3  [名前の変更] ボタンをクリックします。プロジェクトが有効になっている場合は、無効にするように求められます。詳細については、24 ページ「プロジェクトの無効化と有効化」を参照してください。
- 4 [プロジェクト名の変更] ダイアログ・ボックスで、プロジェクトの新しい名前を入力し、[OK] をクリックします。プロジェクト・リスト内のプロジェクトの名前が変更されます。

プロジェクト・リストからのプロジェクトの削除

「サイト管理者」のプロジェクト・リストからプロジェクトを削除できます。この操作では、プロジェクトはサーバから削除されないため、必要に応じてプロジェクトを復元できます。プロジェクトへのアクセスの復元の詳細については、29ページ「Quality Center プロジェクトへのアクセスの復元」を参照してください。

[プロジェクト] リストからプロジェクトを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [プロジェクト] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストから、プロジェクトを選択します。
- 3  [プロジェクトの除去] ボタンをクリックします。
- 4 [OK] をクリックして確定します。プロジェクトがまだ有効になっている場合は、無効にするように求められます。詳細については、24ページ「プロジェクトの無効化と有効化」を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。

プロジェクトの削除

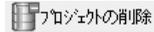
「サイト管理者」の [プロジェクト] リストからプロジェクトを削除できます。この操作では、サーバからプロジェクト内容が削除されるため、プロジェクトは復元できません。

注：（「サイト管理者」ではなく）Oracle ユーティリティから Oracle プロジェクトを削除するには、次の権限が必要です。

```
GRANT DROP USER TO <USER>;
```

プロジェクトを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [**プロジェクト**] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストから、プロジェクトを選択します。
- 3 [**プロジェクトの削除**] ボタンをクリックします。
- 4 [**OK**] をクリックして確定します。



データベース管理者のユーザ名またはパスワードを指定しなかった場合は、[データベース管理者パスワードの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。データベース管理者のユーザ名およびパスワードを入力し、[OK] をクリックします。

- 5 [**OK**] をクリックします。

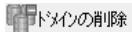
ドメインの削除

ドメインは削除できます。そのドメインは [プロジェクト] リストから削除され、その内容はサーバから削除されます。

注：プロジェクトが含まれているドメインを削除することはできません。ドメインを削除するには、最初にドメイン内のプロジェクトをすべて削除する必要があります。詳細については、26 ページ「プロジェクトの削除」を参照してください。

ドメインを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [**プロジェクト**] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストから、ドメインを選択します。
- 3 [**ドメインの削除**] ボタンをクリックします。
- 4 続行する場合は [**はい**] ボタンをクリックします。



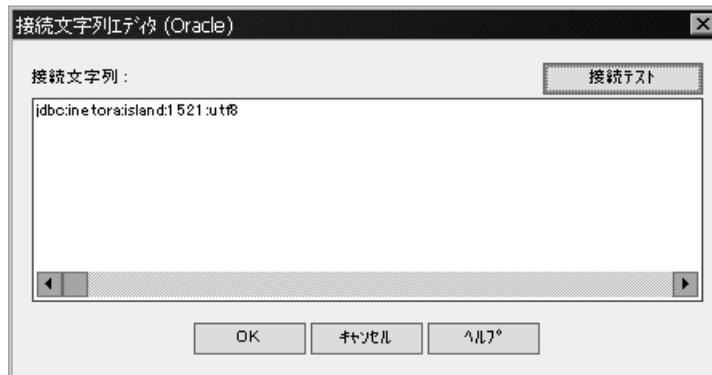
接続文字列の編集

プロジェクトの接続文字列は編集が可能です。接続文字列の詳細については、73 ページ「新しいデータベース・サーバの定義」を参照してください。

接続文字列を編集するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [**プロジェクト**] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストから、プロジェクトを選択します。
- 3  **編集** ボタンをクリックします。プロジェクトがまだ有効になっている場合は、無効にするように求められます。詳細については、24 ページ「プロジェクトの無効化と有効化」を参照してください。

[接続文字列エディタ] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 4 [**接続文字列**] ボックスで、接続文字列の属性を変更します。
- 5 接続文字列をテストするには、 [**接続テスト**] をクリックします。
- 6 [**OK**] をクリックして接続文字列の変更を保存し、[接続文字列エディタ] を閉じます。

Quality Center プロジェクトへのアクセスの復元

「サイト管理者」の現在の [プロジェクト] リストにない Quality Center プロジェクトへのアクセスを復元できます。例えば、別のサーバからプロジェクトにアクセスする場合があります。プロジェクトへのアクセスを復元すると、そのプロジェクトが「サイト管理者」の [プロジェクト] リストに追加されます。

注： TestDirector 8.0 プロジェクトを復元するには、Quality Center 8.2 SP1 にプロジェクトを移行させる必要があります。詳細については、第3章「プロジェクトのアップグレードと移行」を参照してください。

Quality Center プロジェクトへのアクセスを復元するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [**プロジェクト**] タブをクリックします。
- 2 [**プロジェクトの復元**] ボタンをクリックします。[プロジェクトの復元] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 復元するプロジェクトを含むディレクトリを探すには、[**dbid.xml ファイルの保管場所**] ボックスの右側にある参照ボタンをクリックします。[ファイルを開く] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 ディレクトリを探します。

- 5 dbid.xml ファイルを選択し、**[開く]** をクリックします。[プロジェクトの復元] ダイアログ・ボックスが開き、データベースの名前、種類、およびサーバ、さらにプロジェクトのディレクトリ・パスが表示されます。



- 6 **[次のドメインを復元]** ボックスで、復元したプロジェクトを置くドメインを選択します。
- 7 **[復元]** をクリックし、**[OK]** をクリックします。
- 8 **[閉じる]** をクリックして [プロジェクトの復元] ダイアログ・ボックスを閉じます。復元されたプロジェクトが [プロジェクト] リスト内に表示されます。

Quality Center プロジェクトのバックアップと復元

プロジェクトをバックアップすることで、データベースに格納されているデータを保護できます。アンインストール、アップグレード、または以前のバージョンからの移行を行う前に、プロジェクトをバックアップしておくことをお勧めします。

Quality Center プロジェクトをバックアップするには、次の手順を実行します。

- 1 データベース上のデータベース・スキーマをバックアップします。
 - ▶ **[Oracle]** : **exp** コマンドを使用します。
 - ▶ **[Microsoft SQL]** : [SQL Server エンタープライズ マネージャ] から、**[Tools]** > **[Backup Database]** を選択します。
- 2 プロジェクト・リポジトリをコピーして、プロジェクトをバックアップします。

Quality Center プロジェクトのバックアップを復元するには、次の手順を実行します。

- 1 データベース上のデータベース・スキーマを復元します。
 - ▶ **[Oracle]** : **imp** コマンドを使用します。
 - ▶ **[Microsoft SQL]** : [SQL Server エンタープライズ マネージャ] から、**[Tools]** > **[Restore Database]** を選択します。
- 2 リポジトリのバックアップを、Quality Center リポジトリにコピーします。
- 3 「サイト管理者」でプロジェクトを復元します。ディレクトリからプロジェクトを復元する場合、またはスキーマの名前を変更する場合は、それに応じて **dbid.xml** ファイルをアップデートする必要があります。プロジェクトの復元の詳細については、29 ページ「Quality Center プロジェクトへのアクセスの復元」を参照してください。

プロジェクトの不具合モジュール名の変更

特定のプロジェクトの不具合モジュール名を変更できます。例えば、不具合モジュールの名前を **Defects**（不具合）から **Bugs**（バグ）に変更できます。プロジェクトの **DATACONST** テーブルにパラメータを追加して、不具合モジュールの名前を変更します。プロジェクト・テーブルの変更の詳細については、22 ページ「プロジェクト・テーブルのクエリ実行」を参照してください。

注：[**サイト構成**] タブに **REPLACE_TITLE** パラメータを追加することによって、すべてのプロジェクトの任意の Quality Center モジュール名を変更できます。詳細については、78 ページ「Quality Center 設定パラメータの設定」を参照してください。

プロジェクトの不具合モジュール名を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」で、[**プロジェクト**] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストで、不具合モジュールの名前を変更するプロジェクトをダブルクリックします。
- 3 **DATACONST** テーブルを選択します。
- 4 SQL 表示枠で、SQL INSERT ステートメントを入力し、テーブルに次の値を入力します。
 - ▶ **DC_CONST_NAME** カラムに、**REPLACE_TITLE** というパラメータを挿入します。
 - ▶ **DC_VALUE** カラムに、不具合モジュールの新しい名前を定義する文字列を次の形式で入力します。

元のタイトル（単数形）；新しいタイトル（単数形）；元のタイトル（複数形）；新しいタイトル（複数形）

例えば、モジュールの名前を **Defects** から **Bugs** に変更する場合は、SQL 表示枠に次の SQL ステートメントを入力します。

```
insert into dataconst values ('REPLACE_TITLE', 'Defect;Bug;Defects;Bugs')
```

- 5 [**SQL の実行**] ボタンをクリックします。**DATACONST** テーブルに新しい行が追加されます。Quality Center プロジェクトに不具合モジュール名が表示されます。

第 3 章

プロジェクトのアップグレードと移行

以前に作成したプロジェクトを使用する場合は、プロジェクトを Quality Center の現在のバージョンにアップグレードまたは移行する必要があります。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ プロジェクトのアップグレードと移行について
- ▶ Quality Center プロジェクトのアップグレード
- ▶ TestDirector プロジェクトの Quality Center 8.2 SP1 への移行

プロジェクトのアップグレードと移行について

以前のバージョンで作成したプロジェクトを使用する場合は、プロジェクトを Quality Center にアップグレードまたは移行する必要があります。次の表に、以前に作成されたプロジェクトを使用するために必要な手順を示します。

Quality Center または TestDirector から :	Quality Center 8.2 SP1 へ :
Quality Center 8.2	Quality Center 8.2 から Quality Center 8.2 SP1 へはプロジェクトをアップグレードする必要はありません。
Quality Center 8.0	プロジェクトを Quality Center 8.2 SP1 にアップグレードする必要があります。Quality Center 8.2 SP1 の「サイト管理者」を使用します。詳細については、34 ページ「Quality Center プロジェクトのアップグレード」を参照してください。
TestDirector 7.6 または 8.0	プロジェクトを Quality Center 8.2 SP1 に移行する必要があります。Quality Center 8.2 SP1 の移行ツールを使用します。詳細については、38 ページ「TestDirector プロジェクトの Quality Center 8.2 SP1 への移行」を参照してください。

Quality Center プロジェクトのアップグレード

本項では、プロジェクトを Quality Center 8.0 から Quality Center 8.2 SP1 にアップグレードする方法について説明します。一度に1つのプロジェクトをアップグレードするか、または1つのドメインの複数のプロジェクトを同時にアップグレードするかを選択できます。アップグレードしたプロジェクトは、以前のバージョンの Quality Center で使用することはできません。

アップグレード処理を実行する前に、Quality Center プロジェクトをバックアップしておくことをお勧めします。詳細については、31 ページ「Quality Center プロジェクトのバックアップと復元」を参照してください。

注：

- ▶ Quality Center 8.2 から Quality Center 8.2 SP1 へはプロジェクトをアップグレードする必要はありません。
 - ▶ TestDirector 7.6 または 8.0 プロジェクトを使用するには、Quality Center 8.2 SP1 にプロジェクトを移行させる必要があります。詳細については、38 ページ「TestDirector プロジェクトの Quality Center 8.2 SP1 への移行」を参照してください。
-

1つのプロジェクトをアップグレードするには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [**プロジェクト**] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストから、プロジェクトを選択します。
- 3  [**プロジェクトの更新**] ボタンをクリックします。プロジェクトが有効になっている場合は、無効にするように求められます。詳細については、24 ページ「プロジェクトの無効化と有効化」を参照してください。
- 4 [**はい**] をクリックし、プロジェクトをアップグレードすることを確定します。プロジェクトのアップグレードが開始されます。
- 5 アップグレードが正常に終了したというメッセージが表示されたら、[**はい**] をクリックします。

1つのドメインの複数のプロジェクトを同時にアップグレードするには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [プロジェクト] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストから、ドメインを選択します。
- 3 [複数プロジェクトのアップグレード] ボタンをクリックします。[複数プロジェクトのアップグレード] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 4 **[アップグレード後]** で、「すべてのプロジェクトを非アクティブ化のままにしておきます。」「現在使用中のプロジェクトのみを起動します。」「すべてのプロジェクトを起動します。」のいずれかを選択します。標準では、アップグレード後、現在使用中のプロジェクトのみが起動されます。
- 5 プロジェクトの現在のバージョン番号を表示できます。ドメインのすべてのプロジェクトのバージョン番号、または特定のプロジェクトのバージョン番号を表示できます。
- ▶ すべてのプロジェクトのバージョン番号を表示するには、**[すべて選択]** ボタンをクリックし、**[バージョン番号の表示]** ボタンをクリックします。
 - ▶ 特定のプロジェクトのバージョン番号のみ表示するには、プロジェクト名の横のボックス を選択し、**[バージョン番号の表示]** ボタンをクリックします。

[バージョン] カラムにプロジェクトのバージョン番号が表示されます。

- 6 ドメインのすべてのプロジェクト、または特定のプロジェクトをアップグレードできます。
- ▶ すべてのプロジェクトをアップグレードするには、**[すべて選択]** ボタンをクリックし、**[プロジェクトのアップグレード]** ボタンをクリックします。
 - ▶ 特定のプロジェクトのみアップグレードするには、プロジェクト名の横のボックス を選択し、**[プロジェクトのアップグレード]** ボタンをクリックします。

プロジェクトが有効になっている場合は、無効にするように求められます。詳細については、24 ページ「プロジェクトの無効化と有効化」を参照してください。

[アップグレード結果] ボックスに、アップグレードの処理および結果が表示されます。

- 7 **[閉じる]** をクリックし、**[複数プロジェクトのアップグレード]** ダイアログ・ボックスを閉じます。

TestDirector プロジェクトの Quality Center 8.2 SP1 への移行

Quality Center 8.2 SP1 をインストールした後で TestDirector 7.6 または 8.0 プロジェクトを使用するには、Quality Center 8.2 SP1 にプロジェクトを移行する必要があります。プロジェクトは移行ツールを使用して Quality Center に移行されます。その際にソース・サーバとターゲット・サーバを指定する必要があります。ソース・サーバとは、プロジェクトの移行元の TestDirector サーバです。ターゲット・サーバとは、プロジェクトの移行先の Quality Center サーバです。

TestDirector から移行した場合は、TestDirector で使用したのと同じリポジトリを使用することも、リポジトリを Quality Center にコピーすることもできます。移行プロセスでは移行された TestDirector プロジェクトのデータベースの複製またはコピーは行われません。

プロジェクトを TestDirector から Quality Center に移行すると、次のイベントが発生します。

- ▶ TestDirector プロジェクトが Quality Center にアップグレードされます。
- ▶ プロジェクトは TestDirector サーバから削除されますが、データベース・サーバには残ります。これで、プロジェクトは Quality Center サーバからのみアクセスできるようになります。
- ▶ ユーザは TestDirector から Quality Center にインポートされます。
- ▶ サイト設定パラメータは TestDirector から Quality Center にインポートされます。
- ▶ **[既存のリポジトリを使用する。]** オプションを選択すると、Quality Center からアクセスできるようリポジトリのパスが更新されます。詳細については、39 ページ「リポジトリ移行オプションの選択」を参照してください。
- ▶ **[ターゲットサーバで全リポジトリデータのコピーを作成する。]** オプションを選択すると、リポジトリが Quality Center にコピーされます。詳細については、39 ページ「リポジトリ移行オプションの選択」を参照してください。

本項では、移行の前提条件、リポジトリの移行オプション、および移行プロセスについて説明します。

移行の前提条件

移行プロセスを開始する前に、次の問題を検討してください。

- ▶ 移行プロセスの開始前に、TestDirector プロジェクトのバックアップを取ることを推奨します。詳細については、Quality Center Knowledge Base

(<http://support.mercury.com>) を参照し、Problem ID 18859 を検索してください。また、『TestDirector 8.0 管理者ガイド』も参照してください。

- ▶ Quality Center (ターゲット) サーバを実行しているユーザ・アカウントには、TestDirector (ソース) サーバを実行するのに使用するユーザ・アカウントと同じ読み取りおよび書き込み権限が必要です。
- ▶ TestDirector から Quality Center に一度に移行できるプロジェクトの最大数を設定するには、**MIGRATION_MAX_NUMBER_OF_PROJECTS** パラメータを設定します。一度に移行できるプロジェクト数を制限することによって、移行プロセスを加速することができます。標準設定では、一度に 50 プロジェクトまでを移行できます。詳細については、78 ページ「Quality Center 設定パラメータの設定」を参照してください。
- ▶ Microsoft Access または Sybase プロジェクトを移行するには、プロジェクトを Oracle または Microsoft SQL Server にコピーしてから、Quality Center に移行する必要があります。プロジェクトのコピーの詳細については、16 ページ「Quality Center プロジェクトのコピー」を参照してください。

移行プロセスの詳細については、Quality Center Knowledge Base (<http://support.mercury.com>) で ID 37306 を参照してください。

リポジトリ移行オプションの選択

「移行ツール」には、リポジトリを移行するための次のオプションがあります。

- ▶ **「既存のリポジトリを使用する。」** : TestDirector で使用していたのと同じリポジトリを使用します。Quality Center からアクセスするパスを定義する必要があります。
- ▶ **「ターゲット サーバで全リポジトリ データのコピーを作成する。」** : Quality Center にリポジトリをコピーします。

次の表に 2 つのオプションを比較します。

「既存のリポジトリを使用する。」	「ターゲット サーバで全リポジトリ データのコピーを作成する。」
リポジトリは変更されません。	リポジトリは Quality Center サーバにコピーされます。

【既存のリポジトリを使用する。】	【ターゲットサーバで全リポジトリデータのコピーを作成する。】
TestDirector サーバと Quality Center サーバで追加設定が必要。次の表を参照してください。	追加設定は必要ありません。
このオプションは 【ターゲットサーバで全リポジトリデータのコピーを作成する。】 オプションよりも早いです。	このオプションは 【既存のリポジトリを使用する。】 オプションよりも遅いです。

【既存のリポジトリを使用する。】 オプションを使って作業するには、次の追加設定が必要です。

	Windows での Quality Center リポジトリの設定	UNIX または Linux での Quality Center リポジトリの設定
リポジトリが TestDirector サーバと同じコンピュータにある場合	TestDirector サーバで、UNC パスを使用して Quality Center からアクセスできるように、リポジトリ・ディレクトリを共有します。	TestDirector コンピュータのリポジトリに UNIX/Linux ベースのパスを使用して Quality Center コンピュータからアクセスできるように、リポジトリと Quality Center コンピュータ設定を設定します。
リポジトリが TestDirector サーバ以外のコンピュータにある場合	UNC パスを変更する必要はありません。Quality Center と同じパスを使用します。	TestDirector 以外のコンピュータのリポジトリに UNIX/Linux ベースのパスを使用して Quality Center コンピュータからアクセスできるように、リポジトリと Quality Center コンピュータ設定を設定します。

【ターゲットサーバで全リポジトリデータのコピーを作成する。】 オプションを選択すると、移行ツールは HTTP プロトコルを使用して、TestDirector サーバから Quality Center サーバにリポジトリをコピーします。TestDirector リポジトリが 3 GB 以上の大きさである場合、あるいは 200 個以上のプロジェクトが含まれる場合は、移行プロセスが完了するまでに時間がかかる可能性があります。

パフォーマンスを向上するためには、**[ターゲットサーバで全リポジトリデータのコピーを作成する。]** オプションを使用するのではなく、オペレーティング・システム・レベルでリポジトリをコピーできます。オペレーティング・システム・レベルでコピーする方法の詳細については、Quality Center Knowledge Base (<http://support.mercury.com>) を参照し、Problem ID 38780 を検索してください。移行プロセスの詳細については、Quality Center Knowledge Base (<http://support.mercury.com>) で ID 37306 を参照してください。

プロジェクトの移行

本項では、TestDirector から Quality Center にプロジェクトを移行する方法の詳細について説明します。移行プロセスを開始する前に 38 ページ「移行の前提条件」と 39 ページ「リポジトリ移行オプションの選択」を参照することをお勧めします。

プロジェクトを移行するには、次の手順を実行します。

- 1 TestDirector コンピュータの CD-ROM ドライブに、Quality Center の CD-ROM を挿入します。**MercuryQualityCenter_MigrationTool.exe** ファイルをインストールします。

注：この実行可能ファイルは、TestDirector サーバの実行に使用するのと同じユーザ・アカウントでインストールします。

- 2 別のコンピュータで、Mercury Quality Center サイト管理者 ([http:// < Quality Center サーバ名 > /sabin](http://<Quality Center サーバ名>/sabin)) を起動してログインします。「サイト管理者」が開きます。

ツール ▼

- 移行ツールを開くには、「サイト管理者」ウィンドウの右上の「**ツール**」ボタンをクリックします。「**移行ツール**」を選択します。「ログインサーバ」ページが開きます。

ログインサーバ
ソースとターゲットサーバに接続

ソース ログイン

TestDirector URL (http://server_name/tdbin):

サイト管理者パスワード

ターゲット ログイン

Quality Center SiteAdmin URL (http://server_name/sabin):

サイト管理者パスワード

<< 戻る 次へ >> ヘルプ

手順 1/5

4 [ソース ログイン] では、次の指定を行います。

- ▶ [TestDirector URL] で、プロジェクトの移行元の TestDirector URL (http:// < TestDirector サーバ名 > /tdbin) を指定します。
- ▶ [サイト管理者パスワード] ボックスに、サイト管理者へログインするための TestDirector パスワードを入力します。

5 [ターゲット ログイン] では、次の指定を行います。

- ▶ [Quality Center Site Admin URL] で、プロジェクトの移行元の Quality Center Site Administrator URL (http:// < Quality Center サーバ名 > /sabin) を指定します。
- ▶ [サイト管理者パスワード] ボックスに、Quality Center サイト管理者へログインするためのパスワードを入力します。

6 [次へ] をクリックします。[ドメインおよびプロジェクト] ページが開きます。



- 7 移行するプロジェクトを選択します。プロジェクトをすべて選択するには、**[すべて選択]** をクリックします。

次の状況では、プロジェクトを移行することはできません。

 - ▶ Quality Center サーバにすでに同じ名前のプロジェクトが存在する場合。
 - ▶ プロジェクト・データベース・サーバが Quality Center サーバで定義されていない場合。Quality Center のターゲット・サーバで、TestDirector のソース・サーバのデータベース・サーバと同じようにデータベース・サーバ設定を定義します。データベース・サーバの定義の詳細については、73 ページ「新しいデータベース・サーバの定義」を参照してください。
- 8 選択されたプロジェクトをすべてクリアするには、**[すべてクリア]** をクリックします。
- 9 プロジェクト・リストを最新の情報に更新するには、**[リストの更新]** をクリックします。
- 10 移行プロセスが完了前に中断された場合は、そのプロセスを再開することができます。移行プロセスを再開するには、プロジェクト・リストから再開可能なプロジェクトを選択するか、**[再開可能なプロジェクトすべての選択]** をクリックして再開可能なすべてのプロジェクトを選択します。**[再開]** をクリックして、移行プロセスを続行します。これらのボタンは、再開可能なプロジェクトがある場合にのみ有効です。

11 [次へ] をクリックします。[リポジトリ] ページが開きます。

リポジトリ

リポジトリの移行メソッドを選択してください。

ターゲット サーバで全リポジトリ データのコピーを作成する。

既存のリポジトリを使用する。
移行後、ターゲット サーバからアクセス可能にするため、ソース サーバでリポジトリのパスを入力してください。

ソース サーバのリポジトリ パス: #*KICKSTART_Dir#	>>	移行後のターゲット サーバのリポジトリ パス: #*KICKSTART_Dir#
---------------------------------------	----	---

手順 3/5

注意

ターゲット サーバが Unix/Linux プラットフォームにある場合は、[移行後のターゲット サーバ] ボックスで定義されている Windows ベースのリポジトリパスを Unix/Linux ベースのものに変更します。ターゲット サーバを Windows プラットフォームで実行する場合は、パスを絶対パスから相対パスに変更します (例えば、F:\DomainDir# から #*ソースサーバ名#\DomainDir# _に変更)。

12 次の移行オプションのどちらかを選択します。

- ▶ **[ターゲット サーバで全リポジトリ データのコピーを作成する。]** : Quality Center サーバにリポジトリをコピーします。
- ▶ **[既存のリポジトリを使用する。]** : Quality Center によって使用されるリポジトリ・パスを定義します。TestDirector で使用している同じリポジトリを使って作業を継続できます。

リポジトリの移行オプションの詳細については、39 ページ「リポジトリ移行オプションの選択」を参照してください。

- 13 [ターゲットサーバで全リポジトリデータのコピーを作成する。] を選択した場合は、48 ページの手順 15 に進んでください。

[既存のリポジトリを使用する。] を選択した場合は、[移行後のターゲットサーバのリポジトリパス] ボックスでターゲット・リポジトリ・パスを次のように変更します。

- ▶ ターゲット・サーバが Windows プラットフォーム上で実行されている場合は、パスを絶対パスから UNC パスに変更します。例えば、ターゲット・パスを F:¥Td_dir to ¥¥<ソース・サーバ名> ¥Td_dir に変更します。
- ▶ ターゲット・サーバが UNIX または Linux プラットフォーム上で実行されている場合は、Windows ベースのパスを UNIX ベースのパスに変更します。例えば、絶対パスを UNIX/Linux ベースのパスに変更するには、ターゲット・パスを F:¥Td_dir から /net/ <ソース・サーバ> /td_dir に変更します。

すべての変更を元に戻すには、[すべて復元] をクリックしてから、[はい] をクリックして確定します。

- 14 Quality Center サーバ上のプロジェクトの物理パスを変更または検証するには、[詳細] をクリックします。[リポジトリパス] ページが開きます。

リポジトリパス
ターゲットサーバの物理的場所を変更する。

プロジェクト	DB サーバ名	物理的位置	テストリポジトリ保管場所
<input type="checkbox"/> DEFAULT <input type="checkbox"/> b	ZONEJP	¥¥KICKS¥TD_Dir¥Default¥¥#	

? 詳細

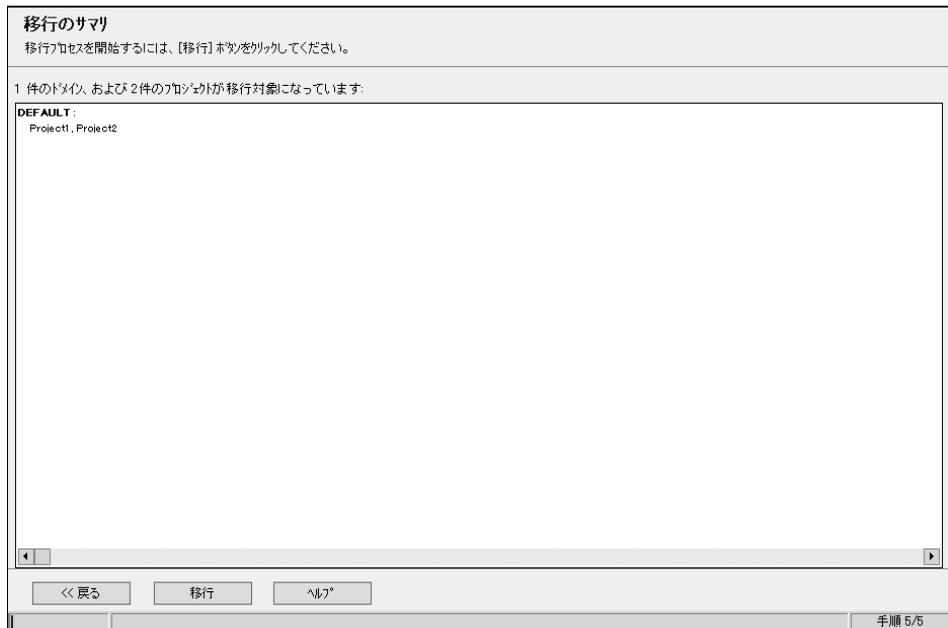
物理的位置のからで、ターゲットサーバが UNIX プラットフォームで実行されている場合、Windows ベースのパスを UNIX ベースのパスに変更する必要があります。ターゲットサーバが Windows プラットフォームで実行されている場合、パスを絶対パスから相対パスに変更する必要があります。例
F¥DomainDir¥... から
¥¥<source_server_name> ¥
DomainDir ¥... に変更する。

手順 4/5

次に利用可能なカラムを示します。

カラム名	詳細
[プロジェクト]:	プロジェクト名を示します。
[DB サーバ名]:	プロジェクトに使用するデータベース・サーバの名前を示します。Quality Center コンピュータ上のプロジェクト・データベース・サーバの名前は、TestDirector コンピュータ上のものと同じ名前であればなりません。
[物理的な位置]:	<p>Quality Center サーバでプロジェクトの物理パスを示します。変更するには、物理的パスをダブル・クリックするか、[変更] をクリックしてパスを編集します。Quality Center サーバが UNIX または Linux プラットフォーム上で実行されている場合は、Windows ベースのパスを UNIX ベースのパスに変更します。Quality Center サーバが Windows プラットフォーム上で実行されている場合は、パスを絶対パスから UNC パスに変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パスの有効性を検証するには、[パスの検証] をクリックします。 ● 変更を元に戻すには、[復元] をクリックしてから、[はい] をクリックして確定します。 ● すべての変更を元に戻すには、[すべて復元] をクリックしてから、[はい] をクリックして確定します。
[テスト リポジトリ保管場所]:	テスト・フォルダがプロジェクト・リポジトリに格納されていない場合は、パスが表示されます。

- 15 **[次]** をクリックします。**[移行のサマリ]** ページが開きます。



- 16 **[移行]** をクリックして、移行プロセスを開始します。情報ボックスが開きます。
- 17 **[OK]** をクリックして確定します。
- 18 移行処理が終了するとメッセージ・ボックスが開きます。**[OK]** をクリックします。
- 19 移行処理のログ・ファイルを HTML ファイルに保存するには、**[ファイルに保存]** をクリックします。
- 20 **[閉じる]** をクリックして、移行ツールを終了します。

第 4 章

Quality Center ユーザの管理

Quality Center ユーザは「サイト管理者」で管理します。新しい Quality Center ユーザの追加およびインポート、ユーザ・プロパティの定義、ユーザ・パスワードの変更が行えます。また、LDAP からユーザをインポートして、ユーザの LDAP 認証を有効にできます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ 新しいユーザの追加
- ▶ LDAP からのユーザのインポート
- ▶ ユーザ・プロパティの定義
- ▶ パスワードの変更
- ▶ ユーザに対する LDAP 認証の有効化
- ▶ ユーザの削除

ユーザの管理について

「サイト管理者」を使用して、Quality Center プロジェクトに接続しているユーザを管理できます。まず、サイト管理者の [ユーザ] リストに新しいユーザを追加またはインポートします。その後で、ユーザのプロパティを定義し、ユーザのパスワードの変更やオーバーライドを行うことができます。ユーザが LDAP のパスワードを使用して、Quality Center にログインできるようにもできます。

注： Quality Center サーバに接続しているユーザを監視します。詳細については、第 5 章「ユーザ接続とライセンスの管理」を参照してください。

新しいユーザの追加

新しいユーザを「サイト管理者」の [ユーザ] リストに追加できます。ユーザが追加されると、ユーザ・プロパティを定義できるようになります。詳細については、59 ページ「ユーザ・プロパティの定義」を参照してください。

また、新しいユーザを LDAP ディレクトリからインポートすることも可能です。詳細については、52 ページ「LDAP からのユーザのインポート」を参照してください。

注： Quality Center プロジェクトの新しいユーザを作成するには、2つの手順を実行します。

- ▶ この項の説明に従って、ユーザを「サイト管理者」の [ユーザ] リストに追加します。
 - ▶ プロジェクトのカスタマイズ機能を利用して、ユーザをユーザ・グループに割り当てます。各ユーザ・グループは、Quality Center の特定の作業に対するアクセス権を持っています。詳細については、第8章「プロジェクト内のユーザの管理」を参照してください。
-

新しいユーザを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の「**ユーザ**」タブをクリックします。



「**ユーザ名**」カラムをクリックすると、ユーザ名のソートの順序を昇順から降順に変更できます。また、ユーザ名ではなく氏名でソートするには、「**名前**」カラムをクリックします。



- 2 「**新規**」ボタンをクリックします。「ユーザの新規作成」ダイアログ・ボックスが開きます。

The 'New User Creation' dialog box contains the following fields:

- ユーザ名: [Empty]
- 名前: [Empty]
- 電子メール: [Empty]
- 電話番号: [Empty]
- 説明: [Empty]

Buttons: OK, キャンセル, ヘルプ

- 3 [ユーザ名] (最大 20 文字) と [名前] を入力します。
- 4 [電子メール], [電話番号], [説明] のそれぞれにユーザ固有の情報を入力します。
- 5 [OK] をクリックします。新しいユーザが [ユーザ] リストに追加されます。

LDAP からのユーザのインポート

LDAP ディレクトリから「サイト管理者」の [ユーザ] リストにユーザをインポートできます。

注：

- ▶ SSL を介して LDAP を使って作業するには、いくつかの手順を実行する必要があります。詳細については、Quality Center Knowledge Base (<http://support.mercury.com>) を参照し、Problem ID 34793 を検索してください。
- ▶ **DIRECTORY_TIME_LIMIT_CONSTRAINT** パラメータを使用して、Quality Center と LDAP サーバ間の接続を定義できます。標準設定では、この値は 10 分に設定されています。詳細については、78 ページ「Quality Center 設定パラメータの設定」を参照してください。

LDAP からユーザをインポートするには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [ユーザ] タブをクリックします。
- 2 LDAP インポート設定が定義されていることを確認します。詳細については、54 ページ「ユーザのインポートのための LDAP 設定の定義」を参照してください。



- 3 [インポート] ボタンをクリックします。[ユーザのインポート] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 4 LDAP ディレクトリ・ベースをフィルタリングするには、[すべてをフィルタ] ボタンをクリックします。あらかじめユーザが選択されている場合は、警告メッセージ・ボックスが表示されます。[OK] をクリックして、すべての選択をクリアしてから続行します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。フィルタ条件を入力して、LDAP ディレクトリ・ベースの特定のレコードを表示し、[OK] をクリックします。



- 5 ユーザに対して LDAP の詳細を表示するには、項目を選択し、[LDAP 詳細を表示] ボタンをクリックします。[LDAP ユーザの詳細] ダイアログ・ボックスが開き、ユーザ属性が表示されます。



- 6 ユーザをインポートするには、次のオプションを使用できます。
- ▶ ユーザをインポートするには、ディレクトリを展開し、チェック・ボックスを選択してユーザ名にマークを付けます。
 - ▶ ユーザ・グループをインポートするには、**Ctrl** または **Shift** を使用してして含めるユーザを強調表示します。[全項目をマーク] 矢印をクリックして [選択した項目をマーク] を選択し、強調表示したユーザのチェック・ボックスを選択します。

- ▶ すべてのユーザをインポートするには、**[全項目をマーク]** をクリックします。
- 7 強調表示したユーザのチェックボックスをクリアするには、**[全項目をマーク]** 矢印をクリックして **[選択項目をクリア]** を選択します。すべてのチェックボックスをクリアするには、**[全項目をマーク]** 矢印をクリックして **[すべてクリア]** を選択します。
- 8 **[インポート]** をクリックします。確認メッセージ・ボックスが表示されます。**[はい]** をクリックして続きます。
 - ▶ ユーザが正しくインポートされたら、メッセージ・ボックスが開きます。**[OK]** をクリックします。手順9に進みます。
 - ▶ **[ユーザ]** リストに同じユーザ名がある場合は、**[競合の処理]** ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、57 ページ「競合するユーザ名の処理」を参照してください。
- 9 **[閉じる]** をクリックして、**[ユーザのインポート]** ダイアログ・ボックスを閉じます。

ユーザのインポートのための LDAP 設定の定義

LDAP ディレクトリからサイト管理者のユーザ・リストにユーザをインポートできるようにするには、LDAP インポート設定を定義する必要があります。

LDAP ディレクトリからユーザをインポートすると、LDAP ディレクトリから Quality Center に属性値がコピーされます。インポートした各ユーザには、次の属性値がコピーされます。

- ▶ **識別名 (DN)** : 関連する一連の識別名 (RDN) をカンマでつなげた一意の名前。
例 : CN=John Smith, OU=QA, O=Mercury
CN は一般名、OU は組織の単位、O は組織を表します。
- ▶ **ユーザ ID (UID)** : 認証ユーザとしてユーザを特定する名前。UID 属性値は、Quality Center の **[ユーザ名]** フィールドにマップされます
- ▶ **氏名, 説明, 電子メール, 電話** : 任意の属性。LDAP ディレクトリからインポートされる各ユーザの **[名前]**, **[説明]**, **[電子メール]**, および **[電話]** フィールドに使用されます。

ユーザのインポートのために LDAP 設定を定義するには、次の手順を実行します。

- 1 サイト管理者で **[ユーザ]** タブをクリックします。
- 2 **[設定]** ボタンをクリックして、**[LDAP インポート設定]** を選択します。
[LDAP インポート設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



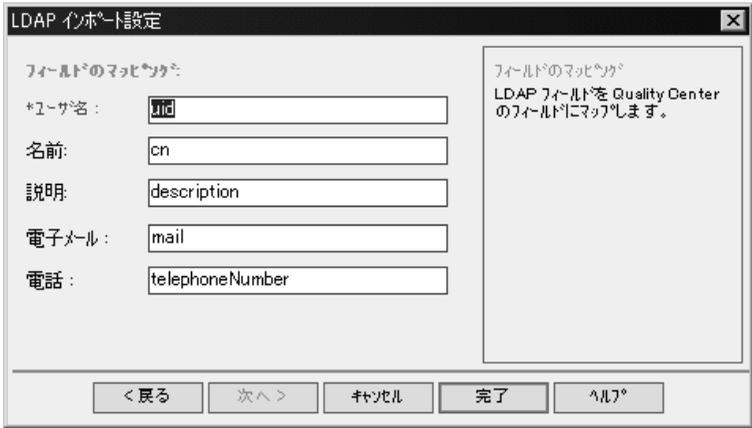
- 3 **[ディレクトリ プロバイダの URL]** ボックスで、LDAP サーバの URL を入力します (ldap:// <サーバ名> : <ポート番号>)。
- 4 **[LDAP 認証タイプ]** で次のいずれかを行います。
 - ▶ 匿名のアカウントを使用して、LDAP サーバからユーザをインポートできるようにするには、**[匿名]** を選択します。
 - ▶ 認証ユーザ・アカウントとパスワードを使用して LDAP サーバからユーザをインポートできるようにするには、**[簡易]** を選択します。
- 5 **[簡易]** を選択した場合は、次のオプションが有効になります。
 - ▶ **[認証主体]** ボックスには、認証ユーザ名を入力します。
 - ▶ **[認証アカウント情報]** ボックスには、パスワードを入力します。
- 6 **[接続テスト]** ボタンをクリックして、LDAP サーバの URL をテストします。
- 7 次のいずれかを選択します。
 - ▶ 引き続き LDAP 設定を行うには、手順 8 に進みます。
 - ▶ **[LDAP インポート設定]** ダイアログ・ボックスを閉じるには、**[完了]** をクリックします。

- 8 引き続き LDAP 設定の定義を行うには、[次へ] をクリックします。次のダイアログ・ボックスが開きます。



- 9 [ディレクトリのベース] ボックスに LDAP ディレクトリ名を入力します。
- 10 [基本フィルタ] ボックスで、フィルタ条件を定義します。
- 11 Active Directory の標準設定の値を設定するには、[Active Directory の標準に設定] ボタンをクリックします。
- 12 LDAP の標準設定の値を設定するには、[LDAP の標準に設定] ボタンをクリックします。
- 13 次のいずれかを選択します。
- ▶ LDAP フィールドを対応する Quality Center フィールドにマップするには、手順 14 に進みます。
 - ▶ [LDAP インポート設定] ダイアログ・ボックスを閉じるには、[完了] を選択します。

- 14 LDAP フィールドを対応する Quality Center フィールドにマップするには、**[詳細]** をクリックします。次のダイアログ・ボックスが開きます。



LDAP インポート設定

フィールドのマッピング:

*ユーザ名:

名前:

説明:

電子メール:

電話:

フィールドのマッピング
LDAP フィールドを Quality Center
のフィールドにマップします。

<戻る 次へ> キャンセル 完了 ヘルプ

- 15 該当する LDAP フィールド名を定義します。**[ユーザ名]** フィールドへの入力は必須です。
- 16 **[完了]** をクリックして、**[LDAP インポート設定]** ダイアログ・ボックスを閉じます。

競合するユーザ名の処理

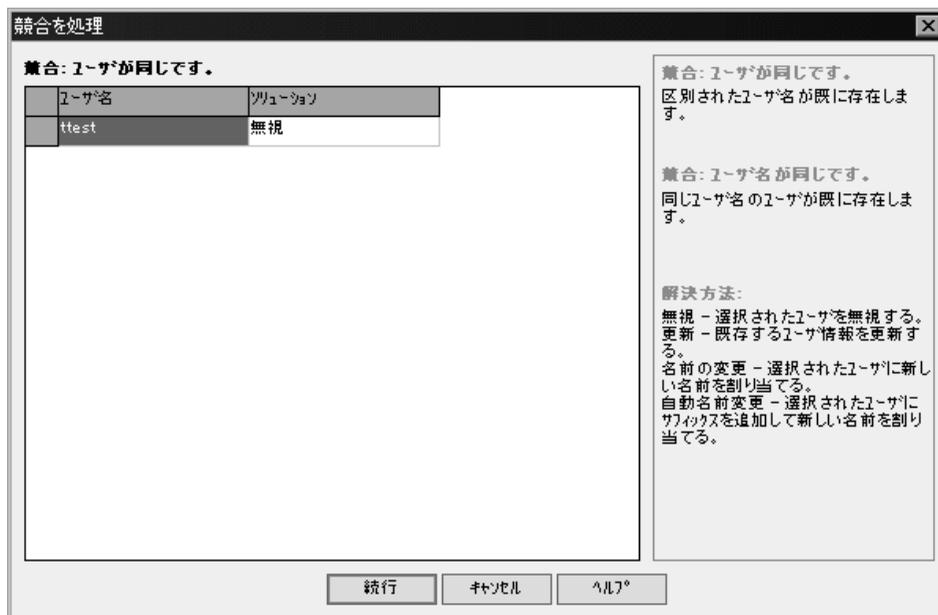
LDAP ディレクトリからサイト管理者の **[ユーザ]** リストにユーザをインポートすると、次の競合が起こる場合があります。

- ▶ **同じユーザ** : 同じ LDAP 識別名が既に存在する。
- ▶ **同じユーザ名** : 同じ名前のユーザが既に存在する。

ユーザのインポート処理を再開するには、既に存在するユーザを無視するか、ユーザ名を変更する、あるいはユーザ情報を更新します。

ユーザ名の競合を解決するには、次の手順を実行します。

- 1 ユーザをインポートします（「LDAPからのユーザのインポート」の手順8を参照してください）。競合があると、[競合を処理] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 競合が [競合: ユーザが同じです。] の下に表示されている場合は、次のいずれかのオプションを選択して処理を再開します。

オプション	説明
更新	既存のユーザ情報を更新します。該当する [ソリューション] ボックスをクリックします。参照ボタンをクリックして、[更新] を選択します。
無視	選択されたユーザをインポートしません（標準設定）。

- 3 競合が「**競合：ユーザ名が同じです。**」の下に表示されている場合は、次のオプションのどれかを選択して、処理を再開します。

オプション	説明
名前の変更	選択されたユーザに新しい名前を割り当てます。該当する「 ソリューション 」ボックスをクリックします。参照ボタンをクリックして、「 名前の変更 」を選択します。「 新規ユーザ名 」ボックスに、新規名を入力します。
自動名前変更	選択されたユーザに接尾辞を付けて新しい名前を割り当てます。該当する「 ソリューション 」ボックスをクリックします。参照ボタンをクリックして、「 自動名前変更 」を選択します。「 新規ユーザ名 」ボックスに、新規名が表示されます。
更新	既存のユーザ情報を更新します。該当する「 ソリューション 」ボックスをクリックします。参照ボタンをクリックして、「 更新 」を選択します。
無視	選択されたユーザをインポートしません（標準設定）。

- 4 「**続行**」をクリックします。

ユーザ・プロパティの定義

ユーザのプロパティを「サイト管理者」で定義できます。ユーザがプロジェクト情報を直接自分のメール・ボックスに受信することが可能になるため、電子メール情報は重要です。

ユーザ・プロパティを定義するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の「**ユーザ**」タブをクリックします。
- 2 「ユーザ」リストからユーザを選択します。

- 3 右の表示枠で、詳細リンクをクリックし、[<ユーザ名>のプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。



The screenshot shows a dialog box titled "[cecil_qc] のプロパティ" with a close button (X) in the top right corner. The dialog contains several text input fields and a text area:

- ユーザ名: asmith
- 名前: Alex Smith
- ドメイン認証: uid=asmith,ou=People,dc=sir,dc=com
- 電子メール: asmith@sir.com
- 電話番号: +1 455 555 8585
- 説明: (Empty text area with scroll bars)

At the bottom of the dialog are three buttons: "OK", "キャンセル", and "ヘルプ".

- 4 ユーザの詳細を編集します。

注 : LDAP ディレクトリから「サイト管理者」へユーザがインポートされた場合は、[ドメイン認証] ボックスに、インポートされたユーザの LDAP 認証プロパティが表示されます。ユーザがインポートされなかった場合は、[ドメイン認証] ボックスには何も表示されません。

- 5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

パスワードの変更

管理者は、ユーザのパスワードの変更やオーバーライドが可能です。

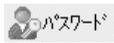
注：

Quality Center パスワードを使用して Quality Center にログインするように設定されているユーザのパスワードのみ変更できます。LDAP パスワードが使用中の場合は、このオプションは無効となります。LDAP 認証の詳細については、54 ページ「ユーザのインポートのための LDAP 設定の定義」を参照してください。

管理者以外のユーザは、[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [パスワードの変更] リンクを使用して、自分のパスワードを変更できます。詳細については、『Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

パスワードを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [ユーザ] タブをクリックします。
- 2 [ユーザ] リストからユーザを選択します。
- 3 [パスワード] ボタンをクリックします。[ユーザパスワードの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。

A screenshot of a dialog box titled 'ユーザパスワードの設定' (User Password Settings). It contains two text input fields: '新規パスワード' (New Password) and 'パスワードの再入力' (Re-enter Password). Below the fields are two buttons: 'OK' and 'キャンセル' (Cancel).

- 4 [新規パスワード] ボックスに、新しいパスワードを入力します (最大 20 文字)。
- 5 [パスワードの再入力] ボックスに、パスワードを再度入力します。
- 6 [OK] をクリックします。

ユーザに対する LDAP 認証の有効化

Quality Center パスワードではなく、LDAP パスワードを使用して、ユーザが Quality Center にログインできるようにします。

注：LDAP 認証を使用する場合は、ユーザは Quality Center データベースのドメイン認証プロパティに格納された識別名 (DN) を使用して、LDAP に対して認証されている必要があります。ユーザがログインしようとした場合に Quality Center の DN 情報が無効であると、ユーザは Quality Center にログインできません。

DN 情報が無効な場合に、サイト管理者で定義された LDAP インポート設定を使用して、LDAP サーバで検索を行えるよう、検索を拡張することもできます。ユーザが見つかると、DN は Quality Center で更新され、自動ログインが実行されます。

この拡張検索を設定するには、**LDAP_SEARCH_USER_CRITERIA** サイト構成パラメータにカンマ区切りのリストを定義します。取り得る値は、**username, email, fullname, phone, description** です。複数の結果が見つかった場合は、プロパティの順番で優先度が定義されます。

例えば、パラメータが **username** と **email** に設定されており、LDAP サーバに同じ名前の 2 人のユーザが見つかった場合は、**e-mail** で比較されます。設定したプロパティに一致するユーザが複数見つかった場合は、エラー・メッセージが返されます。ユーザの検索が成功すると、ユーザは Quality Center にログインできます。

詳細については、78 ページ「Quality Center 設定パラメータの設定」を参照してください。

ユーザに対して LDAP 認証を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [**ユーザ**] タブをクリックします。



- 2 [設定] ボタンをクリックして [認証設定] を選択します。[認証設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 [認証の種類] の下で, [LDAP] を選択し, すべてのユーザの認証タイプを LDAP に設定します。
- 4 [ディレクトリ プロバイダの URL] ボックスで, LDAP サーバの URL (ldap://<サーバ名>:<ポート番号>) を入力します。
- 5 [接続テスト] ボタンをクリックして, LDAP サーバの URL をテストします。
- 6 [OK] をクリックします。

ユーザの削除

[ユーザ] リストからユーザを削除できます。

ユーザを削除するには, 次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [ユーザ] タブをクリックします。
- 2 [ユーザ] リストからユーザを選択します。
- 3 [削除] ボタンをクリックします。
- 4 続行する場合は [はい] ボタンをクリックします。



第 5 章

ユーザ接続とライセンスの管理

「サイト管理者」では、ユーザ接続を監視し、ライセンス情報を変更できます。本章では、次の項目について説明します。

- ▶ ユーザ接続とライセンスの管理について
- ▶ ユーザ接続の監視
- ▶ Quality Center ライセンスの管理

ユーザ接続とライセンスの管理について

「サイト管理者」の **[接続]** タブを使用し、Quality Center プロジェクトに接続されているユーザの監視と管理を行うことができます。詳細については、65 ページ「ユーザ接続の監視」を参照してください。

サイト管理者の **[ライセンス]** タブを使用して、Quality Center のライセンス情報を表示し、必要に応じてライセンス・キーを変更します。詳細については、67 ページ「Quality Center ライセンスの管理」を参照してください。

ユーザ接続の監視

Quality Center サーバに現在接続しているユーザを監視できます。ユーザごとに、使用しているドメインとプロジェクト、ユーザのコンピュータ名、ユーザがプロジェクトに最初にログインした時刻、最後に操作を行った時刻を表示できます。Quality Center サーバに接続しているクライアント側のソフトウェアも表示することができます。

また、各ユーザが現在使用しているライセンスも表示できます。**Mercury Quality Center ライセンス**  を持つユーザは、特定のプロジェクトのすべての

モジュールにアクセスできます。不具合モジュール・ライセンス  を持つユーザは、不具合モジュールにのみアクセスできます。

[**モジュールへのアクセスのカスタマイズ**] リンクを使用すると、Quality Center プロジェクトへのアクセスを変更できます。詳細については、128 ページ「ユーザ・グループのモジュールへのアクセスのカスタマイズ」を参照してください。

注：各 Quality Center モジュールについて使用中のライセンス総数を表示するには、[**ライセンス**] タブをクリックします。詳細については、67 ページ「Quality Center ライセンスの管理」を参照してください。

ユーザ接続を監視するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の [**接続**] タブをクリックします。



The screenshot shows the Mercury Quality Center interface. At the top, there is a navigation bar with a question mark icon, the text 'Mercury Quality Center', and several menu items: 'ツール', 'ヘルプ', and 'ログアウト'. Below this is a sub-navigation bar with 'サイト管理者' and a dropdown arrow, followed by tabs for 'プロジェクト', 'ユーザ', '接続', 'ライセンス', 'サークル', 'DB サークル', and 'サイト構成'. The '接続' tab is selected. Below the tabs is a '切断' button with a refresh icon. The main area contains a table with the following columns: 'ドメイン', 'プロジェクト名', 'ユーザ名', 'ホスト', 'ログイン時間', '最終アクション', 'クライアントの種類', and an icon column. The table has three rows of data. Below the table, it says '合計接続数: 3'. At the bottom, there are two status indicators: '使用中の不具合モジュールライセンス' and '使用中の Mercury Quality Center ライセンス'.

ドメイン	プロジェクト名	ユーザ名	ホスト	ログイン時間	最終アクション	クライアントの種類	アイコン
DEFAULT	QualityCenter_Demo	admin	MARS	5/3/04 11:27 AM	5/3/04 11:27 AM	Quality Center Clien	✓
DEFAULT	QualityCenter_Demo	alice_qc	LEATHER	5/3/04 11:20 AM	5/3/04 11:21 AM	Quality Center Clien	✓
DEFAULT	QualityCenter_Demo	alex_qc	BINDER	5/3/04 11:19 AM	5/3/04 11:19 AM	Quality Center Clien	✓

合計接続数: 3

使用中の不具合モジュールライセンス
使用中の Mercury Quality Center ライセンス



- 2 [接続] リストを最新の情報に更新するには、[**接続リストの更新**] ボタンをクリックします。

[接続] リストを自動的に最新の情報に更新するよう Quality Center に指示するには、[**接続リストの更新**] ボタンの下向き矢印をクリックし、[**自動更新**] を選択します。標準では、[接続] リストは 60 秒ごとに自動的に最新の情報に更新されます。自動更新の頻度を変更するには、[**接続リストの更新**] の下向き矢印をクリックし、[**更新率の設定**] を選択します。[更新率の設定] ダイアログ・ボックスで、新しい更新頻度を秒単位で指定します。



- 3 ユーザをプロジェクトから切断するには、行を選択し、[**ユーザの切断**] ボタンをクリックします。続行する場合は [はい] ボタンをクリックします。

Quality Center ライセンスの管理

使用中のライセンスの総数や、各 Quality Center モジュールに対して持っているライセンスの最大数を表示できます。QuickTest Professional など、他の Mercury のツールが Quality Center プロジェクトに接続されているときには、これらのツールで使用されているライセンス総数を表示することができます。ライセンス・ファイルを変更することもできます。

注：各ユーザが現在使用している Quality Center ライセンスを表示するには、[**接続**] タブをクリックします。詳細については、65 ページ「ユーザ接続の監視」を参照してください。

Quality Center ライセンスを管理するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の「**ライセンス**」タブをクリックします。

ライセンス	使用中	最高
コンピュータ	0	無制限
テスト計画 - テストラボ	0	無制限
不具合	0	無制限
要件	0	無制限

期限:	無制限	トランス:	10%
バージョンコントロール:	Y	詳細レポート:	N
タスクレポート:	N		



- 2 「ライセンス」タブに表示されているライセンス情報を最新の情報に更新するには、「**ライセンス リストの更新**」ボタンをクリックします。



- 3 ライセンスを変更するには、「**ライセンスの修正**」ボタンをクリックします。「**ライセンス編集**」ダイアログ・ボックスが開きます。ライセンス・ファイルをロードするには、「**ライセンスのロード**」をクリックしてファイルを選択します。あるいは、ライセンス・ファイルをコピーして「**ライセンスの貼り付け**」をクリックします。「**OK**」をクリックします。

第 6 章

サーバとパラメータの設定

「サイト管理者」を使用すると、Quality Center サーバおよび「サイト管理者」サーバの設定、データベース・サーバの定義と変更、設定パラメータの設定が行えます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ サーバとパラメータの設定について
- ▶ サーバ情報の設定
- ▶ 新しいデータベース・サーバの定義
- ▶ データベース・サーバのプロパティの変更
- ▶ Quality Center 設定パラメータの設定

サーバとパラメータの設定について

Quality Center サーバ情報および「サイト管理者」サーバ情報を設定するには、**[サーバ]** タブを使用します。サーバのログ・ファイル、Quality Center メール・プロトコル、データベース・ハンドルの最大数を設定できます。詳細については、70 ページ「サーバ情報の設定」を参照してください。

インストール時に定義されなかったデータベース・サーバを定義するには、**[DB サーバ]** タブを使用します。各データベース・サーバについて、データベースの種類、データベース名、標準の接続文字列、管理者ユーザとパスワードを入力します。詳細については、73 ページ「新しいデータベース・サーバの定義」を参照してください。

また、[DB サーバ] タブは、標準のユーザ・パスワードなど、既存のデータベース・サーバの定義を変更するためにも使用します。詳細については、76 ページ「データベース・サーバのプロパティの変更」を参照してください。

Quality Center 設定パラメータを追加および変更するには、[サイト構成] タブを使用します。詳細については、78 ページ「Quality Center 設定パラメータの設定」を参照してください。

サーバ情報の設定

Quality Center サーバ情報および「サイト管理者」サーバ情報の設定を行うことができます。情報には次の内容が含まれます。

- ▶ **Quality Center サーバのログ・ファイルの設定**：Quality Center サーバでは、すべての Quality Center イベント、つまり要求を Quality Center プロジェクトに送信する API 関数が、ログ・ファイルに書き込まれます。ログ・ファイルには関数を実行した日時が表示されます。これにより、Mercury のカスタマー・サポートは、必要に応じてエラーの発生場所を追跡できます。標準設定では、Quality Center サーバではイベントが自動的に記録されません。
- ▶ **Quality Center メール・プロトコルの設定**：Quality Center では、電子メールを使用して、プロジェクト・ユーザにプロジェクト情報が送信されます。Quality Center サーバによって使用される電子メール・プロトコルを選択することができます。Quality Center サーバでは SMTP のメール・プロトコルがサポートされています。
- ▶ **データベース接続の最大数の設定**：Quality Center サーバでは、データベース・サーバのプロジェクトごとに複数の接続を開くことができます。各プロジェクトで Quality Center サーバが開くことのできる、同時に接続可能な最大数を設定できます。

Quality Center のサーバ情報を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の「**サーバ**」タブをクリックします。



- 2 サーバ・リストで、サーバを展開します。
- 3 「サイト管理者」サーバ情報を設定するには、「**サイト管理者**」を選択します。Quality Center のサーバ情報を設定するには、「**Quality Center**」を選択します。
[**一般設定**] に、サーバ・アドレスと仮想ディレクトリ名が表示されます。「サイト管理者」サーバの仮想ディレクトリ名は、**sabin** です。Quality Center サーバの仮想ディレクトリ名は、**qcbin** です。
- 4 [**ログファイルの設定**] の [**ログファイルのステータス**] リンクをクリックし、サーバが作成するログ・ファイルの種類を設定します。[ログのステータス] ダイアログ・ボックスで、次のオプションを1つ選択します。
 - ▶ [**デバッグ**] : デバッグするのに最も有用なイベントを記録します。
 - ▶ [**フロー**] : アプリケーション・フローが強調される情報メッセージを記録します。
 - ▶ [**エラー**] : エラー・イベントを記録します。
 - ▶ [**なし**] : ログ・ファイルを作成しません。

- ▶ **[警告]**：悪影響を及ぼす可能性のある状況を記録します。
- 5 **[ログ最大行数]** リンクをクリックして **[ログ最大行数]** ダイアログ・ボックスを開き、Quality Center サーバがログ・ファイルに書き込める最大行数を設定します。ログ・ファイルが最大行数に達すると、Quality Center によって新しいログ・ファイルが作成されます。標準の値は 10,000 です。
- 6 **[ログ最高日数]** リンクをクリックして **[ログ最高日数]** ダイアログ・ボックスを開き、Quality Center サーバがログ・ファイルを保持できる最大日数を設定します。標準の値は**無制限**です (-1 と表示されます)。
- 7 **[ログ ファイル保管場所]** リンクをクリックし、ログ・ファイルのディレクトリ・パスを変更します。**[ログ ファイル保管場所]** ダイアログ・ボックスに、ログ・ファイルの新しい場所を入力します。
- 8 Quality Center のサーバ情報を設定している場合には、Quality Center サーバによって使用されるメール・サービスを設定できます。**[電子メールの送信プロトコル]** リンクをクリックして、**[電子メールプロトコルの設定]** ダイアログ・ボックスで次のオプションから 1 つを選択します。
 - ▶ **[なし]**：このオプションを選択した場合、Quality Center は電子メールを送信しません。
 - ▶ **[SMTP サーバ]**：SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サーバ・オプションでは、ネットワーク上のローカル・サーバを使用してメールが送信されます。ローカル・エリア・ネットワークで使用できる SMTP サーバのアドレスを入力します。
 - ▶ **[Microsoft IIS SMTP サービス]**：SMTP (Simple Mail Transfer Protocol) サービス・オプションでは、コンピュータ上のローカル・サーバを使用してメールが送信されます。このオプションは、Microsoft IIS のインストール中に、Microsoft IIS SMTP サービスをインストールした場合に有効になります。

詳細については、『Mercury Quality Center インストール・ガイド』を参照してください。
- 9 Quality Center のサーバ情報を設定している場合は、各プロジェクトで Quality Center サーバが開くことのできる、同時に接続可能な最大数を設定できます。**[データベース最大接続数]** リンクをクリックして **[データベース最大接続数]** ダイアログ・ボックスを開き、同時に接続可能な最大数を設定します。
- 10 サーバ・リストから Quality Center サーバを削除するには、Quality Center サーバを選択して **[QCServer の削除]** ボタンをクリックします。削除を続行する場合は **[はい]** をクリックします。



- 11 **「QC サーバリストの更新」** ボタンをクリックし、サーバ・リストを最新の情報に更新します。

新しいデータベース・サーバの定義

インストール時に定義されなかった追加のデータベース・サーバを定義できます。

注：Quality Center に必要な Oracle 権限または Microsoft SQL 権限の詳細については、Quality Center Knowledge Base (<http://support.mercury.com>) を参照してください。Oracle 権限については ID 32903 を、Microsoft SQL 権限については ID 32905 検索してください。

新しいデータベース・サーバを定義するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の **「DB サーバ」** タブをクリックします。



- 2 [新規] ボタンをクリックします。[データベース サーバの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。

- 3 [データベースの種類] で、作成するデータベース・サーバの種類を選択します。
 - ▶ **Microsoft SQL (SQL 認証)** : SQL 認証を使用します。
 - ▶ **Microsoft SQL (Win 認証)** : Windows 認証を使用します。
 - ▶ **Oracle**
- 4 [データベースの値] の [データベース名] ボックスに、データベース名を入力します。
- 5 [DB 管理者ユーザ] ボックスに、データベース管理者のログイン名を入力します。
 - ▶ 「Oracle」データベースの場合、Quality Center プロジェクトの作成を可能にする標準の管理者ユーザ・アカウントは **system** です。

- ▶ 「MS-SQL (SQL 認証)」データベースの場合、Quality Center プロジェクトの作成を可能にする標準の管理者ユーザ・アカウントは **sa** です。
 - ▶ 「MS-SQL (Win 認証)」データベースの場合、**[DB 管理者ユーザ]** ボックスは使用できません。データベース管理者のログイン名は、Quality Center をサービスとして実行するように設定された Windows ユーザです。
- 6 **[DB 管理者パスワード]** ボックスに、データベース管理者のパスワードを入力します。データベースの種類として「**MS-SQL (Win 認証)**」を選択した場合、このフィールドは使用できません。
 - 7 **[パスワードの再入力]** ボックスに、パスワードを再度入力します。
 - 8 **[標準設定接続文字列]** で、標準の接続文字列パラメータまたは接続文字列を、次のようにして編集することができます。
 - ▶ 標準文字列パラメータを編集するには、**[接続文字列パラメータ]** を選択し、次のパラメータを定義します。

パラメータ	説明
[サーバホスト]	サーバ名です。
[ポート]	データベース・サーバのポート番号です。
[SID]	Oracle データベース・サーバ用のサービス ID です。
[名前付きパイプ]	SQL データベース・サーバに接続するための、名前付きパイプです。

- ▶ 接続文字列を編集するには、**[接続文字列]** を選択して接続文字列を編集します。



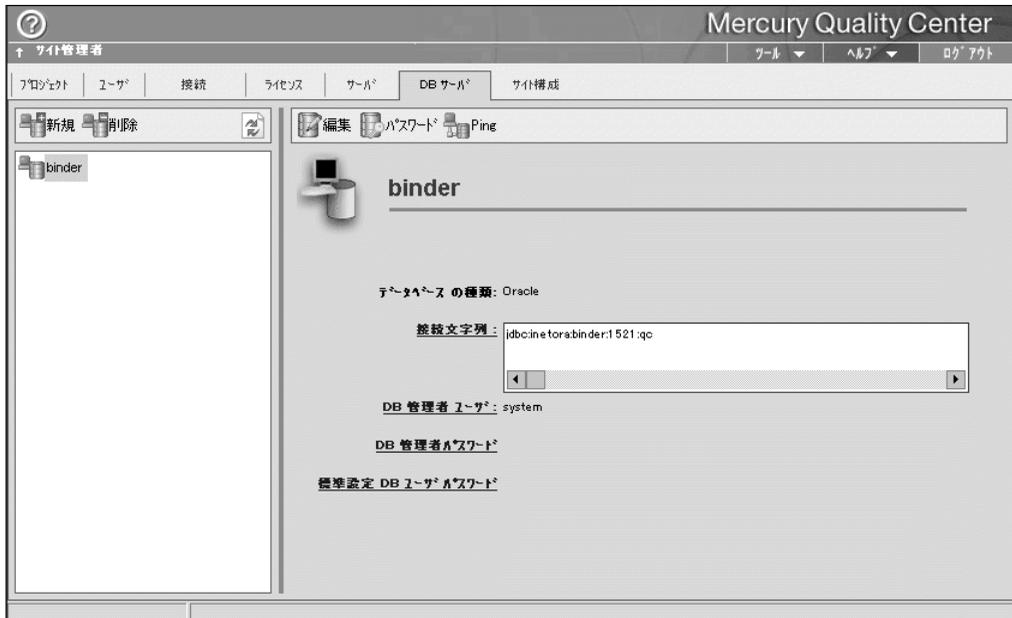
- 9 データベース・サーバに接続できるかどうかチェックするには、**[Ping]** ボタンをクリックします。入力した DB 管理者ユーザとパスワードが、**[Ping データベースサーバ]** ダイアログ・ボックスに表示されます。**[OK]** をクリックします。
- 10 **[OK]** をクリックし、**[データベースサーバの作成]** ダイアログ・ボックスを閉じます。定義した新しいデータベース・サーバがデータベース・サーバ・リストに表示されます。

データベース・サーバのプロパティの変更

インストール時に定義したデータベース・サーバのプロパティを変更できます。

データベース・サーバのプロパティを変更するには、次の手順を実行します。

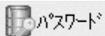
- 1 「サイト管理者」の **[DB サーバ]** タブをクリックします。
- 2 データベース・サーバ・リストからデータベース・サーバを選択します。



- 3 接続文字列を変更するには、**[編集]** ボタンをクリックするか、**[接続文字列]** リンクをクリックします。**[接続文字列エディタ]** で接続文字列を編集し、**[OK]** をクリックします。接続文字列の詳細については、73 ページ「新しいデータベース・サーバの定義」を参照してください。

- 4 データベース管理者のログイン名を変更するには、**[DB 管理者ユーザ]** リンクをクリックします。**[既定管理者ユーザ]** ダイアログ・ボックスに新しいログイン名を入力し、**[OK]** をクリックします。

データベース管理者の新しいログイン名定義の詳細については、74 ページ「新しいデータベース・サーバの定義」(手順5)を参照してください。



- 5 データベース管理者のパスワードを変更するには、**[パスワード]** ボタンをクリックするか、**[DB 管理者パスワード]** リンクをクリックします。**[データ**

ベース管理者パスワードを設定] ダイアログ・ボックスに、新しいパスワードを入力し、更に再入力します。[OK] をクリックします。

- 6 MS-SQL サーバを選択した場合は、[QC ユーザ パスワード] リンクをクリックし、ユーザ QC の標準のパスワードを変更します。このユーザは、Quality Center でプロジェクトを作成するユーザです。[標準設定 QC ユーザ パスワードの変更] ダイアログ・ボックスに、新しいパスワードを入力し、更に再入力します。[OK] をクリックします。
- 7 Oracle サーバを選択した場合は、[標準設定 DB ユーザ パスワード] リンクをクリックし、標準のユーザ・パスワードを変更します。[データベースの標準設定ユーザ パスワードの変更] ダイアログ・ボックスに、新しいパスワードを入力し、更に再入力します。[OK] をクリックします。

注： Oracle データベース・サーバでは、プロジェクトとユーザは同一のもので、プロジェクトまたはユーザごとに独自のパスワードを設定する場合は、作成するプロジェクトごとに、固有のデータベース名とユーザ・パスワードが設定された新しいデータベース・サーバを定義する必要があります。



- 8 データベース・サーバに接続できるかどうかチェックするには、[Ping] ボタンをクリックします。入力した DB 管理者ユーザとパスワードが [Ping データベースサーバ] ダイアログ・ボックスに表示されます。[OK] をクリックします。



- 9 データベース・サーバ・リストからデータベース・サーバを削除するには、データベース・サーバを選択し、[削除] ボタンをクリックします。続行する場合は、[はい] ボタンをクリックします。

Quality Center 設定パラメータの設定

既存の Quality Center 設定パラメータを変更したり、新しい Quality Center 設定パラメータを追加したりするには、[**サイト構成**] タブを使用します。

次に示す、標準の Quality Center 設定パラメータは変更できます。

パラメータ	説明
ATTACH_MAX_SIZE	Quality Center から電子メールで送信できる添付ファイルの最大サイズ (KB 単位)。添付ファイルのサイズが指定した値より大きい場合は、添付ファイルなしの状態です。標準では、電子メールに添付できるファイルの最大サイズは 3,000 KB です。
AUTO_MAIL_WITH_ATTACHMENT (以前の SAQ_MAIL_WITH_ATTACHMENT)	このパラメータが「Y」(標準) に設定されている場合は、不具合に関する電子メールが添付ファイル付きで送信されます。[プロジェクト] タブで [不具合のメールを自動的に送信する] を選択した場合にのみ、この設定が適用されます。詳細については第 11 章「メールの設定」を参照してください。 注 ：後方互換性維持のため、以前のパラメータ名もサポートされます。
AUTO_MAIL_WITH_HISTORY (formerly SAQ_MAIL_WITH_HISTORY)	このパラメータが「Y」(標準) に設定されている場合は、不具合に関する電子メールが履歴付きで送信されます。[プロジェクト] タブで [不具合のメールを自動的に送信する] を選択した場合にのみ、この設定が適用されます。詳細については、第 11 章「メールの設定」を参照してください。 注 ：後方互換性維持のため、以前のパラメータ名もサポートされます。
BASE_REPOSITORY_PATH	リポジトリ・パスのベースです。Quality Center および「サイト管理者」のリポジトリは、このリポジトリのサブフォルダです。このパラメータ値を変更する場合は、リポジトリを新しい場所にコピーしてから、クラスタ内のすべてのサーバを再起動する必要があります。

パラメータ	説明
CREATE_HTTP_SESSION	このパラメータが「Y」に設定されている場合、Quality Center は HTTP セッションを作成します。これは、クラスタ内で Quality Center のロード・バランシングを行う場合、セッションを維持するために役立ちます。 標準では、このパラメータは「N」に設定されています。
CUSTOM_ENABLE_USER_ADMIN	このパラメータが「N」に設定されている場合、新しい Quality Center ユーザを「サイト管理者」([ユーザ] タブ) からのみ追加できます。 このパラメータが「Y」(標準) に設定されている場合、新しい Quality Center ユーザを [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウからも追加できます。[ユーザの設定] ダイアログ・ボックスで、[ユーザの追加] をクリックします。[ユーザをプロジェクトへ追加] ダイアログ・ボックスが開きます。このパラメータが「Y」に設定されている場合は、新しい Quality Center ユーザを追加するための [新規] ボタンが使用可能です。詳細については、100 ページ「プロジェクトへのユーザの追加」を参照してください。
LDAP_SEARCH_USER_CRITERIA	ドメイン認証プロパティがユーザの識別名 (DN) を含まない場合に、LDAP の検索条件として使用される Quality Center ユーザ・プロパティのカンマで区切られたリスト。複数の結果が見つかった場合は、プロパティの順番で優先順位が定義されます。指定できる値は次のとおりです。 username, email, fullname, phone, description LDAP の詳細については、62 ページ「ユーザに対する LDAP 認証の有効化」を参照してください。
LICENSE_ARCHIVE_PERIOD	ライセンス使用状況がアーカイブされている間の時間間隔 (単位: 日)。この期間より前のライセンス使用状況はアーカイブから削除されます。 標準では、 365 日に設定されています。この値を -1 に設定した場合は、ライセンスのアーカイブ期間は制限されません。
LOCK_TIMEOUT	Quality Center オブジェクトをロックしたままにできる最大時間。この時間が過ぎると、ロックが削除されます。標準では、 10 時間に設定されています。

パラメータ	説明
MAIL_FORMAT	Quality Center が電子メールの送信に使用する形式。標準では、形式は「HTML」に設定されています。電子メールを普通のテキストとして送信するよう Quality Center に指示するには、値を「Text」に変更します。Quality Center は、不具合、要件、テスト、テストセットに関する通知を Quality Center のユーザに電子メールで知らせます。
MAIL_INTERVAL	メールの設定に従って不具合に関する電子メールを送信する時間間隔 (単位:分)。標準では、10 分に設定されています。[プロジェクト] タブで [不具合のメールを自動的に送信する] を選択した場合にのみ、この設定が適用されます。メールの設定の詳細については第 11 章「メールの設定」を参照してください。
MAIL_MESSAGE_CHARSET	ユーザに電子メールを送信するときに、Quality Center によって使用される文字セット。標準では、UTF-8 に設定されています。
VC 注：このパラメータは、Quality Center Enterprise Edition でのみ有効です。	このパラメータが「Y」に設定されている場合は、バージョン管理が有効です。バージョン管理を有効にすると、どのプロジェクトに対してもバージョン管理データベースを作成できます。 このパラメータが「N」(標準)に設定されている場合は、バージョン管理が無効です。 注：バージョン管理機能を使用するには、サポートされているバージョン管理ツール、Mercury Quality Center バージョン・コントロール・アドインを Quality Center サーバにインストールする必要があります。Mercury Quality Center アドインの詳細については、『Mercury Quality Center インストール・ガイド』を参照してください。
WAIT_BEFORE_DISCONNECT	Quality Centerr クライアントが Quality Center サーバから切断されるまでに非アクティブでいられる時間 (分単位)。クライアントを切断すると、別の Quality Center ユーザがこのライセンスを使用できるようになります。標準では、600 分に設定されています。この値を -1 に設定した場合、クライアントは、切断されることなく無制限に非アクティブでいられます。

次の Quality Center 設定パラメータを追加することができます。

パラメータ	説明
<p>AUTO_MAIL_SUBJECT_FORMAT (以前の SAQFORMAT)</p>	<p>このパラメータを設定すると、ユーザに自動的に送信される不具合に関する電子メールの題名をカスタマイズできます。</p> <p>例えば、題名を「Defect no. 4321 has changed」と定義するには、このパラメータに Defect no. ?BG_BUG_ID has changed という値を設定します。Defect no. と has changed は文字列で、BG_BUG_ID は Quality Center のフィールド名です。</p> <p>特定のプロジェクトの題名をカスタマイズする方法については、149 ページ「不具合に関するメールの題名のカスタマイズ」を参照してください。</p> <p>注： 後方互換性維持のため、以前のパラメータ名もサポートされます。</p>
<p>COPY_PASTE_CHANGES_OWNER</p>	<p>このパラメータを設定すると、コピーしたオブジェクトの特定のフィールドにオブジェクトをコピーしたユーザが一覧表示されるよう指定することができます。フィールド・タイプとしてユーザ・リストを持つフィールドの詳細については、132 ページ「プロジェクト・エンティティのカスタマイズ」を参照してください。</p> <p>このパラメータの値は、ユーザ・リスト・フィールドのカンマで区切られたリストとなります。</p> <p>例えば、BG_DETECTED_BY にパラメータの値を設定します。不具合 10 がユーザ Cecil_qc によって検出され、ユーザ Shelly_qc が不具合 10 をコピーしたとします。Quality Center により、検出者が Cecil_qc ではなく Shelly_qc の不具合のコピーが作成されます。</p>

パラメータ	説明
DIRECTORY_TIME_LIMIT_CONSTRAINT	<p>Quality Center が LDAP 操作を中止する前に待機する時間（ミリ秒単位）。</p> <p>LDAP 操作に時間制限を設定することは、LDAP が問題に遭遇して Quality Center が永久に待機するという事態を回避します。標準設定のタイムアウトの値は 10 分（60,000 ミリ秒）です。</p> <p>LDAP の使用の詳細については、第 4 章「Quality Center ユーザの管理」を参照してください。</p>
DISABLE_COMMAND_INTERFACE	<p>このパラメータが「Y」（標準）に設定されている場合、TAdmin グループに属するユーザだけが OTA の Command オブジェクトを使用できます。</p> <p>このパラメータが「N」に設定されている場合は、任意のユーザがこのオブジェクトを使用できます。</p> <p>詳細については、『Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ・ガイド』を参照してください。</p>
DISABLE_EXTENDED_STORAGE	<p>このパラメータは、OTA の ExtendedStorage オブジェクトへのユーザ・アクセスを制御します。これは、プロジェクトのファイル・システムへのアクセスを制限するのに使用できるセキュリティ機能です。</p> <p>このパラメータが「Y」（標準）に設定されている場合、ExtendedStorage オブジェクトは TDCConnection からアクセスできません。ユーザは特定のエンティティからこのオブジェクトに読み取り専用でアクセスできますが、変更することはできません。</p> <p>このパラメータが「N」に設定されている場合は、すべてのユーザが特定のエンティティまたは TDCConnection から ExtendedStorage オブジェクトにアクセスできます。</p> <p>ExtendedStorage オブジェクトの詳細については、『Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス』を参照してください。</p>

パラメータ	説明
HEBREW	<p>このパラメータが「Y」に設定されている場合、Quality Center サーバでヘブライ語が使用可能であることを示します。各プロジェクトでは、[プロジェクト] タブの [ヘブライ語の使用を可能にする] チェック・ボックスを選択することによって、ヘブライ語を使用可能にできます。ユーザがヘブライ語の使用可能なプロジェクトで作業している場合、[ツール] > [読み取り順序] > [右から左] を選択することによって、英語とヘブライ語の切り替えを行うことができます。</p>
LR DIRECTFILEACCESS	<p>このパラメータは、LoadRunner と統合する場合に適用します。このパラメータを「Y」に設定すると、Quality Center クライアント / サーバと同じ LAN 上にあるスクリプトに直接アクセスできるようになります。</p> <p>注： UNIX あるいは Linux 環境では、UNIX_SERVER パラメータも設定する必要があります。</p>
MIGRATION_MAX_NUMBER_OF_PROJECTS	<p>TestDirector から Quality Center に一度に移行するプロジェクトの最大数。標準設定では、一度に 50 プロジェクトまで移行できます。</p> <p>移行の詳細については、38 ページ「TestDirector プロジェクトの Quality Center 8.2 SP1 への移行」を参照してください。</p>

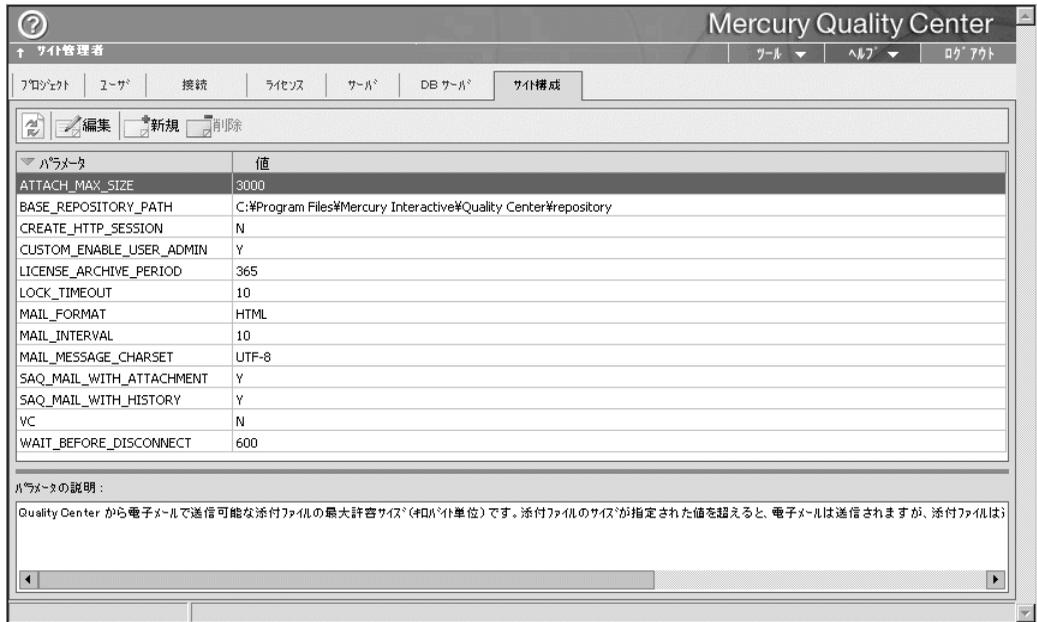
パラメータ	説明
<p>NLS_SEARCH_LOCALE</p>	<p>不具合サマリをトークン化する際に Find Similar Defects コマンドによって使用される言語。このパラメータは、単語の区切りにスペースを使用するかどうかという点において、サーバの標準設定のロケールが不具合サマリを記述する言語と一致しない場合のみ必要です。</p> <p>値は ISO 639 http://www.w3.org/WAI/ER/IG/ert/iso639.htm に含まれる言語コードと一致する文字列値でなければなりません。</p> <p>例えば、標準設定のロケールが英語で、テキストが単語の区切りにスペースを使用しない日本語である場合は、次のように設定します。 NLS_SEARCH_LOCALE=ja</p> <p>このパラメータが定義されていない場合、あるいは無効である場合は、サーバの標準設定のロケールが使用されます。</p>
<p>REPLACE_TITLE</p>	<p>このパラメータを設定すると、すべてのプロジェクトの Quality Center モジュールの名前を変更できます。</p> <p>次のパラメータ値を入力して、1つまたは複数のモジュール名を変更します。</p> <p><元のタイトル1 [単数形]> ; <新しいタイトル1 [単数形]> ; <元のタイトル1 [複数形]> ; <新しいタイトル1 [複数形]> ; <元のタイトル2 [単数形]> ; <新しいタイトル2 [単数形]> ; ...</p> <p>例えば、モジュールの名前を Defects（不具合）から Bugs（バグ）に変更し、Requirements（要件）から Goals に変更する場合は、[値] ボックスに次のように入力します。</p> <p>Defect;Bug;Defects;Bugs;Requirement;Goal;Requirements;Goals</p> <p>注：特定のプロジェクトの不具合モジュール名を定義するには、32 ページ「プロジェクトの不具合モジュール名の変更」を参照してください。</p>

パラメータ	説明
REQUIREMENT_REVIEWED_FIELD_AUTOMATIC_UPDATE	<p>このパラメータが「Y」（標準）に設定されている場合、要件フィールドに任意の変更を行うと [Reviewed (RQ_REQ_REVIEWED)] フィールドが自動的に「Not Reviewed」に設定されます。</p> <p>このパラメータが「N」に設定されている場合は、要件フィールドを変更しても [Reviewed] フィールドには影響しません。</p>
SECURED_QC_URL	<p>Quality Center が電子メールを生成すると、電子メールに Quality Center へのリンクが含まれます。</p> <p>このパラメータが「Y」に設定されている場合、Quality Center URL は SSL 接続を使用します (https: で始まります)。</p> <p>このパラメータが「N」（標準）に設定されている場合は、SSL 接続は使用されません。</p>

パラメータ	説明
UNIX_SERVER	<p>このパラメータが「Y」に設定されている場合、Windows コンピュータのテスト・ツールから UNIX ベースのリポジトリへのファイル・アクセスを直接行うことができます。</p> <p>その後、次のようにして、外部からアクセスする UNIX サーバ・コンピュータ上の各ディレクトリに新しいパラメータを追加し、対応する Windows のパスを指定する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パラメータ名は FOLDER_MAPPING_n です。n には識別する数値を指定します。 例：FOLDER_MAPPING_1 ● パラメータ値は <UNIX パス>-><Windows パス> の形式になります。 例：/opt/Mercury/repository/qc/->\\netapp\qc\repository\ <p>注：このパラメータは、WinRunner および LoadRunner に適用されます。</p>
WR DIRECTFILEACCESS	<p>このパラメータは、WinRunner と統合する場合に適用します。このパラメータを「Y」に設定すると、Quality Center クライアント/サーバと同じ LAN 上にあるスクリプトに直接アクセスできるようになります。</p> <p>注：UNIX あるいは Linux 環境では、UNIX_SERVER パラメータも設定する必要があります。</p>

Quality Center パラメータを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」の「**サイト構成**」タブをクリックします。



- 2 パラメータを編集するには、リストからパラメータを選択し、**編集** ボタンをクリックします。[パラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。新しい値と値の説明を入力し、**OK** をクリックします。



- 3 新しいパラメータをリストに追加するには、**新規** ボタンをクリックします。[パラメータの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。追加するパラメータの名前、値、説明を入力します。**OK** をクリックします。



- 4 リストからパラメータを削除するには、パラメータを選択し、**削除** ボタンをクリックします。続行する場合は **はい** ボタンをクリックします。



- 5 **パラメータ リストの更新** ボタンをクリックすると、パラメータ・リストが最新の情報に更新されます。

第2部

プロジェクトのカスタマイズ

第7章

プロジェクトのカスタマイズの概要

プロジェクトのカスタマイズ機能を利用して、プロジェクトにアクセスできるユーザを定義したり、各ユーザが実行できるタスクの種類を指定したりすることにより、プロジェクトへのアクセスを制御します。また、テスト・チームの個別の要件に合わせてプロジェクトをカスタマイズすることもできます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ プロジェクトのカスタマイズの開始
- ▶ [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウについて

プロジェクトのカスタマイズの開始

Quality Center プロジェクトは [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウを使用してカスタマイズできます。

プロジェクトのカスタマイズを開始するには、次の手順を実行します。

- 1 Web ブラウザを起動し、Quality Center の URL として、`http:// < Quality Center サーバ名 > /qcbin` を入力します。Mercury Quality Center の初期ウィンドウが表示されます。



- 2 [**Mercury Quality Center**] リンクをクリックします。

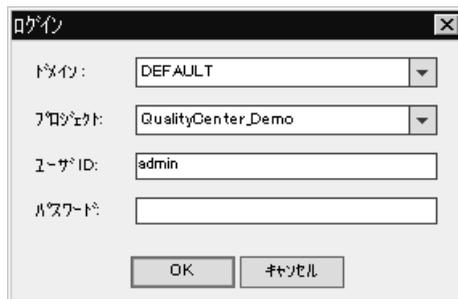
Quality Center を初めて実行すると、アプリケーションがコンピュータにダウンロードされます。2 回目以降の実行では、Quality Center によって自動的にバージョン確認が行われます。サーバに新しいバージョンがあることが検出されると、そのバージョンがコンピュータにダウンロードされます。Quality Center のダウンロードには数分かかる場合があります。

注：コンピュータにファイルをダウンロードするには、管理者権限でログインする必要があります。管理者権限が必要となるのは、Quality Center の最初の実行、新しいバージョンへのアップグレード、またはサービス・パックを適用する場合です。

Quality Center のバージョンが確認され、必要に応じて更新されると、Mercury Quality Center のログイン・ウィンドウが開きます。



- 3 [カスタマイズ] リンクをクリックします。[ログイン] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 4 [ドメイン] リストからドメインを選択します。

注：Quality Center Standard Edition では、**DEFAULT** ドメインのみ使用できます。

- 5 [プロジェクト] リストから、プロジェクトを選択します。
- 6 [ユーザ ID] ボックスに、「admin」と入力するか、Quality Center の管理者権限を持つユーザ名（最大 20 文字）を入力します。

注：標準では、管理者権限を持たないユーザ名を入力した場合は、「パスワードの変更」と「ユーザ・プロパティの変更」という2つのカスタマイズ機能のみ使用できます。詳細については、126 ページ「[管理者] のタスク」を参照してください。

- 7 [パスワード] ボックスに、パスワードを入力します。
標準では、管理者用のパスワードは設定されていません。パスワードの定義または変更の詳細については、61 ページ「パスワードの変更」を参照してください。
- 8 [OK] をクリックします。[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウが表示されます。
- 9 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウを終了し、Mercury Quality Center のログイン・ウィンドウへ戻るには、ウィンドウの右上にある [ログアウト] ボタンをクリックします。

ログアウト

[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウについて

[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウでは、テスト・チームの個別の要件に合わせてプロジェクトをカスタマイズできます。



[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウには、次のリンクがあります。

- ▶ **[パスワードの変更]**：ユーザは、このオプションを使用して自分のパスワードを変更できます。詳細については、『**Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

管理者は、「サイト管理者」の **[ユーザ]** タブでユーザのパスワードのオーバーライドと変更が行えます。詳細については、61 ページ「パスワードの変更」を参照してください。

- ▶ **[ユーザ プロパティの変更]**：管理者以外のユーザは、このオプションを使用して自分のプロパティを変更できます。詳細については、『**Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

管理者は、「サイト管理者」の **[ユーザ]** タブでユーザのプロパティのオーバーライドと変更が行えます。詳細については、59 ページ「ユーザ・プロパティの定義」を参照してください。

- ▶ **[ユーザの設定]**：Quality Center プロジェクトを対象にユーザの追加と削除を行います。ユーザのアクセス権を制限するために、ユーザをユーザ・グループに

割り当てることもできます。詳細については、第8章「プロジェクト内のユーザの管理」を参照してください。

Quality Center ユーザの作成とユーザ・プロパティの定義は「サイト管理者」で行います。詳細については、第4章「Quality Center ユーザの管理」を参照してください。

- ▶ **[グループの設定]**：権限の設定を指定することにより、ユーザ・グループに権限を割り当てることができます。これには移行ルールの指定やデータの非表示も含まれます。詳細については、第9章「ユーザ・グループと権限の管理」を参照してください。
- ▶ **[モジュールへのアクセスのカスタマイズ]**：プロジェクトのユーザ・グループごとにライセンスを設定できます。「Quality Center」ライセンスを指定すると、ユーザ・グループはQuality Center内のすべてのモジュールにアクセスできます。[不具合モジュール]ライセンスを指定すると、ユーザ・グループは不具合モジュールのみにアクセスできます。詳細については、128ページ「ユーザ・グループのモジュールへのアクセスのカスタマイズ」を参照してください。各ユーザ・グループがアクセスできるモジュールを制御できます。不必要なモジュールへのアクセスを防ぐため、Quality Center ライセンスを使用することをお勧めします。詳細については、128ページ「ユーザ・グループのモジュールへのアクセスのカスタマイズ」を参照してください。
- ▶ **[プロジェクト エンティティのカスタマイズ]**：テスト環境に合わせて Quality Center プロジェクトをカスタマイズできます。プロジェクトにはシステム・フィールドとユーザ定義フィールドがあります。システム・フィールドは変更可能です。ユーザ定義フィールドは、追加、変更、および削除が可能です。詳細については、132ページ「プロジェクト・エンティティのカスタマイズ」を参照してください。
- ▶ **[プロジェクト リストのカスタマイズ]**：カスタマイズしたフィールド・リストをプロジェクトに追加できます。リストには、システム・フィールドまたはユーザ定義フィールドに入力できる値が含まれています。詳細については、140ページ「プロジェクト・リストのカスタマイズ」を参照してください。
- ▶ **[メールの設定]**：不具合の修正状況をユーザに定期的に知らせるように、メールを設定できます。詳細については、第11章「メールの設定」を参照してください。
- ▶ **[トレーサビリティ通知ルールの設定]**：プロジェクトのトレーサビリティ通知ルールを有効にできます。これによって、プロジェクトで変更が発生すると警告が作成され、トレーサビリティ通知電子メールが送信されます。詳細については、第12章「トレーサビリティ通知ルールの設定」を参照してください。

- ▶ **[ワークフローの設定]**：不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのフィールドに対して一般的に必要なカスタマイズを行うためのスクリプトを生成できません詳細については、第13章「ワークフロー・スクリプトの生成」を参照してください。

また、任意のモジュールでダイアログ・ボックスをカスタマイズするスクリプトを記述し、ユーザが実行できるアクションを制御できます。詳細については、第14章「ワークフローのカスタマイズの概要」を参照してください。

第 8 章

プロジェクト内のユーザの管理

Quality Center 管理者は、プロジェクトにログインできるユーザを定義したり、各ユーザが実行できるタスクの種類を指定したりすることにより、プロジェクトへのアクセスを制御できます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ プロジェクト内のユーザの管理について
- ▶ プロジェクトへのユーザの追加
- ▶ ユーザ・グループへのユーザの割り当て
- ▶ プロジェクトからのユーザの削除

プロジェクト内のユーザの管理について

Quality Center プロジェクトごとに、Quality Center の全ユーザのリストからアクセスを認めるユーザのリストを選択する必要があります（ユーザ・リストは「サイト管理者」で作成します。詳細については、第 4 章「Quality Center ユーザの管理」を参照してください）。各プロジェクトには、ローカルの **admin** ユーザと **guest** ユーザも定義されています。

次に、各プロジェクトのユーザを特定のユーザ・グループに割り当てます。各グループは、Quality Center の特定の作業に対するアクセス権を持っています。

プロジェクトへのユーザの追加

新規ユーザを Quality Center プロジェクトに追加するには、「サイト管理者」で作成した Quality Center ユーザ・リストからユーザを選択します。

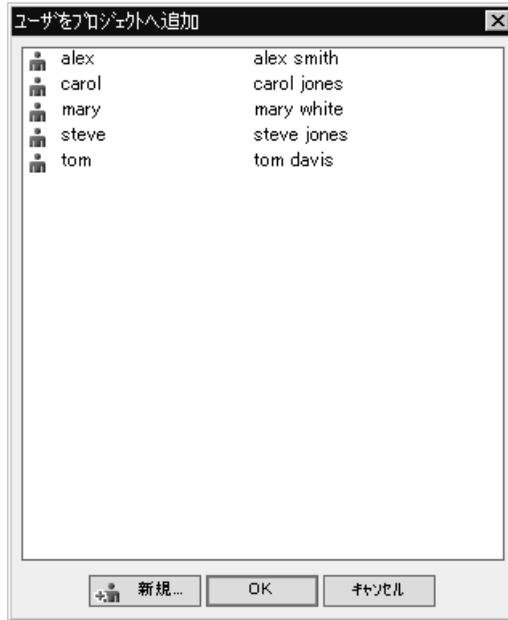
プロジェクトへユーザを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [ユーザの設定] リンクをクリックします。[プロジェクトのユーザの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



[ユーザ名] カラムをクリックすると、ユーザ名の並べ換えの順序を昇順から降順に変更できます。また、ユーザ名ではなく氏名で並べ換えるには、[名前] カラムをクリックします。

- 2 [ユーザの追加] ボタンをクリックします。[ユーザをプロジェクトへ追加] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 [新規] ボタンをクリックして、使用可能なユーザのリストに新しい Quality Center ユーザを追加します。[新規] ボタンが使用可能でない場合は、「サイト管理者」([サイト構成] タブ) の **CUSTOM_ENABLE_USER_ADMIN** パラメータを設定することによって、ボタンを使用可能にすることができます。詳細については、78 ページ「Quality Center 設定パラメータの設定」を参照してください。
- 4 リストからユーザ名を選択し、[OK] をクリックします。
- [プロジェクト ユーザ] リストにユーザが追加され、ユーザのプロパティが表示されます。ユーザのプロパティは「サイト管理者」で定義されます。詳細については、59 ページ「ユーザ・プロパティの定義」を参照してください。
- 5 [OK] をクリックし、[プロジェクトのユーザの設定] ダイアログ・ボックスを閉じます。

ユーザ・グループへのユーザの割り当て

新しいユーザをプロジェクトに追加したら、そのユーザを1つまたは複数のユーザ・グループに割り当てることができます。ユーザは、標準のユーザ・グループにも、カスタマイズされたユーザ・グループにも割り当てることができます。ユーザ・グループのカスタマイズの詳細については、第9章「ユーザ・グループと権限の管理」を参照してください。既存のユーザのアクセス権は、割り当て先のユーザ・グループを変更することで、いつでも変更できます。

注：各 Quality Center プロジェクトには **admin** と **guest** という2つのローカル・ユーザ・タイプが標準で設定されています。admin ユーザは Quality Center 管理者の権限を持ち (TDAdmin ユーザ・グループ)、guest ユーザはビューアの権限を持っています。これらのユーザをプロジェクトから削除することはできません。これらのユーザのプロパティは、「サイト管理者」ではなく、[プロジェクトのユーザの設定] ダイアログ・ボックスで定義する必要があります。

ユーザ・グループへユーザを割り当てるには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [ユーザの設定] リンクをクリックします。[プロジェクトのユーザの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 [プロジェクト ユーザ] リストから、ユーザ・グループに割り当てるユーザを選択します。ユーザのプロパティ（名前、電子メール、電話、説明）が表示されます。

admin と guest 以外のユーザのプロパティは「サイト管理者」で定義します。詳細については、59 ページ「ユーザ・プロパティの定義」を参照してください。

- 3 **admin** ユーザと **guest** ユーザを選択し、現在のプロジェクトに対するユーザ・プロパティを定義します。不具合、テスト、要件、テストセットに関する通知をユーザが直接自分のメール・ボックスに受信することが可能になるため、電子メール情報は重要です。



- 4 選択したユーザをユーザ・グループに割り当てるには、[無所属] リストでユーザ・グループ名をクリックし、左向き矢印のボタンをクリックします。



- 5 現在選択されているユーザ・グループからユーザを削除するには、[所属] リストでユーザ・グループ名をクリックし、右向き矢印のボタンをクリックします。



- 6 全ユーザ・グループを1つのリストから別のリストに移動するには、二重矢印のボタンをクリックします。

- 7 [OK] をクリックして変更を保存し、[プロジェクトのユーザの設定] ダイアログ・ボックスを閉じます。

プロジェクトからのユーザの削除

プロジェクトのセキュリティを確保するには、プロジェクトにかかわっていないユーザを削除します。ユーザをプロジェクトから削除しても、「サイト管理者」の Quality Center ユーザ・リストから削除されるわけではありません。

プロジェクトからユーザを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの **[ユーザの設定]** リンクをクリックします。[プロジェクトのユーザの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 [プロジェクトユーザ] リストから、削除するユーザを選択し、**[ユーザの削除]** ボタンをクリックします。
- 3 **[OK]** をクリックして確定します。[プロジェクトユーザ] リストからユーザが削除されます。
- 4 **[OK]** をクリックし、[プロジェクトのユーザの設定] ダイアログ・ボックスを閉じます。

第 9 章

ユーザ・グループと権限の管理

Quality Center のプロジェクトとモジュールへのアクセスは、これらにアクセスできるユーザ・グループを定義し、各ユーザ・グループが実行するタスクの種類を指定することで制御できます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ ユーザ・グループと権限の管理について
- ▶ ユーザ・グループの追加
- ▶ ユーザ・グループ権限の設定
- ▶ 移行ルールの設定
- ▶ ユーザ・グループに対するデータの非表示
- ▶ ユーザ・グループへの既存の権限セットの割り当て
- ▶ ユーザ・グループ名の変更
- ▶ ユーザ・グループの削除
- ▶ [ユーザの権限の設定] のタスクについて
- ▶ ユーザ・グループのモジュールへのアクセスのカスタマイズ

ユーザ・グループと権限の管理について

チームの各メンバが自分の作業を実行し、不正なアクセスからプロジェクトを保護できるようにするために、Quality Center ではそれぞれのメンバを特定のユーザ・グループに割り当てることができます。Quality Center には、標準の権限を持つ定義済みのユーザ・グループが用意されています。各グループは、Quality Center の特定のタスクに対するアクセス権を持っています。

ユーザ・グループ	権限
TD 管理者	Quality Center プロジェクトにおけるすべての権限を持ちます。
プロジェクトマネージャ	次の Quality Center モジュールにおけるすべての権限を持ちます。要件、テスト計画、テスト・ラボ、および不具合。管理権限の一部も付与されます。
QA テスタ	次の Quality Center モジュールにおけるすべての権限を持ちます。要件、テスト計画、テスト・ラボ。不具合モジュールの場合、このグループは不具合の追加と変更はできますが、削除することはできません。管理権限の一部も付与されます。
開発者	権限は、次のモジュールの添付ファイルの変更に制限されます。要件、テスト計画、テスト・ラボ。不具合モジュールの場合、グループのメンバは不具合の追加と変更はできますが、削除することはできません。管理権限の一部も付与されます。
ビューア	Quality Center プロジェクトにおける読み取り専用の権限を持ちます。

標準で設定されている権限の範囲外の権限が、特定のユーザ・グループに必要なプロジェクトの場合は、カスタマイズしたユーザ・グループの追加や、各グループに固有の権限セットの割り当てを行うことができます。

ユーザ・グループの権限を設定したら、ユーザ・グループがアクセスできる Quality Center モジュールを定義することもできます。ユーザ・グループのメンバがプロジェクトにログインすると、アクセスの許可されているモジュールのみが表示されます。

ユーザ・グループの追加

標準のユーザ・グループがプロジェクトのニーズに合わない場合は、新しいユーザ・グループを作成できます。

ユーザ・グループを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**グループの設定**] リンクをクリックします。[グループの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 [**新規**] ボタンをクリックします。[グループの新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 [名前] ボックスに、グループの名前を入力します。
- 4 [作成して保存] リストで、グループに割り当てる既存のユーザ・グループの権限を指定します。

注：作成する新しいユーザ・グループに割り当てるアクセス権限に似た権限を持つ、既存のユーザ・グループを選択します。こうすると、行う必要のあるカスタマイズ作業が最小限ですみます。

- 5 [OK] をクリックします。
- 6 続行する場合は [はい] ボタンをクリックします。新しいグループ名が、[グループの設定] ダイアログ・ボックスの [グループ] リストに追加されます。
- 7 [OK] をクリックし、[グループの設定] ダイアログ・ボックスを閉じます。

ユーザ・グループ権限の設定

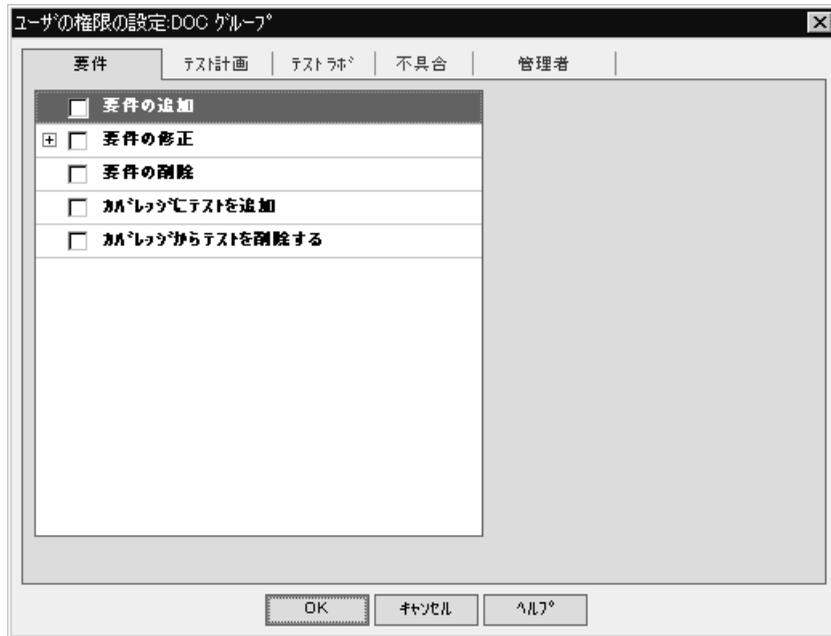
各ユーザ・グループには、Quality Center 管理者によって定義された権限（許可）のセットが割り当てられています。カスタムのユーザ・グループの権限は一般にプロジェクトの開始時に設定しますが、ユーザ・グループの権限は、いつでも変更することができます。

例えば、DOC というユーザ・グループに、ビューア権限が割り当てられているとします。プロジェクトの作業効率を高めるには、このグループのメンバが不具合の追加、変更、および削除を行うことができるようにする必要があります。Quality Center 管理者は権限の設定を行うことによって、こうした権限を DOC グループに割り当てることができます。

注：標準設定のユーザ・グループの権限を変更することはできません。標準設定のユーザ・グループ権限を表示するには、[グループの設定] ダイアログ・ボックスの [グループ] リストで、対象ユーザ・グループを選択し、[表示] ボタンをクリックします。詳細については、119 ページ「[ユーザの権限の設定] のタスクについて」を参照してください。

ユーザ・グループ権限を設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**グループの設定**] リンクをクリックします。[グループの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**グループ**] リストで、権限を設定するユーザ・グループを選択します。
- 3 [**変更**] ボタンをクリックします。[ユーザの権限の設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 4 権限のタブをクリックします。例えば、**[不具合]** をクリックします。このタブには、不具合モジュールで使用できるタスクが表示されます。



- 5 選択したユーザ・グループが使用できるタスクを選択します。使用できるタスクの詳細については、119 ページ「[ユーザの権限の設定] のタスクについて」を参照してください。
- 6 下位レベルのあるタスクを選択すると、関連フィールドのリストが下に表示されます。選択したユーザ・グループが使用できるフィールドのチェック・ボックスを選択します。
- 7 フィールドを変更する権限を制限するには、次のいずれかを行います。
- ▶ エントリの作成者であるユーザだけがその値を変更できるようにするには、**[所有者のみが変更可能]** チェック・ボックスを選択します。詳細については、次の「Quality Center オブジェクトの所有」の項を参照してください。
 - ▶ ユーザ・グループが候補値リストから選択できる値を制限するには、許可されるフィールド値の移行ルールを設定します。詳細については、112 ページ「移行ルールの設定」を参照してください。
- 8 削除タスクに対しては、**[所有者のみが削除可能]** チェック・ボックスを選択することで、エントリを最初に作成したユーザのみが値を削除できるよう設定

できます。詳細については、次の「Quality Center オブジェクトの所有」の項を参照してください。

- 9 **[不具合データ非表示フィルタ]** リンクをクリックすると、テスト計画、テストのラボ、不具合のモジュールのデータを、現在のユーザ・グループに対して非表示にできます。詳細については、115 ページ「ユーザ・グループに対するデータの非表示」を参照してください。
- 10 **[OK]** をクリックし、[ユーザの権限の設定] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 11 **[OK]** をクリックして変更を保存し、[グループの設定] ダイアログ・ボックスを閉じます。

Quality Center オブジェクトの所有

グループ権限を設定する際に、エントリを最初に作成したユーザのみが値を変更または削除できるように、フィールド値を変更または削除する権限を制限できます。次の表に、Quality Center のオブジェクトと、そのオブジェクトの所有者と見なされるユーザを示します。

Quality Center オブジェクト	所有者
要件	[Author] (作成者) フィールド (RQ_REQ_AUTHOR)
テスト計画モジュールのテスト	[Designer] (設計者) フィールド (TS_RESPONSIBLE)
テストのラボ・モジュールのテスト・セット	[Responsible Tester] (テスト責任者) フィールド (TC_TESTER_NAME)
テストのラボ・モジュールのテスト実行	[Tester] (テスト担当者) フィールド (RN_TESTER_NAME)
不具合	[Assigned To] (責任者) フィールド (BG_RESPONSIBLE)

注： **Tables** テーブルの TB_OWNER_FIELD_NAME の値を変更することによって、Quality Center オブジェクトの所有者を変更できます。Tables テーブルの詳細については、『**Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ・ガイド**』を参照してください。

移行ルールの設定

フィールド値を変更するための移行ルールを設定すると、グループの変更権限を制限できます。このルールによって、指定したフィールドでグループのメンバーが変更できる値が決まります。移行ルールは候補値リストのフィールドに対してのみ設定できます。

例えば、不具合情報を変更する場合、不具合のレコードの [**ステータス**] フィールドでユーザ・グループが選択できる項目を制限できます。ユーザ・グループが [**ステータス**] フィールドを「修正済み」から「終了」にのみ変更できるように移行ルールを設定できます。

注：「ワークフローの設定」機能を使って、移行ルールが設定されているフィールドの候補値リストを変更すると、フィールドはワークフローと移行ルールの両方を満たすように変更されます。ワークフローの設定の詳細については、第16章「ワークフロー・イベントのリファレンス」を参照してください。

移行ルールを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**グループの設定**] リンクをクリックします。[グループの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**グループ**] リストで、権限を設定するユーザ・グループを選択します。
- 3 [**変更**] ボタンをクリックします。[ユーザの権限の設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 権限のタブをクリックします。例えば、[**不具合**] をクリックします。このタブには、不具合モジュールで使用できるタスクが表示されます。

- 5 タスクを選択します。例えば、「**不具合の修正**」を選択します。タスクが展開され、使用できるフィールドが表示されます。

使用できるタスクの詳細については、119 ページ「[ユーザの権限の設定] のタスクについて」を参照してください。

- 6 選択したタスクで、フィールドを選択します。例えば、[**Status**] (ステータス) を選択します。[移行ルール] グリッドが、[ユーザの権限の設定] ダイアログ・ボックスの右側の枠に表示されます。



- 7 移行ルールを追加するには、[追加] をクリックします。[移行ルールエディタ] ダイアログ・ボックスが開きます。



8 [移行元] では、次のいずれかの操作が行えます。

- ▶ 現在表示されている値に関係なく、ユーザ・グループがフィールドを変更できるようにするには、[**\$ 任意**] を選択します。
- ▶ リストから値を選択します。選択した値がフィールドに表示されている場合にだけ、ユーザ・グループは選択されているフィールドを変更できます。例えば、現在の値が「Fixed」（修正済み）である場合にだけユーザ・グループが不具合の [Status]（ステータス）フィールドを変更できるようにするには、[**Fixed**]（修正済み）を選択します。

9 [移行先] では、次のいずれかの操作を行います。

- ▶ ユーザ・グループがフィールドを任意の値に変更できるようにするには、[**\$ 任意**] を選択します。
- ▶ リストから値を選択します。ユーザ・グループは、選択したフィールドの値を、指定した値にのみ変更できます。例えば、[Status]（ステータス）フィールドの値を「Closed」（終了）だけに変更できるようにするには、[**Closed**]（終了）を選択します。

10 [OK] をクリックして変更を保存し、[移行ルールエディタ] ダイアログ・ボックスを閉じます。新しいルールが [移行ルール] グリッドに表示されます。



11 移行ルールを変更するには、[移行ルール] グリッドでルールを選択し、[編集] ボタンをクリックします。[移行ルールエディタ] ダイアログ・ボックスで、ルールを変更します。[OK] をクリックします。

12 移行ルールを削除するには、[移行ルール] グリッドでルールを選択し、[削除] ボタンをクリックします。[OK] をクリックして確定します。

- 13 **[OK]** をクリックし、[ユーザの権限の設定] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 14 **[OK]** をクリックして変更を保存し、[グループの設定] ダイアログ・ボックスを閉じます。

ユーザ・グループに対するデータの非表示

ユーザ・グループがテスト計画、テストのラボ、不具合のモジュールで表示できる特定のレコードを非表示にするよう Quality Center に指示できます。これには次のようなオプションが含まれます。

- ▶ **データのフィルタリング**：特定のフィールドにフィルタを設定し、ユーザ・グループが表示できるレコードを制限できます。例えば、**[Assigned To]**（責任者）フィールドのフィルタを **[CurrentUser]** に設定できます。これによって、現在のユーザのみが自分に割り当てられている特定のレコードを表示できるようになります。

フィルタリングの詳細については、『Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

- ▶ **表示フィールドの指定**：ユーザ・グループが見ることのできるモジュール内のフィールドと、非表示にすべきフィールドを選択できます。これによって、表示されるデータの量が少なくなります。特定のユーザ・グループに属するユーザは、自分の作業に関係のあるデータだけを表示できるようになります。例えば、[テスト計画] タブでは、ファイル・システムに格納されているテスト・スクリプトへのアクセスを認めないユーザ・グループに対して、**[パス]** フィールドを非表示にすることができます。必須フィールドを非表示にすることはできません。

データを非表示にするには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの **[グループの設定]** リンクをクリックします。[グループの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 **[グループ]** リストで、権限を設定するユーザ・グループを選択します。
- 3 **[表示]** ボタンをクリックします。[ユーザの権限の設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 権限のタブをクリックします。例えば、**[不具合]** をクリックします。このタブには、不具合モジュールで使用できるタスクが表示されます。

- 5 ダイアログ・ボックスの左下にある [データ非表示フィルタ] リンクをクリックします。例えば、不具合タブで [不具合データ非表示フィルタ] をクリックします。[不具合データ非表示フィルタ] ダイアログ・ボックスが開き、[フィルタ] タブが表示されます。



- 6 1つまたは複数のフィルタを設定します。フィルタリングの詳細については、『Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

7 [表示] タブをクリックします。



- 8 該当するフィールドを選択またはクリアします。
- 9 [OK] をクリックし、[データ非表示] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 10 [閉じる] をクリックし、[ユーザの権限の設定] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 11 [OK] をクリックして変更を保存し、[グループの設定] ダイアログ・ボックスを閉じます。

ユーザ・グループへの既存の権限セットの割り当て

プロジェクトで作業をする場合、あるユーザ・グループに別のユーザ・グループの権限を割り当てることができます。

ユーザ・グループへ既存の権限セットを割り当てするには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**グループの設定**] リンクをクリックします。[グループの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**グループ**] リストで、グループ名を選択します。
- 3 [**名前を付けて設定**] ボタンをクリックします。[グループの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 4 [**名前を付けて設定**] リストで、グループ名を選択します。
- 5 [**OK**] をクリックします。
- 6 続行する場合は [**はい**] ボタンをクリックします。

ユーザ・グループ名の変更

ユーザ・グループ名は変更できます。グループに対して行ったカスタマイズは、すべてそのまま残ります。

ユーザ・グループ名を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**グループの設定**] リンクをクリックします。[グループの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**グループ**] リストで、グループ名を選択します。
- 3 [**名前の変更**] ボタンをクリックします。[グループ名の変更] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 グループの新しい名前を入力します。

5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

ユーザ・グループの削除

Quality Center プロジェクトに追加されたユーザ・グループは削除できます。

ユーザ・グループを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**グループの設定**] リンクをクリックします。[グループの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**グループ**] リストで、グループ名を選択します。
- 3 [**削除**] ボタンをクリックします。
- 4 [OK] をクリックして確定します。

[ユーザの権限の設定] のタスクについて

[ユーザの権限の設定] ダイアログ・ボックスでユーザ・グループの権限を表示できます。カスタム・ユーザ・グループの権限は、いつでも変更できます。標準設定のユーザ・グループ (TD 管理者, QA テスタ, プロジェクト・マネージャ, 開発者, ビューア) の権限は、変更できません。

カスタム・ユーザ・グループ権限を表示するには、[グループの設定] ダイアログ・ボックスの [**グループ**] リストでユーザ・グループを選択し、[表示] ボタンまたは [**変更**] ボタンをクリックします。標準設定のユーザ・グループの場合は、[表示] ボタンをクリックします。[ユーザの権限の設定] ダイアログ・ボックスが開きます。

[ユーザの権限の設定] ダイアログ・ボックスには、[要件]、[テスト計画]、[テスト ラボ]、[不具合]、[管理者] というタブがあります。

要件のタスク

[要件] タブには、要件モジュールで使用できるタスクが表示されます。



[要件] タブには、次のタスクがあります。

タスク	説明
要件の追加	要件ツリーに要件を追加できます。
要件の修正	要件ツリーの要件を修正できます。このタスクを使用すると、選択したユーザ・グループが修正できるフィールドを指定できます。要件の所有者だけが変更できるようにするには、 [所有者のみが変更可能] チェック・ボックスを選択します。
要件の削除	要件ツリーから要件を削除できます。要件の所有者だけが削除できるようにするには、 [所有者のみが削除可能] チェック・ボックスを選択します。

タスク	説明
カバレッジにテストを追加	要件にテスト・カバレッジを追加したり、テストに要件カバレッジを追加できます。
カバレッジからテストを削除する	要件からテスト・カバレッジを削除したり、テストから要件カバレッジを削除したりできます。

【テスト計画】のタスク

【テスト計画】タブには、テスト計画モジュールで使用できるタスクが表示されます。



[テスト計画] タブには、次のタスクがあります。

タスク	説明
テストの追加	テスト計画ツリーにテストを追加できます。
テストの修正	テスト計画ツリーのテストを修正できます。このタスクを使用すると、選択したユーザ・グループが修正できるフィールドを指定できます。テストの所有者だけが変更できるようにするには、 [所有者のみが変更可能] チェック・ボックスを選択します。
テストの削除	テスト計画ツリーからテストを削除できます。テストの所有者だけが削除できるようにするには、 [所有者のみが削除可能] チェック・ボックスを選択します。
デザイン ステップの追加	[デザイン ステップ] タブでデザイン・ステップを追加できます。
デザイン ステップの修正	[デザイン ステップ] タブでデザイン・ステップを修正できます。このタスクを使用すると、選択したユーザ・グループが修正できるフィールドを指定できます。
デザイン ステップの削除	[デザイン ステップ] タブからデザイン・ステップを削除できます。デザイン・ステップの所有者だけが削除できるようにするには、 [所有者のみが削除可能] チェック・ボックスを選択します。
フォルダの追加	テスト計画ツリーにフォルダを追加できます。
フォルダの修正	テスト計画ツリーのフォルダを修正できます。このタスクを使用すると、選択したユーザ・グループが修正できるフィールドを指定できます。
フォルダの削除	テスト計画ツリーからフォルダを削除できます。
フォルダの移動	テスト計画ツリーでフォルダを移動できます。
フォルダのコピー	テスト計画ツリーのフォルダをコピーできます。
スクリプトの作成	[デザイン ステップ] タブに表示されている手動テストのテスト・ステップを自動テストに変換できます。

[テストラボ] のタスク

[テストラボ] タブには、テストのラボ・モジュールで使用できるタスクが表示されます。



[テストラボ] タブには、次のタスクがあります。

タスク	説明
テストセットの追加	テスト・セットを追加できます。
テストセットの修正	テスト・セットを修正できます。このタスクを使用すると、選択したユーザ・グループが修正できるフィールドを指定できます。
テストセットの削除	テスト・セットを削除できます。
テストセットの移動	テスト・セット・ツリーでテスト・セットを別のフォルダに移動できます。
テストセットのコピー	テスト・セット・ツリーでテスト・セットをフォルダにコピーできます。

タスク	説明
フォルダの追加	テスト・セット・ツリーにフォルダを追加できます。
フォルダの修正	テスト・セット・ツリーのフォルダを修正できます。
フォルダの削除	テスト・セット・ツリーのフォルダを削除できます。
フォルダの移動	テスト・セット・ツリーでフォルダを移動できます。
フォルダのコピー	テスト・セット・ツリーのフォルダをコピーできます。
テストセットへテストの追加	テスト・セットにテストを追加できます。
テストセットでテストを変更する	テスト・セットのテストを修正できます。このタスクを使用すると、選択したユーザ・グループが修正できるフィールドを指定できます。テストの所有者だけが変更できるようにするには、 [所有者のみが変更可能] チェック・ボックスを選択します。
テストセットからテストを削除	テスト・セットからテストを削除できます。
テストの実行	テストを実行できます。
実行の修正	テスト実行の情報を修正できます。このタスクを使用すると、選択したユーザ・グループが修正できるフィールドを指定できます。実行の所有者だけが変更できるようにするには、 [所有者のみが変更可能] チェック・ボックスを選択します。
実行の削除	テスト実行の情報を削除できます。実行の所有者だけが削除できるようにするには、 [所有者のみが削除可能] チェック・ボックスを選択します。
テストセットのリセット	テスト・セットの実行をすべてクリアできます。
ホストの追加	テストを実行するホストを追加できます。
ホストの変更	ホスト情報を変更できます。
ホストの削除	ホストを削除できます。
ホストグループの追加	テストを実行するホスト・グループを追加できます。
ホストグループの変更	ホスト・グループ情報を変更できます。
ホストグループの削除	ホスト・グループを削除できます。

[不具合] のタスク

[不具合] タブには、不具合モジュールで使用できるタスクが表示されます。

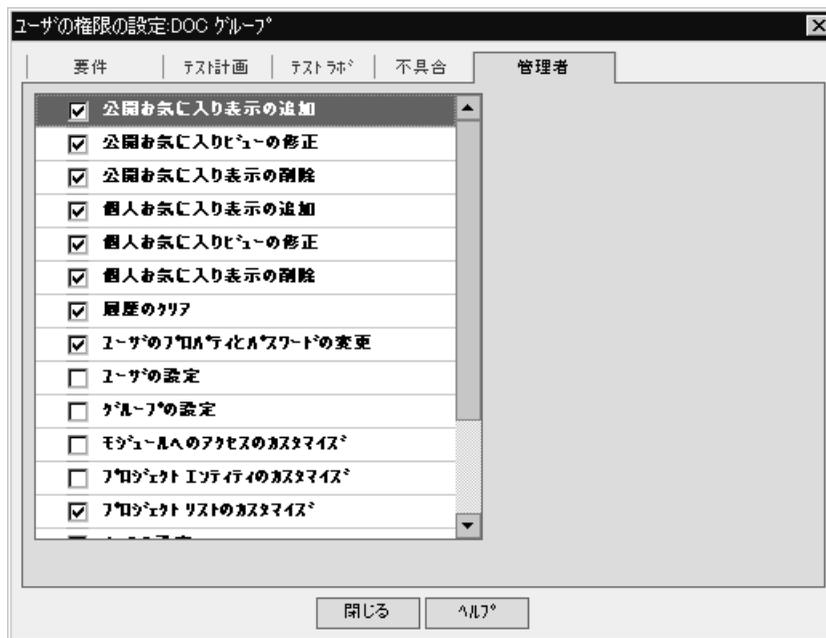


[不具合] タブには、次のタスクがあります。

タスク	説明
不具合の追加	不具合グリッドに不具合を追加できます。[不具合の追加] ダイアログ・ボックスに表示されるフィールドはカスタマイズできます。 [不具合の追加ダイアログ内に表示されるフィールド] で、表示するフィールドを選択します。赤で表示されているフィールドは、必須のフィールドです。
不具合の修正	不具合のグリッドにある不具合を修正できます。このタスクを使用すると、選択したユーザ・グループが修正できるフィールドを指定できます。不具合の所有者だけが変更できるようにするには、 [所有者のみが変更可能] チェック・ボックスを選択します。
不具合の削除	不具合のグリッドから不具合を削除できます。不具合の所有者だけが削除できるようにするには、 [所有者のみが削除可能] チェック・ボックスを選択します。

[管理者] のタスク

[管理者] タブには、Quality Center で使用できる管理タスクが表示されます。



[管理者] タブには、次のタスクがあります。

タスク	説明
公開お気に入り表示の追加	公開お気に入り表示を追加できます。
公開お気に入りビューの修正	公開お気に入り表示を修正できます。
公開お気に入り表示の削除	公開お気に入り表示を削除できます。
個人お気に入り表示の追加	個人お気に入り表示を追加できます。
個人お気に入りビューの修正	個人お気に入り表示を修正できます。
個人お気に入り表示の削除	個人お気に入り表示を削除できます。
履歴のクリア	履歴テーブルに表示されている情報をクリアできます。履歴のクリア方法については、『 Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド 』を参照してください。

タスク	説明
ユーザのプロパティとパスワードの変更	[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [パスワードの変更] リンクおよび [ユーザ プロパティの変更] リンクを使用して、パスワードとプロパティを変更できます。
ユーザの設定	[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [ユーザの設定] リンクを使用して、Quality Center プロジェクトにユーザを追加したり、Quality Center プロジェクトからユーザを削除したりできます。
グループの設定	[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [グループの設定] リンクを使用して、ユーザ・グループに権限を割り当てたり、権限の設定を指定したりできます。
モジュールへのアクセスのカスタマイズ	[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [モジュールへのアクセスのカスタマイズ] リンクを使用して、ユーザ・グループのアクセスのタイプを決定できます。
プロジェクト エンティティのカスタマイズ	[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [プロジェクト エンティティのカスタマイズ] リンクを使用して、Quality Center プロジェクトのフィールドをカスタマイズできます。
プロジェクト・リストのカスタマイズ	[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [プロジェクト リストのカスタマイズ] リンクを使用して、カスタマイズしたリストをプロジェクトに追加できます。
メールの設定	[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [メールの設定] リンクを使用して、不具合の修正状況をユーザに定期的に知らせるように、メールを設定できます。
トレーサビリティ通知のルール	[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [トレーサビリティ通知ルールの設定] リンクを使用して、トレーサビリティに関する通知ルールを設定できます。
ワークフローの設定	[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [ワークフローの設定] リンクを使用して、Quality Center モジュールのユーザ・インタフェースを動的に変更するスクリプトを作成できます。

ユーザ・グループのモジュールへのアクセスのカスタマイズ

各 Quality Center プロジェクトに対して各ユーザ・グループがアクセスできるモジュールを制御できます。ユーザが不要なモジュールにアクセスするのを防ぐことによって、Quality Center のライセンスをよりよく使用できます。例えば、あるユーザ・グループがプロジェクトに不具合を追加するためだけに Quality Center を使用する場合は、そのグループのアクセスを不具合モジュールのみに制限します。

ユーザ・グループのモジュール・アクセスを次のように指定できます。

- ▶ 不具合モジュールのみ
- ▶ ビジネス・コンポーネント・モジュール以外のすべての Quality Center モジュール
- ▶ ビジネス・コンポーネント・モジュールを含むすべての Quality Center モジュール

あるユーザ・グループに対してビジネス・コンポーネント・モジュールへのアクセスが有効でない場合でも、このグループのユーザは既存のビジネス・プロセス・テストを読み取り専用で表示できます。詳細については『**Mercury Business Process Testing ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。

プロジェクトに現在接続しているユーザの数、ユーザが最初にログインした時刻、最後の操作を行った時刻、アクセスのタイプを監視できます。詳細については、65 ページ「ユーザ接続の監視」を参照してください。使用中の Quality Center ライセンスの総数を調べることもできます。詳細については、67 ページ「Quality Center ライセンスの管理」を参照してください。

ユーザ・グループのモジュール・アクセスをカスタマイズするには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [モジュールへのアクセスのカスタマイズ] リンクをクリックします。[モジュールへのアクセスのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスが開きます。



✓ アイコンは、そのユーザ・グループがアクセスできるモジュールを示します。テーブルのセルを選択またはクリアするには、セルをダブルクリックするか、セルを選択してスペース・バーを押します。

- 2 不具合モジュールだけを選択するには、**不具合モジュール**・カラムを選択します。これにより、**Quality Center** カラムと**ビジネス・プロセス・テスト**・カラムがクリアされます。
- 3 **Quality Center** モジュールを選択するには、**Quality Center** カラムを選択します。これにより、**不具合モジュール**・カラムがクリアされます。
- 4 **ビジネス・コンポーネント**・モジュールを選択するには、**ビジネス・プロセス・テスト**・カラムを選択します。これにより、**Quality Center** カラムが選択され、**不具合モジュール**・カラムがクリアされます。
- 5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

第 10 章

Quality Center プロジェクトのカスタマイズ

Quality Center 管理者は、テスト・チームの個別のニーズに合わせてプロジェクトをカスタマイズできます。例えば、フィールドの追加やカスタマイズ、テスト・プロジェクトのニーズを反映したカテゴリやリストの作成を行うことができます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ Quality Center プロジェクトのカスタマイズについて
- ▶ プロジェクト・エンティティのカスタマイズ
- ▶ プロジェクト・リストのカスタマイズ

Quality Center プロジェクトのカスタマイズについて

プロジェクトを開始する前に、個別のテスト要件に従ってプロジェクトをカスタマイズすることができます。また、プロジェクトの進行に伴い、ニーズの変化に対応してプロジェクトを調整することもできます。

Quality Center には、要件、テスト、テスト・ステップ、テスト・セット、テスト実行、あるいは不具合に関する情報を入力するためのシステム・フィールドがあります。ユーザによる値の選択をフィールドに関連付けられているリストからだけに制限したり、特定のフィールドへの入力を必須にしたり、フィールドに入力された値の履歴を保存することによって、システム・フィールドの動作を変更できます。また、ユーザ定義フィールドを作成することによって、プロジェクトに固有のデータを入力することもできます。フィールドは、Quality Center のシステム・リストまたはユーザ定義リストと関連付けることができます。

例えば、アプリケーションの複数のビルドでテストを実行する場合、**[検出対象ビルド]** フィールドを **[不具合の追加]** ダイアログ・ボックスに追加できます。そして、**ビルド 1**、**ビルド 2**、および**ビルド 3** という値を含む選択リスト

を作成して、このリストを [検出対象ビルド] フィールドに関連付けることができます。

プロジェクト・エンティティのカスタマイズ

[プロジェクトエンティティのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスでは、テスト環境に合わせて Quality Center プロジェクトをカスタマイズできます。



Quality Center プロジェクトは、いくつかのプロジェクト・エンティティで構成されています。「エンティティ」とは、特定のテスト・プロセスに対してユーザが入力したデータを格納したテーブルのことです。

使用できるエンティティは、次のとおりです。

エンティティ	説明
不具合	不具合モジュールの不具合データ
テスト	テスト計画モジュールのテスト・データ
テストステップ	テスト計画モジュールのデザイン・ステップ・データ、およびテストのラボ・モジュールのテスト・ステップ・データ
実行	テストのラボ・モジュールのテスト実行データ
要件	要件モジュールの要件データ
テストセットのテスト	テストのラボ・モジュールのテスト・データ
テストセット	テストのラボ・モジュールのテスト・セット・データ

各エンティティには、システム・フィールドとユーザ定義フィールドが含まれます。

- ▶ 「システム・フィールド」とは、Quality Center の標準のフィールドのことです。システム・フィールドの追加や削除はできません。システム・フィールドの変更のみ可能です。
- ▶ 「ユーザ・フィールド」とは、ユーザが定義し、Quality Center プロジェクトに格納して、プロジェクト固有のニーズに合わせてカスタマイズできるフィールドのことです。ユーザ定義フィールドは、追加、変更、および削除が可能です。

Quality Center のエンティティとフィールドの詳細については、『**Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ・ガイド**』を参照してください。

[フィールド設定]には、フィールドのプロパティが表示されます。使用できるプロパティは、次のとおりです。

プロパティ	説明
フィールド名	Quality Center データベース・テーブルで使用されるフィールド名を示します。
フィールドラベル	Quality Center に表示されるフィールド名を示します。新しい名前を入力するか、標準の名前を使用できます。
フィールドタイプ	<p>ユーザがフィールドに入力できるデータのタイプを指定します。タイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 番号：整数のみ入力できます。 ● 文字列：任意の文字列を入力できます。 ● 日付：日付を選択できます。 ● ルックアップリスト：候補値リストを表示し、ドロップダウン・リストから値を選択できます。 ● ユーザリスト：Quality Center ユーザ・リストからユーザ名を選択できます。 ● メモ：ひとまとまりのデータが入力できます。このフィールドは、使用可能なディスク容量によるのみ制限を受けます。各 Quality Center エンティティには、最大で3つのメモ・フィールドを追加できます。
フィールド長	<p>フィールドのサイズを示します（[文字列] タイプを選択した場合のみ使用可能）。</p> <p>注：フィールドの長さは、最大で255文字です。</p>
履歴	選択したフィールドに入力された値のログを保存します。
必須	<p>フィールドの値が必須であることを示します。</p> <p>注：すでにデータが含まれているプロジェクトに必要な文字列フィールドまたはメモ・フィールドを追加する場合は、既存のレコードを修正するときではなく新しいレコードを作成するときに新規フィールドにデータを入力する必要があります。</p>
マスクされている	フィールドの入力データ・マスクを示します（ [文字列] タイプを選択した場合のみ使用可能）。詳細については、137 ページ「入力マスクの定義」を参照してください。

プロパティ	説明
ルックアップ リスト	定義済みリストの一覧が含まれます（ [ルックアップ リスト] タイプを選択した場合のみ使用可能）。フィールドを定義済みリストに関連付けるには、 [ルックアップ リスト] ボックスでリストを選択します。選択したリストを表示または変更するには、 [リストへ移動] ボタンをクリックします。
新規リスト	新規リストを作成します（ [ルックアップ リスト] タイプを選択した場合のみ使用可能）。フィールドを新規リストに関連付けるには、 [新規リスト] ボタンをクリックします。 [プロジェクト リストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスが開きます。リストのカスタマイズの詳細については、140 ページ「プロジェクト・リストのカスタマイズ」を参照してください。
リストへ移動	定義済みリストを表示します（ [ルックアップ リスト] タイプを選択した場合のみ使用可能）。定義済みリストを開くには、まず [ルックアップ リスト] ボックスから対象リストを選択します。続いて、 [リストへ移動] ボタンをクリックします。 [プロジェクト リストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスが開きます。リストのカスタマイズの詳細については、140 ページ「プロジェクト・リストのカスタマイズ」を参照してください。
値の確認	ユーザがリスト・ボックスに表示されている項目からのみ値を選択するよう制限します（ [ルックアップ リスト] タイプを選択した場合のみ使用可能）。

ユーザ定義フィールドの追加

各 Quality Center エンティティに最大で 99 のユーザ定義フィールドを追加して、Quality Center プロジェクトをカスタマイズできます。

ユーザ定義フィールドを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 **[プロジェクトのカスタマイズ]** ウィンドウの **[プロジェクト エンティティのカスタマイズ]** リンクをクリックします。**[プロジェクト エンティティのカスタマイズ]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 **[プロジェクト エンティティ]** で、エンティティを展開します。
- 3 **[ユーザ フィールド]** フォルダをクリックします。

- 4 ユーザ定義フィールドを追加するには、次の方法があります。
 - ▶ 数字、文字列、日付、またはリスト・タイプのフィールドを追加するには、**[新規フィールド]** ボタンをクリックします。
 - ▶ メモ・フィールドを追加するには、**[新規フィールド]** の矢印をクリックし、**[新規メモ フィールド]** を選択します。各 Quality Center エンティティには、最大で3つのメモ・フィールドを追加できます。
- 5 **[フィールド設定]** で、フィールドのプロパティを設定します。詳細については、134 ページの「フィールド設定」の項を参照してください。
- 6 **[OK]** をクリックし、**[プロジェクト エンティティのカスタマイズ]** ダイアログ・ボックスを閉じます。

システム・フィールドとユーザ定義フィールドの変更

Quality Center プロジェクトのシステム・フィールドおよびユーザ定義フィールドのプロパティを変更できます。

注：システム・フィールドのプロパティである、**[フィールド ラベル]**、**[履歴]**、**[要件]** および **[値の確認]** のみ変更が可能です。詳細については、134 ページの「フィールド設定」の項を参照してください。

システム・フィールドまたはユーザ定義フィールドを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 **[プロジェクトのカスタマイズ]** ウィンドウの **[プロジェクト エンティティのカスタマイズ]** リンクをクリックします。**[プロジェクト エンティティのカスタマイズ]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 **[プロジェクト エンティティ]** で、エンティティを展開します。
- 3 **[システム フィールド]** フォルダまたは **[ユーザ フィールド]** フォルダを展開します。
- 4 カスタマイズするフィールドをクリックします。フィールドの設定が、**[フィールド設定]** に表示されます。
- 5 選択したフィールドのプロパティを変更します。詳細については、134 ページの「フィールド設定」の項を参照してください。

- 6 **[OK]** をクリックし、[プロジェクト エンティティのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

ユーザ定義フィールドの削除

Quality Center プロジェクトからユーザ定義フィールドを削除できます。

ユーザ定義フィールドを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**プロジェクト エンティティのカスタマイズ**] リンクをクリックします。[プロジェクト エンティティのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**プロジェクト エンティティ**] で、エンティティを展開します。
- 3 [**ユーザ フィールド**] フォルダを展開します。
- 4 削除するフィールドをクリックし、[**フィールドの削除**] ボタンをクリックします。
- 5 **[OK]** をクリックして確定します。[**ユーザ フィールド**] フォルダからフィールドが削除されます。
- 6 **[OK]** をクリックして変更を保存し、[プロジェクト エンティティのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

入力マスクの定義

入力マスク・オプションは、マスク・パターンを利用してユーザにデータ入力を要求するのに使用されます。ユーザが入力マスクに一致しない文字を入力しようとすると、エラーとなります。例えば、電話番号を入力するようにユーザに要求するには、次のような入力マスクを定義します。

!¥(000¥)000-0000

この入力マスクにより、数字のみ入力するように制限されます。編集ボックスには、次のように表示されます。

(____) ____ - ____

注：文字列タイプのフィールドのみ入力マスクの定義が可能です。

入力マスクを定義するには、次の手順を実行します。

- 1 [フィールド設定] で [マスクされている] を選択します。詳細については、134 ページの「フィールド設定」の項を参照してください。
- 2 [マスクされた編集属性] で [定義] ボタンをクリックします。[入力マスクエディタ] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 3 [入力マスク] ボックスで、入力マスクを入力するか、定義済みマスクを選択します。

入力マスクを定義する際には、次の文字を使用できます。

マスク文字	説明
!	先頭または末尾の空白のスペース。
#	数字。
.	小数点。
:	時刻の区切り記号。
/	日付の区切り記号。
¥	マスク文字列において、このマスク文字の次の文字がリテラルとして扱われます。例えば、マスク文字列内に (,), #, &, A, ? を含めることができます。

マスク文字	説明
>	後続の文字がすべて大文字に変換されます。
<	後続の文字がすべて小文字に変換されます。
A	英数字（入力必須）。英数字とは、a～z、A～Z、0～9 のことです。
a	英数字（入力任意）。英数字とは、a～z、A～Z、0～9 のことです。
C	文字（入力必須）。有効な文字の範囲は、ANSI 文字の値で 32～126 および 128～255 です。
c	文字（入力任意）。有効な文字の範囲は、ANSI 文字の値で 32～126 および 128～255 です。
L	英字またはスペース（入力必須）。例えば、a～z や A～Z などです。
l	英字またはスペース（入力任意）。例えば、a～z や A～Z などです。
0	数字（入力必須）。数字とは、0～9 のことです。
9	数字（入力任意）。数字とは、0～9 のことです。
_	スペースを挿入します。フィールド・ボックスに文字を入力するとき、カーソルは_記号を飛ばして進みます。

- 4 [テスト入力] ボックスで、入力マスクをテストできます。
- 5 [OK] をクリックし、[入力マスク エディタ] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 6 [OK] をクリックし、[プロジェクト エンティティのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

プロジェクト・リストのカスタマイズ

[プロジェクトリストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスでは、ユーザ定義リストの作成、名前の変更、および削除を行うことができます。



リストには、フィールドに入力できる値の項目が含まれています。例えば、[言語] というユーザ定義フィールドの選択リストに、[English] と [European Languages] の値を含めることができます。

リストには、複数のレベルのサブ項目を含めることができます。例えば、[English] の項目には [English (Australia)], [English (Canada)], [English (Great Britain)], [English (US)] のサブ項目を持つサブリストを含めることができます。

注：フィールドへのリストの関連付けについては、132 ページ「プロジェクト・エンティティのカスタマイズ」を参照してください。

リストの作成

1 つまたは複数のフィールドに割り当てるリストを作成できます。

リストを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**プロジェクト リストのカスタマイズ**] リンクをクリックします。[プロジェクト リストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**新規リスト**] ボタンをクリックします。[新規リスト] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 新規リストに付ける名前を入力し (最大 70 文字), [**OK**] をクリックします。リスト名が, [リスト] ボックスに表示されます。
- 4 新規リストまたは既存のリストに項目を追加するには, [**リスト**] ボックスでリスト名を選択し, [**項目の新規作成**] ボタンをクリックします。[項目の新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。項目に付ける名前を入力し, [**OK**] をクリックします。
- 5 サブ項目を作成するには, [**リスト項目**] で項目を選択し, [**サブ項目の新規作成**] ボタンをクリックします。[サブ項目の新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。サブ項目に付ける名前を入力し, [**OK**] をクリックします。

注: リストの同じ階層レベルに作成できる項目あたりのサブ項目の最大数は 676 です。

- 6 [**OK**] をクリックして変更を保存し, [プロジェクト リストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

リスト名、項目名、サブ項目名の変更

ユーザ定義リスト，システムおよびユーザ定義の項目またはサブ項目の名前を変更できます。

注：システム・リスト項目の中には変更できないものもあります。例えば、「YesNo」（はい，いいえ）リストの [Y]（はい） および [N]（いいえ）などです。変更できないシステム項目の詳細については，Quality Center Knowledge Base (<http://support.mercury.com>) を参照し，ID 7165 を検索してください。

リスト名を変更するには，次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**プロジェクト リストのカスタマイズ**] リンクをクリックします。[プロジェクトリストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**リスト**] ボックスで，リスト名を選択します。
- 3 [**リストの名前を変更**] ボタンをクリックします。[リスト名の変更] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 リストの新しい名前を入力します。
- 5 [**OK**] をクリックし，[リスト名の変更] ダイアログ・ボックスを閉じます。
- 6 [**OK**] をクリックし，[プロジェクトリストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

項目名またはサブ項目名を変更するには，次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**プロジェクト リストのカスタマイズ**] リンクをクリックします。[プロジェクトリストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**リスト**] ボックスで，リスト名を選択します。
- 3 [**リスト項目**] で，項目を選択します。
- 4 [**項目の名前を変更**] ボタンをクリックします。[リスト項目名の変更] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 5 項目の新しい名前を入力します。[**OK**] をクリックします。

- 6 **[OK]** をクリックし、[プロジェクトリストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

リスト、項目、サブ項目の削除

ユーザ定義リスト、システムおよびユーザ定義の項目またはサブ項目を削除できます。

注：

- ▶ フィールドのルックアップ・リストとして使用されているユーザ定義リストは削除できません。
- ▶ システム・リスト項目の中には削除できないものもあります。例えば、「**YesNo**」(はい、いいえ) リストの **[Y]** (はい) および **[N]** (いいえ) などです。削除できないシステム項目の詳細については、Quality Center Knowledge Base (<http://support.mercury.com>) を参照し、ID 7165 を検索してください。

リストを削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**プロジェクトリストのカスタマイズ**] リンクをクリックします。[プロジェクトリストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**リスト**] ボックスで、ユーザ定義リスト名を選択します。
- 3 [**リストを削除**] ボタンをクリックします。
- 4 続行する場合は [**はい**] ボタンをクリックします。
- 5 **[OK]** をクリックし、[プロジェクトリストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

項目またはサブ項目を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**プロジェクトリストのカスタマイズ**] リンクをクリックします。[プロジェクトリストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**リスト**] ボックスで、リスト名を選択します。

- 3 [リスト項目] で、リスト項目を選択します。
- 4 [項目を削除] ボタンをクリックします。
- 5 続行する場合は [はい] ボタンをクリックします。
- 6 [OK] をクリックし、[プロジェクト リストのカスタマイズ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

第 11 章

メールの設定

Quality Center 管理者は不具合の修正状況を定期的にメンバに伝えることができます。各受信者へ不具合メッセージを送信する条件を指定するには、メールの設定を行います。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ メールの設定について
- ▶ メール・フィールドの指定
- ▶ メール条件の定義
- ▶ 不具合に関するメールの題名のカスタマイズ

メールの設定について

Quality Center では、指定の不具合フィールドが変更されるたびに、自動的に電子メールでユーザに通知するよう設定できます。Quality Center プロジェクトでは、次の手順に従ってメールを設定します。

- ▶ 「**メールの設定**」リンクをクリックして不具合フィールドを定義し、ユーザと条件を指定します。詳細については、146 ページ「メール・フィールドの指定」と 148 ページ「メール条件の定義」を参照してください。
- ▶ 「サイト管理者」の [**プロジェクト**] タブにある [**不具合のメールを自動的に送信する**] チェック・ボックスを選択し、プロジェクトに対してメールの設定を有効にします。メールの設定を有効にするには、このチェック・ボックスを選択する必要があります。詳細については、19 ページ「プロジェクトの詳細の更新」を参照してください。
- ▶ 「サイト管理者」の [**サイト構成**] タブでは **MAIL_INTERVAL** パラメータを編集できます。このパラメータは、すべてのプロジェクトで不具合に関する電子

メールを送信する間隔を定義します。また、メールの形式と文字セットおよびメールに添付または履歴が含まれるかどうかを定義するパラメータを設定できます。詳細については、78 ページ「Quality Center 設定パラメータの設定」を参照してください。

- ▶ 特定のプロジェクトの電子メールの題名をカスタマイズできます。詳細については、149 ページ「不具合に関するメールの題名のカスタマイズ」を参照してください。
- ▶ 「サイト管理者」の [ユーザー] タブで、不具合に関するメッセージを受信するユーザーの電子メール・アドレスが指定されていることを確認してください。詳細については、59 ページ「ユーザー・プロパティの定義」を参照してください。

メール・フィールドの指定

フィールドをメール対象フィールドとして指定すると、このフィールドに変更があれば、次の指定時間に Quality Center によって電子メール・メッセージが送信されます。例えば、[Status] (ステータス) をメール対象フィールドとして指定した後で、特定の不具合の [Status] (ステータス) フィールドを更新したとします。すると次の指定時間に、更新された情報を含むこの不具合の詳細が指定したユーザーに送信されます。

メール・フィールドを指定するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**メールの設定**] リンクをクリックします。[メールの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



[**利用可能な不具合フィールド**] には、不具合グリッドのフィールド名が表示されます。[**次の変更時にメールで通知**] には、現在メール対象フィールドとして指定されているフィールド名が表示されます。

- 2 1 つまたは複数のフィールドを選択して矢印ボタン ([>] および「<」) をクリックすることによって、フィールドをリスト間で移動します。二重矢印ボタン ([>>] または [<<]) をクリックすると、リスト間ですべてのフィールドを一度に移動できます。
- 3 [**OK**] をクリックすると、変更が保存されます。

メール条件の定義

メールの条件を指定することによって、各ユーザが不具合に関するメッセージを受信する条件を指定します。ユーザごとに別々のメール条件を定義できます。例えば、あるユーザは緊急という優先度が割り当てられた不具合のメッセージのみを受信するよう指定できます。

メール条件を定義するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**メールの設定**] リンクをクリックします。[メールの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [**条件**] タブをクリックします。



- 3 [**ユーザ**] リストで名前を選択します。
「**検出者**」または「**責任者**」も選択できます。これらの項目を選択すると、検出者が検出した不具合、または責任者が修復を担当している不具合に変更があると、そのユーザに通知が送信されます。
- 4 選択したユーザに不具合の変更を通知するには、[**すべての不具合**] チェック・ボックスを選択します。

- 5 あるいは、[条件] ボタンをクリックして、[フィルタ] ダイアログ・ボックスを開き、選択したユーザがメールを受信する条件を定義します。複数の条件を定義した場合は、すべての条件が満たされたときに、選択したユーザのみメールを受信します。フィルタリングの詳細については、『**Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド**』を参照してください。
- 6 [OK] をクリックして変更を保存し、終了します。

不具合に関するメールの題名のカスタマイズ

すべてあるいは特定のプロジェクトからユーザに自動的に送信される不具合に関する電子メールの題名をカスタマイズできます。例えば、次のように題名を定義できます。

Defect # 4321 has been created or updated - Buttons on print dialog are not aligned

題名には、Quality Center フィールドの値を含めることができます。送信された不具合のフィールドの値を含めるには、フィールド名の先頭に疑問符 (?) を付けます。フィールド名は大文字でなければなりません。次に例を示します。

Defect # ?BG_BUG_ID has been created or updated - ?BG_SUMMARY

すべてのプロジェクトの不具合メールの題名をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

- ▶ [サイト構成] タブで **AUTO_MAIL_SUBJECT_FORMAT** パラメータを追加して、すべてのプロジェクトに題名をカスタマイズできます。詳細については、78 ページ「Quality Center 設定パラメータの設定」を参照してください。

プロジェクトの不具合に関するメールの題名をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

- 1 「サイト管理者」で [プロジェクト] タブをクリックします。
- 2 [プロジェクト] リストで、電子メールの題名をカスタマイズするプロジェクトをダブルクリックします。
- 3 **DATACONST** テーブルを選択します。
- 4 SQL 表示枠で、SQL INSERT ステートメントを入力し、次の値を持つテーブルに 1 行挿入します。

- ▶ **DC_CONST_NAME** カラムで、パラメータ名 **AUTO_MAIL_SUBJECT_FORMAT** を挿入します。
- ▶ **DC_VALUE** カラムで、題名に含める文字列とフィールド名を挿入します。

例えば、次の SQL ステートメントを SQL 表示枠に入力します。

```
insert into dataconst values ('  
AUTO_MAIL_SUBJECT_FORMAT','DEFAULT.TESTPROJ - Defect #  
?BG_BUG_ID has been created or updated - ?BG_SUMMARY')
```

定義した題名はプロジェクトに固有であるため、題名にプロジェクト名を含めることもできます。

プロジェクト・テーブルの変更の詳細については、22 ページ「プロジェクト・テーブルのクエリ実行」を参照してください。

- 5 **[SQL の実行]** ボタンをクリックします。新しい行が DATACONST テーブルに追加されます。
- 6 **Quality Center** サーバを再起動します。以降、プロジェクトから自動送信される不具合に関する電子メールに新しい題名が含まれます。

第 12 章

トレーサビリティ通知ルールの設定

Quality Center 管理者は、プロジェクトのトレーサビリティ通知ルールを有効にできます。これによって、テスト・プロセスに影響を与える可能性のある変更がプロジェクトで発生すると、警告の作成と電子メールの送信が行われ、担当者に通知されます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ トレーサビリティ通知ルールの設定について
- ▶ トレーサビリティ通知ルールの設定

トレーサビリティ通知ルールの設定について

プロジェクトのテスト・プロセスを実行する際に、要件、テスト、および不具合を追跡できます。エンティティが変更された場合は、関連付けられているエンティティの担当者に通知するよう Quality Center に指示できます。

有効にできるトレーサビリティ通知ルールは、Quality Center で作成可能な次の関連付けに基づいています。

- ▶ テスト計画ツリーのテストを要件に関連付けることができます。これを行うには、テスト計画モジュールで**要件カバレッジ**を作成するか、要件モジュールで**テスト・カバレッジ**を作成します。
- ▶ テストを不具合に関連付けることができます。これを行うには、テスト計画モジュールで、**[関連不具合]** コマンドを選択するか、手動テストの実行中に不具合を追加します。

第2部・プロジェクトのカスタマイズ

プロジェクトに関連付けを設定すると、これらの関連付けを使用して変更を追跡できるようになります。プロジェクトのエンティティが変更されると、その変更の影響を受ける可能性のある、関連付けられているエンティティが通知されます。

通知のために、2つの手順が実行されます。まず、関連付けられているエンティティにフラグが立てられます。次に、そのエンティティを担当するユーザーに電子メールが送信されます。

有効にできるトレーサビリティ通知ルールは、次の4つです。

ルール	フラグの立てられたエンティティ	電子メールの送信先ユーザー	エンティティの変更内容
1	テスト	テストの設計者。 (テスト計画モジュールの [詳細] タブの [設計者] ボックスに表示されます。)	関連付けられている要件の何らかの形での変更 (ステータスの変更は除く)。例えば、添付ファイルの追加などです。
2	テストのインスタンス	テスト責任者。 (テストのラボ・モジュールの実行グリッドの [テスト責任者] カラムに表示されます。)	関連付けられている不具合のステータスの「修正済み」への変更。

ルール	フラグの立てられたエンティティ	電子メールの送信先ユーザ	エンティティの変更内容
3	不具合	不具合を担当するユーザ。 (不具合モジュールの「 責任者 」カラムに表示されます。)	関連付けられているテスト実行のステータスの「Passed」(成功)への変更。
4	テスト	すべてのプロジェクト・ユーザ。次に注意してください。 <ul style="list-style-type: none"> ● テスト設計者のみに電子メールで通知。 ● テスト設計者のみが警告を削除可能。 (テスト設計者名がテスト計画モジュールの「 設計者 」ダイアログ・ボックスの「 詳細 」タブに表示されます。)	関連付けられている要件の何らかの形での変更(ステータスの変更は除く)。例えば、添付ファイルの追加などです。

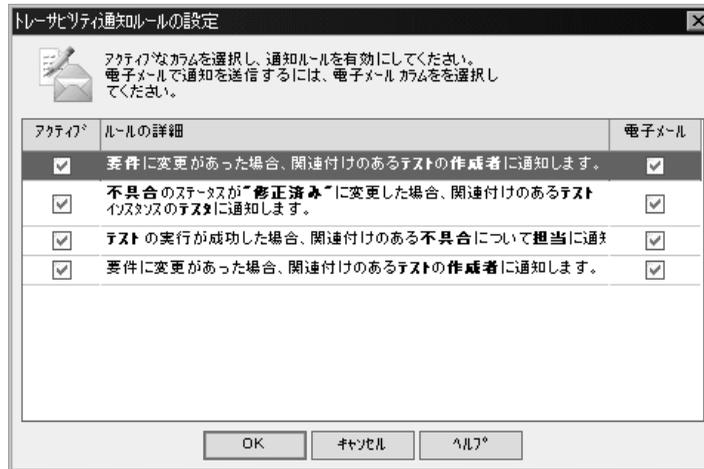
トレーサビリティの詳細については、『Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

トレーサビリティ通知ルールの設定

4つのトレーサビリティ通知ルールを有効にできます。

トレーサビリティ通知ルールを設定するには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [トレーサビリティ通知ルールの設定] リンクをクリックします。[トレーサビリティ通知ルールの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 トレーサビリティ通知ルールを有効にするには、[アクティブ] カラムのチェック・ボックスを選択します。これによって、関連付けられているエンティティが変更されると、エンティティにフラグが立ちます。
- 3 関連付けられているエンティティが変更されると指定したユーザに通知電子メールが送信されるようにするには、[電子メール] カラムのチェック・ボックスを選択します。
- 4 [OK] をクリックし、変更を保存します。

第 13 章

ワークフロー・スクリプトの生成

Quality Center には、不具合モジュール・ダイアログ・ボックスで必要とされるカスタマイズを実行できるよう、スクリプト・ジェネレータが含まれています。

ワークフロー・スクリプトを記述してユーザ・インタフェースをカスタマイズし、任意の Quality Center モジュールでユーザ・アクションを制御する方法の詳細については、第 3 部「ワークフローのカスタマイズ」を参照してください。

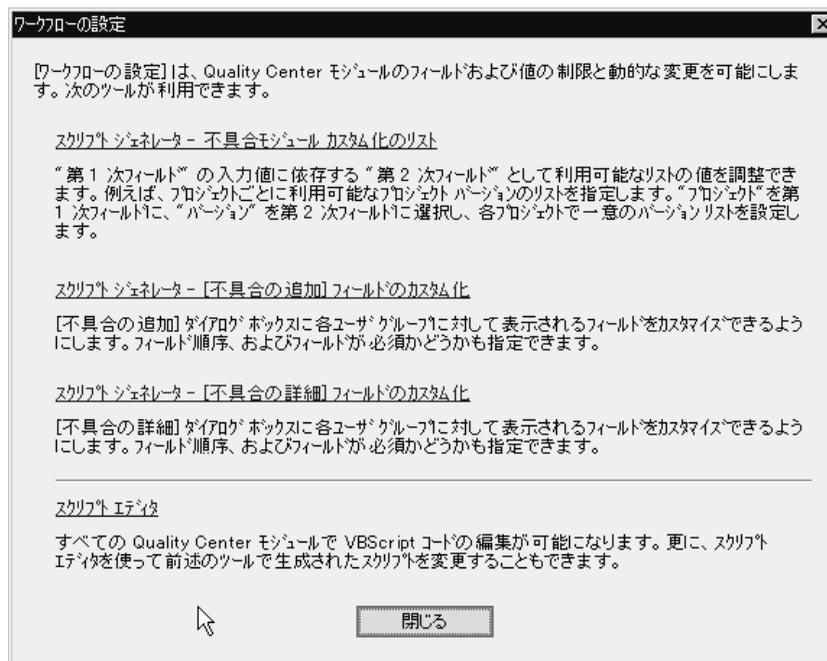
本章では、以下の項目について説明します。

- ▶ ワークフロー・スクリプトの作成について
- ▶ 不具合モジュール・フィールド・リストのカスタマイズ
- ▶ 不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ

ワークフロー・スクリプトの作成について

[ワークフローの設定] ダイアログ・ボックスには、スクリプト・ジェネレータとスクリプト・エディタへのリンクがあります。スクリプト・ジェネレータを使用して、不具合モジュール・ダイアログ・ボックスの入力フィールドに対するカスタマイズを実行できます。スクリプト・エディタを使用して、任意の Quality Center モジュールでワークフローを制御するスクリプトを作成できます。

[ワークフローの設定] ダイアログ・ボックスを開くには、[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウで **[ワークフローの設定]** リンクをクリックします。



[ワークフローの設定] ダイアログ・ボックスには、次のリンクが含まれます。

- ▶ **[スクリプト ジェネレータ - 不具合モジュール カスタム化のリスト]** リンクを使用して、不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのフィールドのフィールド・リストの表示をカスタマイズできます。詳細については、157 ページ「不具合モジュール・フィールド・リストのカスタマイズ」を参照してください。
- ▶ **[スクリプト ジェネレータ - [不具合の追加] フィールドのカスタム化]** リンクを使用して、[不具合の追加] ダイアログ・ボックスの外観を変更できます。

詳細については、161 ページ「不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ」を参照してください。

- ▶ **[スクリプト ジェネレータ - [不具合の詳細] フィールドのカスタム化]** リンクを使用して、[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスの外観を変更できます。詳細については、161 ページ「不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ」を参照してください。
- ▶ **[スクリプト エディタ]** リンクを使用して、VBScript コードを記述して任意のモジュールで Quality Center ワークフローをカスタマイズできます。適切な Quality Center イベントにコードを配置して、対応するユーザ・アクションが発生したときにスクリプトが開始されるようにします。また、スクリプト・エディタを使用して、スクリプト・ジェネレータで作成されたスクリプトを変更できます。詳細については、第14章「ワークフローのカスタマイズの概要」を参照してください。

不具合モジュール・フィールド・リストのカスタマイズ

フィールド・リストは、ドロップ・ダウン・リストに表示される候補値リストで、ユーザはこのリストからフィールドの値を選択できます。

不具合モジュール・フィールドに使用するフィールド・リストは、もう1つのフィールドの値によって異なるリストを指定できます。例えば、[プロジェクト] フィールドの値に応じて、異なる [検出されたバージョン] リストが表示されるように設定できます。

注：このスクリプト・ジェネレータは、不具合モジュールのフィールド・リストをカスタマイズする場合のみ使用できます。

フィールド・リストをカスタマイズするには、次の規則を定義する必要があります。

- ▶ **第1次/第2次規則：**第1次および第2次フィールドを選択します。第1次フィールド値が変更されると、第2次フィールドの候補値リストが自動的に変更されます。例えば、[プロジェクト] を第1次フィールドとして選択し、[検出されたバージョン] を第2次フィールドとして選択します。

- ▶ **リスト比較規則** 第1次フィールドの各値に対して、第2次フィールドに表示するリストを選択します。

注：ワークフローのカスタマイズ機能を使って、移行ルールが定義されているフィールドの候補値リストを変更すると、フィールドはワークフロー・スクリプトと移行ルールの両方を満たすように変更されます。詳細については、112ページ「移行ルールの設定」を参照してください。

フィールド・リストをカスタマイズするには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [ワークフローの設定] リンクをクリックします。[ワークフローの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [スクリプト ジェネレーター不具合モジュール カスタム化のリスト] リンクをクリックします。[スクリプト ジェネレーターカスタマイズリスト] ダイアログ・ボックスが開きます。



3 [第1次 / 第2次規則] の下で、第1次フィールドと第2次フィールドを選択します。

- ▶ ルールを設定するには、[<第1次フィールドの選択>] リンクをクリックし、フィールド名を選択します。 [<第2次フィールドの選択>] リンクをクリックし、フィールド名を選択します。
- ▶ 新しいルールを追加するには、[第1次 / 第2次規則の追加] ボタンをクリックします。 [第1次フィールドの選択] および [第2次フィールドの選択] のフィールド名を選択します。
- ▶ 規則を削除するには、規則を選択し、[第1次 / 第2次規則の削除] ボタンをクリックします。 [はい] をクリックします。

4 [第1次 / 第2次規則] の下で、リスト比較規則を設定する第1次 / 第2次規則を選択します。



5 [リスト比較規則] の下で、第1次フィールドに入力した特定の値に対して第2次フィールドに使用するフィールド・リストを選択します。

- ▶ 定義されている第1次フィールド値のルールを設定するには、[リストの選択] をクリックし、リスト名を選択します。
- ▶ 未定義の第1次フィールド値のルールを設定するには、[値の入力] をクリックし、第1次フィールド値を入力します。Enter キーを押します。[リストの選択] をクリックし、リスト名を選択します。



- ▶ 新しいリスト比較規則を追加するには、[リスト比較規則の追加] ボタンをクリックします。[値の入力] をクリックし、第1次フィールド値を入力します。[リストの選択] をクリックし、リスト名を選択します。



- ▶ リスト比較規則を削除するには、規則を選択して [リスト比較規則の削除] ボタンをクリックします。[はい] をクリックします。

6 変更を保存するには、次のどれかを行います。

- ▶ [変更をスクリプトに適用] ボタンをクリックして変更を保存し、ダイアログ・ボックスを閉じます。
- ▶ [適用して表示] ボタンをクリックして変更を保存し、スクリプト・エディタで生成されたスクリプトを表示します。

スクリプト・エディタを使用して、スクリプト・ジェネレータで作成されたスクリプトを変更する場合、行った変更は、次にそのスクリプト・ジェネレータを実行したときに上書きされます。生成されたスクリプトは変更前に、名前を付けて保存しておくことを推奨します。スクリプト・エディタの詳細については、第15章「ワークフロー・スクリプト・エディタを使った作業」を参照してください。

不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ

[不具合の追加] ダイアログ・ボックスと [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスの表示内容を変更し、ユーザ・グループごとに異なるフィールドを表示できます。ユーザ・グループごとにダイアログ・ボックスに表示されるフィールドの順番を並べ替えることもできます。

例えば、[責任者] と [優先度] のフィールドは、開発者 (Developer) の権限を持つユーザに対してのみ表示できます。また、このユーザ・グループに対して [Assigned To] (責任者) フィールドをカスタマイズして、[Priority] (優先度) フィールドより先に表示することもできます。

すべてのユーザ・グループにカスタマイズを実行するには、スクリプト・エディタを使用してスクリプトを記述します。詳細については、221 ページ「使用例：不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ」を参照してください。

注： これらスクリプト・ジェネレータは、不具合モジュールのダイアログ・ボックスをカスタマイズする場合のみ使用できます。

不具合モジュール・ダイアログ・ボックスをユーザ・グループごとにカスタマイズするには、次の手順を実行します。

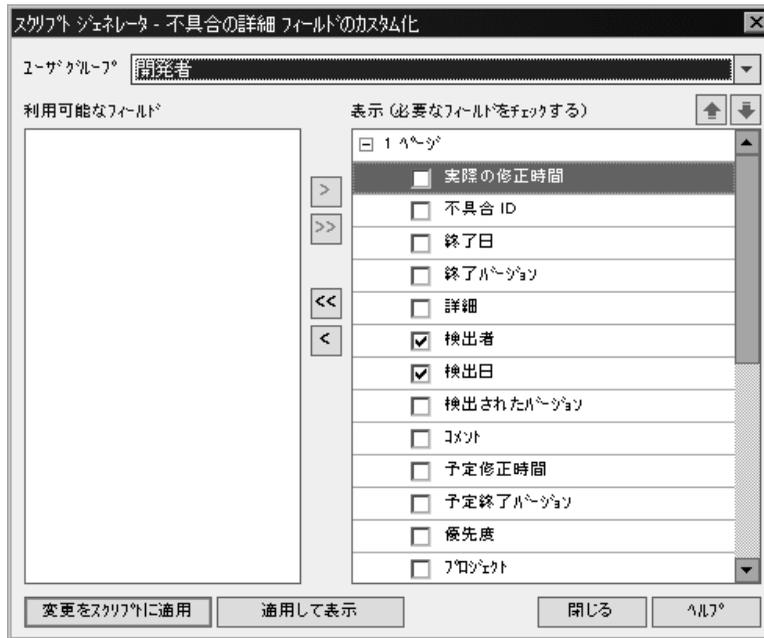
- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [ワークフローの設定] リンクをクリックします。[ワークフローの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [不具合の追加] ダイアログ・ボックスの表示内容を変更するには、[スクリプトジェネレーター [不具合の追加] フィールドのカスタム化] リンクをクリック

クします。[スクリプト ジェネレーター不具合の追加フィールドのカスタム化]ダイアログ・ボックスが開きます。



[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスの表示内容を変更するには、[スクリプト ジェネレーター [不具合の詳細] フィールドのカスタム化] リンクをクリック

クします。[スクリプト ジェネレーター-不具合の詳細フィールドのカスタム化] ダイアログ・ボックスが開きます。



[**利用可能なフィールド**] には、表示できるフィールド名がすべて表示されます。[**表示**] には、選択されているユーザ・グループに対して現在表示できるフィールド名と、その並べ替えの順番が表示されます。

- 3 [**ユーザグループ**] リストから、カスタマイズを適用するユーザ・グループを選択します。
- 4 フィールド名を選択し、矢印ボタン ([<] と [>]) をクリックして、[**利用可能なフィールド**] と [**表示**] 間で名前を移動します。すべてのフィールド名を一方のリストから他方に移動するには、二重矢印ボタン ([>>] または [<<]) をクリックします。フィールド名をドラッグしてリスト間でフィールド名を移動することもできます。
- 5 [**表示**] で、必須フィールドとなるフィールドを設定するには、フィールドの隣にあるチェック・ボックスを選択します。必須フィールドには、値を必ず入力します。[不具合の追加] ダイアログ・ボックスまたは [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスに、タイトルが赤で表示されます。



- 6 上向き矢印と下向き矢印を使用して、選択したユーザ・グループにフィールドが表示される順番を設定できます。また、フィールド名をドラッグして上または下に移動することもできます。
- 7 [不具合の追加] ダイアログ・ボックスと [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスに、1つまたは複数の入力ページを含むよう設定できます。標準設定では、すべてのフィールドは1ページに表示されます。上向き矢印と下向き矢印を使用して、各フィールドを適切なページに移動してください。
- 8 変更を保存するには、次のどれかを行います。
 - ▶ **[変更をスクリプトに適用]** ボタンをクリックして変更を保存し、ダイアログ・ボックスを閉じます。
 - ▶ **[適用して表示]** ボタンをクリックして変更を保存し、スクリプト・エディタで生成されたスクリプトを表示します。

スクリプト・エディタを使用して、スクリプト・ジェネレータで作成されたスクリプトを変更する場合、行った変更は、次にそのスクリプト・ジェネレータを実行したときに上書きされます。生成されたスクリプトは変更前に、名前を付けて保存しておくことを推奨します。スクリプト・エディタの詳細については、第15章「ワークフロー・スクリプト・エディタを使った作業」を参照してください。

第3部

ワークフローのカスタマイズ

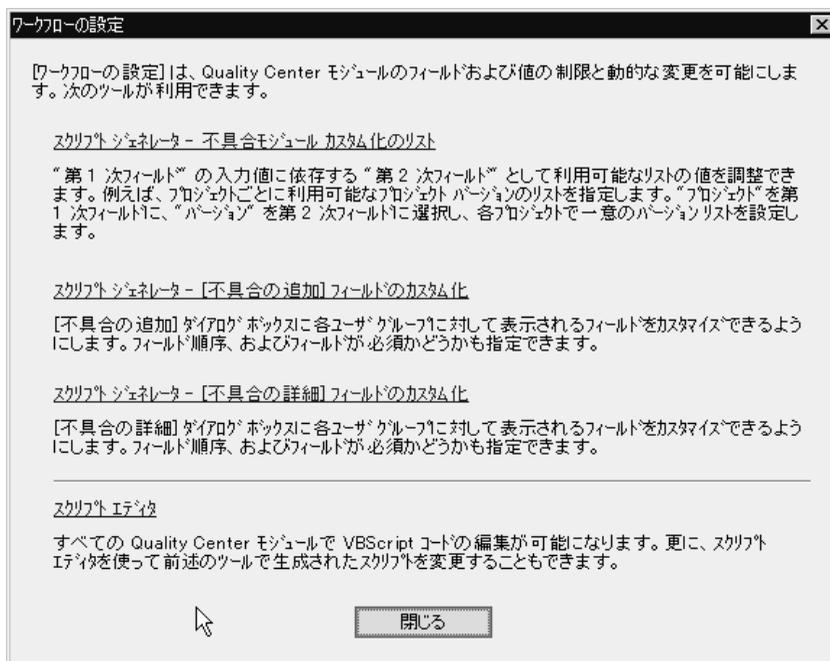
第 14 章

ワークフローのカスタマイズの概要

ワークフロー・スクリプトを作成して、Quality Center のユーザ・インタフェースをカスタマイズし、ユーザが実行できるアクションを制御できます。

ワークフローをカスタマイズするには、次の手順を実行します。

- 1 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [**ワークフローの設定**] リンクをクリックします。[ワークフローの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



- 2 不具合モジュール・ダイアログ・ボックスで必要とされるカスタマイズを実行するには、[ワークフローの設定] ダイアログ・ボックスで該当する [**スクリプト ジェネレータ**] リンクをクリックします。この機能を使用するのに、VBScript や、Quality Center のイベントおよびオブジェクトに精通している必要はありません。詳細については、第13章「ワークフロー・スクリプトの生成」を参照してください。
- 3 適切なイベント・プロシージャにコードを入力することによってスクリプトを記述したり変更したりするには、スクリプト・エディタを開きます。ワークフロー・スクリプトを作成するには、VBScript に精通する必要があります。スクリプト・エディタは、スクリプト・ジェネレータから開くことも、直接開くことも可能です。
 - ▶ スクリプト・ジェネレータによって作成されたスクリプトに似たスクリプトを記述する場合は、該当する [**スクリプト ジェネレータ**] リンクをクリックして、実行するカスタマイズを設定します。スクリプト・ジェネレータ・ダイアログ・ボックスの [**適用して表示**] ボタンをクリックします。スクリプト・エディタが開き、生成されたスクリプトが表示されます。
 - ▶ 独自のスクリプトを作成するには、[**スクリプト エディタ**] リンクをクリックします。スクリプト・エディタが開き、既存のイベント・プロシージャが一覧表示されたスクリプト・ツリーが表示されます。

スクリプト・エディタの詳細については、第15章「ワークフロー・スクリプト・エディタを使った作業」を参照してください。
- 4 どの Quality Center イベントによってスクリプトが呼び出されるかを決定します。適切なモジュールまたはイベントのプロシージャにコードを配置し、適切なユーザ・アクションで起動されるようにする必要があります。詳細については、第16章「ワークフロー・イベントのリファレンス」を参照してください。
- 5 スクリプトがアクセスする Quality Center オブジェクトを決定します。スクリプトは、適切なオブジェクトから取得された情報に基づいてカスタマイズを実行します。オブジェクトのメソッドおよびプロパティを使用して、ワークフローをカスタマイズします。詳細については、第17章「ワークフロー・オブジェクトの参照情報」を参照してください。
- 6 サンプル・スクリプトを検証し、使用目的に合わせて変更可能なものを見つけます。サンプル・スクリプトは、本書および Quality Center Knowledge Base で提供しています。ワークフロー・スクリプト・ジェネレータによって生成されたスクリプトを、独自のスクリプトの基礎として使用することもできます。

- ▶ ワークフロー・スクリプトを使用して実行可能な共通カスタマイズの例については、第 18 章「ワークフローの例」を参照してください。
- ▶ ワークフロー・スクリプトの例が含まれる Knowledge Base の文献の索引は、Quality Center Knowledge Base (<http://support.mercury.com>) を参照し、Problem ID 29497 を検索してください。

第 15 章

ワークフロー・スクリプト・エディタを使った作業

スクリプト・エディタを使用して、ワークフロー・スクリプトの作成、ユーザ・インタフェースのカスタマイズ、ユーザ・アクションの制御が行えます。

本章では、以下の項目について説明します。

- ▶ ワークフロー・スクリプト・エディタを使った作業について
- ▶ スクリプト・エディタ
- ▶ ワークフロー・スクリプトの作成
- ▶ ツールバーへのボタンの追加
- ▶ スクリプト・エディタのプロパティの設定

ワークフロー・スクリプト・エディタを使った作業について

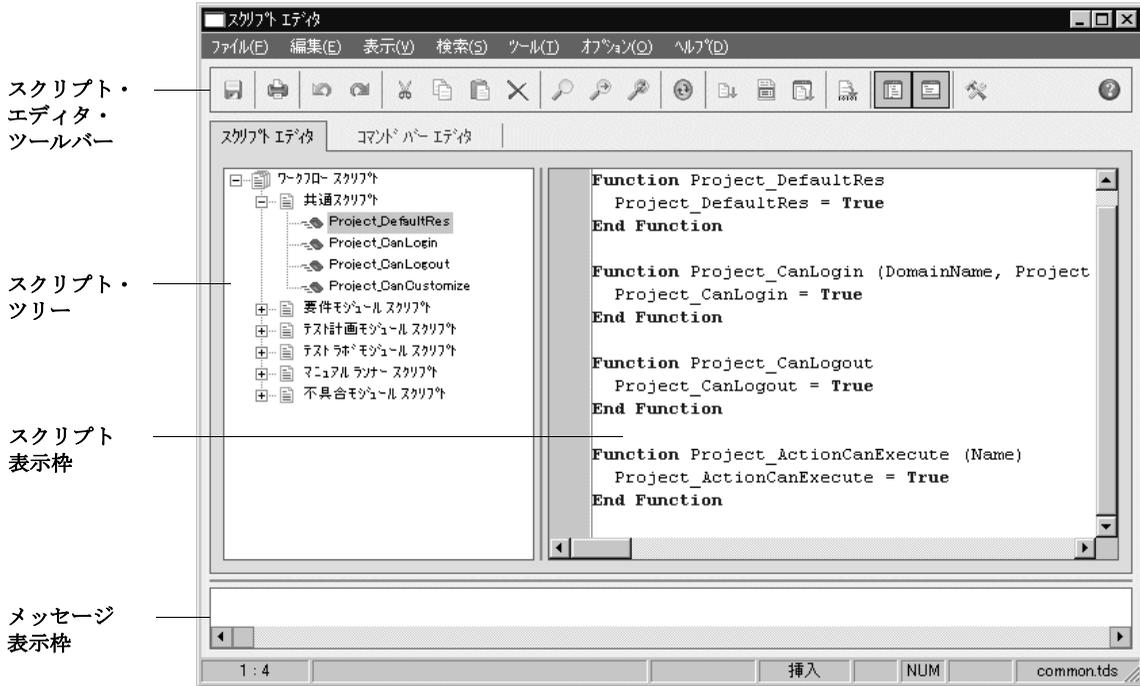
スクリプト・エディタを使用して、ワークフロー・スクリプトの作成、Quality Center モジュール・ウィンドウへのツールバー・ボタンの追加が行えます。

スクリプト・エディタ・ダイアログ・ボックスには、次の2つのタブがあります。

- ▶ **[スクリプト エディタ]** タブ : [スクリプト エディタ] タブを使用して、ワークフロー・スクリプトを作成し編集できます。スクリプト・エディタを使用して、適切な Quality Center イベント・プロシージャにコードを配置します。スクリプト・エディタの使用法の詳細については、176 ページ「ワークフロー・スクリプトの作成」を参照してください。
- ▶ **[コマンドバー エディタ]** タブ : [コマンドバー エディタ] タブを使用して、Quality Center モジュール・ウィンドウにツールバー・ボタンを追加します。詳細については、179 ページ「ツールバーへのボタンの追加」を参照してください。

スクリプト・エディタ

スクリプト・エディタを使用して、スクリプト・ジェネレータで生成したスクリプトを変更したり、ユーザ定義のワークフロー・スクリプトを作成したりできます。スクリプト・エディタの起動の詳細については、第14章「ワークフローのカスタマイズの概要」を参照してください。



[スクリプト エディタ] ウィンドウに含まれる要素は次のとおりです。

- ▶ **スクリプト・エディタ・ツールバー**：スクリプト作成時に使用するボタンが含まれます。詳細については、173 ページ「スクリプト・エディタ・コマンドについて」を参照してください。
- ▶ **スクリプト・ツリー**：コードを追加できるイベント・プロシージャが一覧表示されます。イベント・プロシージャは、それらが呼び出されるモジュールごとにグループ分けされています。詳細については、第16章「ワークフロー・イベントのリファレンス」を参照してください。
- ▶ **スクリプト表示枠**：選択されたイベント・プロシージャのコードが表示されます。スクリプトを作成または変更するには、イベント・プロシージャに

VBScript コードを追加します。詳細については、176 ページ「ワークフロー・スクリプトの作成」を参照してください。

- ▶ **[スクリプト エディタ]** タブ：スクリプト・ツリーとスクリプト表示枠があります。
- ▶ **[コマンド バー エディタ]** タブ：Quality Center モジュールのツールバーのボタンを定義するために使用します。詳細については、179 ページ「ツールバーへのボタンの追加」を参照してください。
- ▶ **メッセージ表示枠**には、スクリプトの保存時または検証時に発生する構文エラーが表示されます。

スクリプト・エディタ・コマンドについて

スクリプト・エディタのツールバー、メニュー・バー、ショートカット・メニューには、次のボタンとメニュー・コマンドが含まれます。



[上書き保存]：選択されているモジュールのスクリプトに行った変更を保存します。



[印刷]：表示されているスクリプトを印刷します。



[元に戻す]：直前に行ったコマンドを元に戻すか、直前に入力したエントリを削除します。



[やり直し]：直前の **[元に戻す]** コマンドの実行をやり直します。



[切り取り]：選択したテキストを削除し、クリップボードに置きます。



[コピー]：選択したテキストをクリップボードにコピーします。



[貼り付け]：クリップボードの内容を挿入点に挿入します。



[削除]：選択したテストを削除します。



[検索]：選択されたモジュールのスクリプト内で指定されたテキストを検索します。



[次を検索]：[テキスト検索] ダイアログ・ボックスで指定したテキストが存在する次の場所を検索します。



[置換]：指定したテキストを置換テキストに置き換えます。



[**ツリーをスクリプトに合わせて更新**]：スクリプト・ツリーを更新して、追加、削除、名前の変更を行った手順を反映します。



[**コード完了**]：スクリプトに挿入できるオブジェクト、プロパティ、メソッド、またはフィールド名のリストを表示します。



[**コードのテンプレート**]：スクリプトに挿入できる一般的に使用する VBScript ステートメントのテンプレートのリストを表示します。



[**値の一覧**]：[リストから値を選択] ダイアログ・ボックスが開き、プロジェクト・リストから項目を選択できます。



[**構文チェック**]：スクリプトの構文を確認し、メッセージ表示枠にメッセージを表示します。



[**スクリプト ツリーを表示 / 隠す**]：スクリプト・ツリーを表示または非表示にします。スクリプト・ジェネレータからスクリプト・エディタを開いた場合は、これは使用できません。



[**メッセージ枠を表示 / 隠す**]：メッセージ表示枠を表示または非表示にします。



[**プロパティ**]：[プロパティ] ダイアログ・ボックスが開き、スクリプト・エディタのプロパティを変更できます。詳細については、182 ページ「スクリプト・エディタのプロパティの設定」を参照してください。

[**すべて保存**]：すべてのモジュールでスクリプトの変更を保存するには、**[ファイル] > [すべて保存]** を選択します。

[**保存時の状態に戻す**]：モジュールを保存時のバージョンに戻すには、変更したモジュールを選択して、**[ファイル] > [保存時の状態に戻す]** を選択します。

[**すべて選択**]：スクリプト表示枠のすべてのテキストを選択するには、**[編集] > [すべて選択]** を選択します。

[**すべて展開**]：スクリプト・ツリーのすべてのノードを展開するには、**[表示] > [すべて展開]** を選択します。

[**すべて閉じる**]：スクリプト・ツリーのすべてのノードを閉じるには、**[表示] > [すべて閉じる]** を選択します。

[**次の行番号に移動**]：スクリプト・エディタ内の特定の行番号にジャンプするには、**[検索] > [次の行番号に移動]** を選択します。

[**フィールド名**] : プロジェクトのフィールド名のリストから選択するには、
[**ツール**] > [**フィールド名**] を選択します。

[**メッセージをクリア**] : メッセージ表示枠に表示される構文メッセージをクリアするには、[**ツール**] > [**メッセージをクリア**] を選択します。

[**フィールド名の並べ替え (フィールド ラベル順)**] : [**フィールド名**] オプションを選択すると、スクリプト・エディタは Quality Center データベース・テーブルで使用されるフィールド名 (例 : **BG_BUG_ID**) によってリストを並べ替えます。フィールド・ラベル (例 :Defect ID) によってフィールドを並べ替えるには、スクリプト表示枠を右クリックして、[**フィールド名の並べ替え (フィールド ラベル順)**] を選択します。

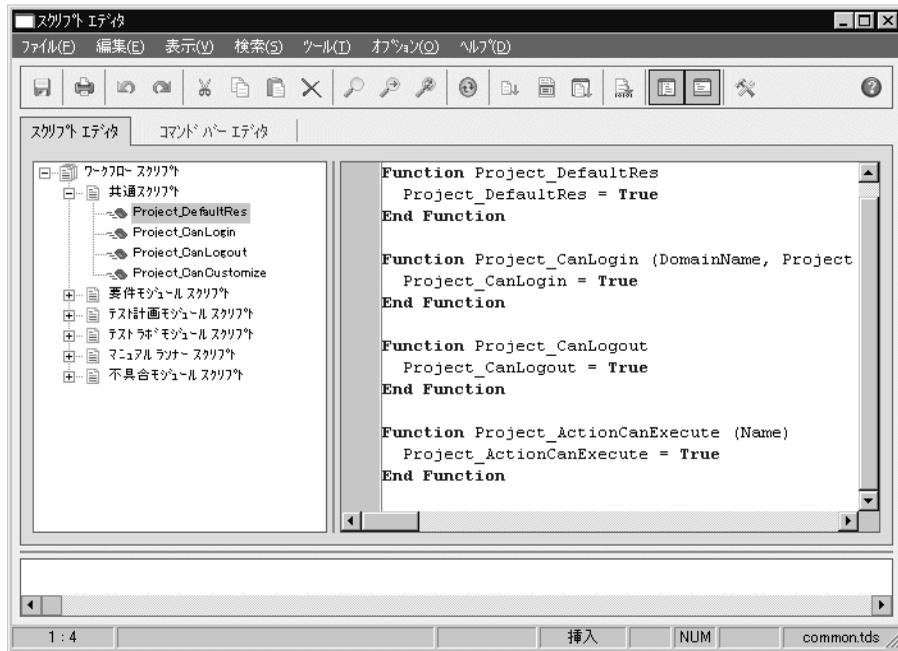
[**VBScript ホームページ**] : VBScript 言語のヘルプにアクセスするには、[**ヘルプ**] > [**VBScript ホームページ**] を選択します。

ワークフロー・スクリプトの作成

スクリプト・エディタを使用して、VBScript コードを Quality Center イベント・プロシージャに追加したり、Quality Center イベント・プロシージャから呼び出すことのできるユーザ定義のプロシージャを作成したりします。

ワークフロー・スクリプトを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 [ワークフローの設定] ウィンドウの [スクリプト エディタ] リンクをクリックします。[スクリプト エディタ] が開きます。



[スクリプト エディタ] ウィンドウの詳細については、172 ページ「スクリプト・エディタ」を参照してください。

- 2 スクリプト・エディタのスクリプト・ツリーで、ワークフローをカスタマイズする必要のあるモジュールのノードを拡張します。

スクリプト・ツリーには、各モジュール用のノードのほかに共通スクリプト・ノードがあります。いくつかのモジュールからアクセスできるようにする必要のあるユーザ定義プロシージャを作成する場合は、これらを「**共通スクリプト**」ノードの下に置きます。すべてのモジュールで使用できるグローバル変数

を宣言するには、「共通スクリプト」ノードの下、任意の関数の外で変数を宣言します。

- 3 コードを呼び出すタイミングによって、コードを追加する必要のあるイベント・プロシージャを選択します。このイベント・プロシージャの既存のスクリプトは、スクリプト表示枠に表示されます。

Quality Center イベント・プロシージャの説明については、第 16 章「ワークフロー・イベントのリファレンス」を参照してください。

- 4 VBScript コード行をスクリプトに追加します。

注：スクリプト・ツリーでモジュール名の横に表示される赤いインジケータ  は、そのモジュールに保存されていないスクリプト変更が含まれることを示します。



- 5 Quality Center オブジェクト、プロパティ、メソッド、フィールドの名前を直接入力するのではなく、コード完了機能を使用するには、オブジェクト名を挿入する位置に挿入ポイントを置き、[**コード完了**] ボタンをクリックします。Quality Center オブジェクトの詳細については、第 17 章「ワークフロー・オブジェクトの参照情報」を参照してください。



- 6 一般的に使用される VBScript ステートメントに入力するのではなく、コード・テンプレート機能を使用するには、コードを挿入する場所に挿入ポイントを置き、[**コードのテンプレート**] ボタンをクリックします。コード・テンプレート・リストから次の項目のどれかを選択します。

テンプレート	スクリプトに追加されるコード
FVal: Fields value access	Fields.Field("").Value
List: Quality Center list access	Lists.List()
IfAct: Action "switch" If Block	If ActionName = "" Then End IF
Act: Actions access	Actions.Action("")
Func: Function template	Function On Error Resume Next On Error GoTo 0End Function

テンプレート	スクリプトに追加されるコード
Sub: Sub Template	Sub On Error Resume Next On Error GoTo 0End Sub
Err: エラー処理	On Error Resume Next



7 プロジェクトで定義されたフィールド・リストから項目を挿入するには、項目を追加する場所に挿入ポイントを置きます。[値の一覧] ボタンをクリックします。[リストから値を選択] ダイアログ・ボックスの [リスト] ボックスで、リストの名前を選択します。[リスト項目] ボックスで、リストの値を選択します。

8 Quality Center フィールド名を挿入するには、フィールド名を追加する場所に挿入ポイントを置きます。[ツール] > [フィールド名] を選択します。Quality Center プロジェクトで、システムとユーザ定義フィールドのリストから名前を選択します。



9 スクリプトの構文を検証するには、[構文チェック] をクリックします。メッセージ表示枠に任意のメッセージが表示されます。



10 [上書き保存] ボタンをクリックして、スクリプトを保存します。

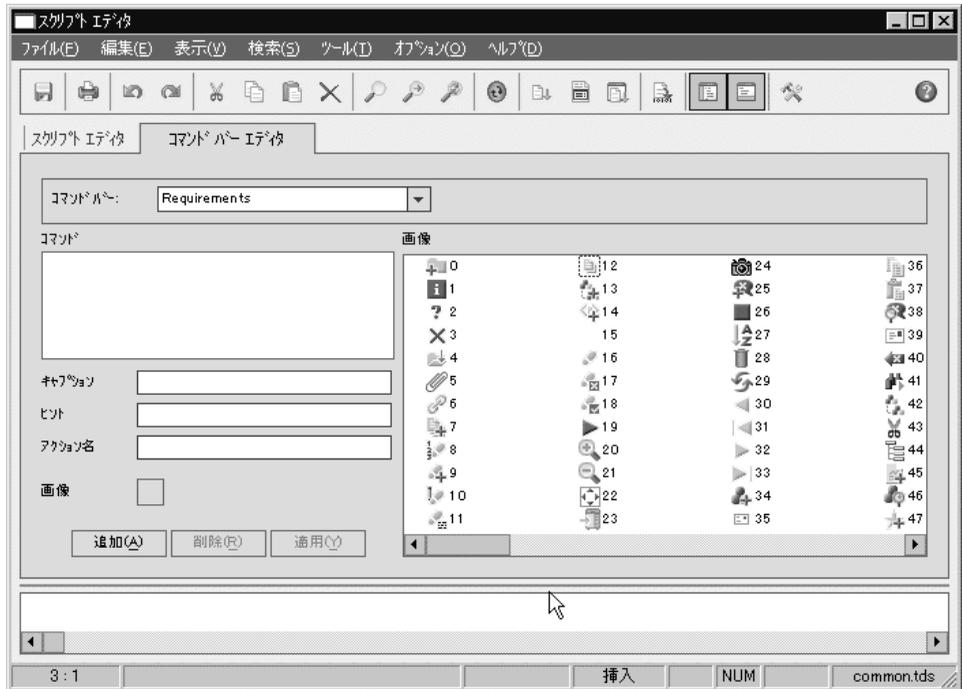
11 スクリプト・エディタを閉じます。

ツールバーへのボタンの追加

コマンド・バー・エディタを使用して、Quality Center モジュールのウィンドウまたは [マニユアルランナー] ダイアログ・ボックスに表示されるツールバー・ボタンを定義できます。

ツールバーにボタンを追加するには、次の手順を実行します。

- 1 スクリプト・エディタで、[コマンドバーエディタ] タブをクリックします。



- 2 [コマンドバー] リストから、ボタンを追加するツールバーを選択します。

オプション	ツールバーの位置
Requirements	要件モジュール・ウィンドウ
TestPlan	テスト計画モジュール・ウィンドウ
TestLab	テストのラボ・モジュール・ウィンドウ
ManualRun	[マニュアルランナー] ダイアログ・ボックス
Defects	不具合モジュール・ウィンドウ

- 3 [追加] をクリックします。ボタンの標準設定のコマンド名が [コマンド] リストに追加されます。
- 4 [キャプション] ボックスで、ボタンの新しいコマンド名を入力するか、標準設定の名前を使用します。
- 5 [ヒント] ボックスに、コマンドのヒントとなるテキストを入力します。
- 6 [アクション名] ボックスで、ボタンの新しいアクション名を入力するか、標準設定の名前を使用します。
- 7 [画像] で、コマンドのアイコンを選択します。
- 8 [適用] をクリックし、変更を適用します。
- 9 作成したボタンを削除するには、[コマンドリスト] でコマンド名を選択し、[削除] をクリックします。
-  10 [上書き保存] ボタンをクリックし、新しいボタン定義を保存します。
- 11 [スクリプト エディタ] タブをクリックします。
- 12 スクリプト・エディタのスクリプト・ツリーで、[コマンドバー] リストから選択したモジュールの **_ActionCanExecute** イベント・プロシージャを選択します。
- 13 スクリプト・エディタのスクリプト表示枠に表示されたプロシージャに、ボタンに定義されたアクション名でユーザがアクションを開始すると実行されるステートメントが追加されます。戻り値を **True** または **False** に設定します。

例えば、次のコードは、ユーザが要件モジュールのツールバーの Requirements_Action1 ボタンをクリックするとメッセージを出力します。

```
Function Requirements_ActionCanExecute(ActionName)
  On Error Resume Next
  Requirements_ActionCanExecute = True
  If ActionName = "Requirements_Action1" Then
    MsgBox "You clicked the Action1 button."
  End If
  On Error GoTo 0
End Function
```

詳細については、233 ページ「使用例：ボタン機能の追加」を参照してください。



14 **[上書き保存]** ボタンをクリックして、スクリプトを保存します。

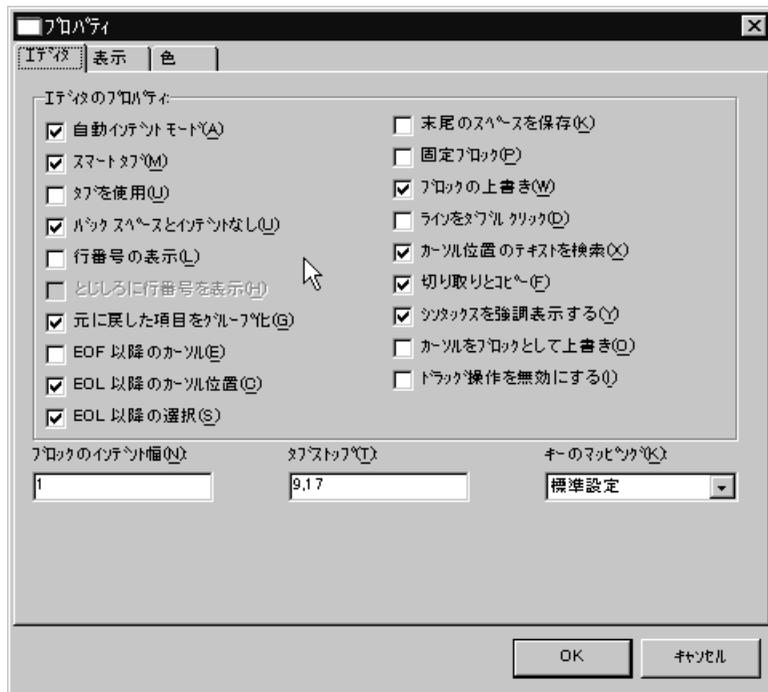
スクリプト・エディタのプロパティの設定

スクリプト・エディタの動作をカスタマイズできます。

スクリプト・エディタのプロパティを設定するには、次の手順を実行します。



- 1 スクリプト・エディタで、[プロパティ] ボタンをクリックするか、[オプション] > [エディタのプロパティ] を選択します。[プロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。



2 [エディタ] タブで次のオプションを設定できます。

オプション	詳細
自動インデントモード	空白ではない前の行の、空白ではない最初の文字の下にカーソルを置いて、 Enter キーを押します。
スマート タブ	前の行の空白でない最初の空白でない文字と同じ位置へのタブです。[タブを使用] が選択されている場合は、このオプションはクリアされます。
タブを使用	タブ文字を挿入します。このオプションがクリアされている場合は、スペース文字が挿入されます。[スマート タブ] が選択されている場合は、このオプションはクリアされます。
バックスペースとインデントなし	カーソルが空白以外の最初の文字上に置かれている場合、 Backspace キーを押したときに、前のインデント・レベルに挿入ポイントを配置します。
行番号の表示	行番号を表示します。このオプションが選択されている場合は、[とじしろに行番号を表示] が有効になります。
とじしろに行番号を表示	左マージンでなくとじしろ部分に行番号が表示されます。[行番号の表示] が選択されている場合は、このオプションが有効になります。
元に戻した項目をグループ化	Alt + Backspace キーを押すか、[編集] > [元に戻す] を選択すると、最後の編集コマンドの操作と、同じコマンドで行われた以前の編集操作のすべてが元に戻されます。
EOF 以降のカーソル	コードの最終行の後に挿入ポイントを置けるようになります。
EOL 以降のカーソル位置	EOL (end-of-line) の後にカーソルを置けるようになります。
EOL 以降の選択	テキストの最後の後の文字を選択できるようになります。
末尾のスペースを保存	行末の空白スペースを保持します。

オプション	詳細
固定ブロック	矢印キーでカーソルを移動しても、新しいブロックを選択するまで、マークされているブロックの選択を保持します。
ブロックの上書き	マークされているブロックのテキストを、新しいテキストで置き換えます。 [固定ブロック] も選択されている場合、入力したテキストは現在選択しているブロックの後に追加されます。
ラインをダブルクリック	行中の任意の文字をダブル・クリックしたときに行全体を強調表示します。このオプションが選択されていない場合は、選択した文字だけが強調表示されます。
カーソル位置のテキストを検索	[検索] > [検索] を選択したとき、 [テキスト検索] ダイアログ・ボックスの [検索テキスト] リスト・ボックスに、カーソルが置かれているテキストを配置します。
切り取りとコピー	テキストが選択されていない場合でも、 [切り取り] コマンドと [コピー] コマンドを使用できるようにします。
シンタックスを強調表示する	スクリプト・エディタ内のテキストの色と属性を変更できます。強調表示のオプションを設定するには、 [表示] タブまたは [色] タブをクリックします。
カーソルをブロックとして上書き	上書きモードを使用しているときの、キャレットの外観を制御します。
ドラッグ操作を無効にする	テキストのドラッグ機能とドロップ機能を無効にします。
ブロックのインデント幅	スペースの数を指定して、マークされたブロックをインデントします。
タブストップ	Tab キーを押したときに、カーソルが移動する位置を指定します。
キーのマッピング	スクリプト・エディタ内でキーボード・マッピングを設定します。標準設定、クラシック、Brief, Epsilon, および Visual Studio のキーボード・マッピングをサポートします。

3 [表示] タブで次のオプションを設定できます。

オプション	詳細
エディタのとじしろ	段組みの間の表示, 幅, 色, およびスタイルを設定できます。
エディタの余白	右余白の表示, 幅, 色, スタイル, および位置を設定できます。
モノ フォントを使用する	[エディタのフォント] ボックスに, Courier など, 固定幅スクリーン・フォントのみを表示します。
エディタのフォント	使用できるテキスト・フォントを一覧表示します。
エディタの色	使用できる背景色を一覧表示します。
サイズ	フォント・サイズを一覧表示します。
読み取り専用の色を使用する	このオプションは使用できません。
特殊記号を描く	EOF (end-of-file), EOL (end-of-line), スペース, およびタブ文字を表示するための特殊文字を設定します。

4 [色] タブで次のオプションを設定できます。

オプション	詳細
色のクイック設定	定義済みの色の組み合わせを使用して、スクリプト・エディタの表示をすぐに設定できます。
要素	特定のコード要素に対する構文の強調表示を指定します。
前景色	選択されたコード要素に対する前景色を設定します。
背景色	選択されたコード要素に対する背景色を設定します。
次で標準設定を使用	前景色、背景色、あるいはその両方に対して、標準のシステム・カラーを使用してコード要素を表示します。
テキスト属性	コード要素の書式の属性を指定します。
開く	お使いのコンピュータから、カラー・スキーマをロードします。
上書き保存	お使いのコンピュータに、カラー・スキーマを保存します。

第 16 章

ワークフロー・イベントのリファレンス

ワークフロー・スクリプトを記述して、Quality Center ユーザが実行できるアクションおよびダイアログ・ボックスでユーザが使用できるフィールドをカスタマイズします。ワークフロー・スクリプトを記述するには、ユーザ・アクションによって生成されるイベント・プロシージャに VBScript コードを追加します。

本章では、以下の項目について説明します。

- ▶ Quality Center イベントについて
- ▶ Quality Center イベント・プロシージャの命名規則
- ▶ Quality Center イベントのリファレンス

Quality Center イベントについて

Quality Center ユーザ・セッション中に、ユーザが様々なアクションを開始すると Quality Center によってイベント・プロシージャが生成されます。プロシージャにコードを配置して、関連するユーザ・アクションの実行をカスタマイズできます。

スクリプト・エディタには、各 Quality Center モジュールのイベント・プロシージャが一覧表示され、適切なプロシージャにコードを追加できます。詳細については、第 15 章「ワークフロー・スクリプト・エディタを使った作業」を参照してください。

イベント・プロシージャに追加したコードは Quality Center オブジェクトにアクセスできます。詳細については、第 17 章「ワークフロー・オブジェクトの参照情報」を参照してください。

イベント・プロシージャは、関数またはサブルーチンとなります。

- ▶ **イベント関数**：これらのプロシージャは、ユーザ・アクションの実行の可否を判断するために Quality Center によって呼び出されます。これらの関数にコードを配置して、Quality Center がユーザの要求を実行できるかどうかを特定できます。コードから **False** の値が返されると、Quality Center はアクションを続行しません。

例えば、ユーザが [不具合の追加] ダイアログ・ボックスで [送信] ボタンをクリックすると、Quality Center はサーバのデータベースに不具合を送信する前に Defects_Bug_CanPost 関数を呼び出します。Defects_Bug_CanPost 関数にコードを追加して、Quality Center が不具合を送信するかどうかを制御できます。例えば、ユーザがコメントを追加しないと不具合を却下できないようにします。228 ページ「使用例：オブジェクトの検証」を参照してください。

- ▶ **イベント・サブルーチン**：イベント・サブルーチンは、イベントの発生時にアクションを実行する機会をユーザに与えるために呼び出されます。

例えば、ユーザが [不具合の追加] ダイアログ・ボックスを開くと、Quality Center は Defects_Bug_New サブルーチンを呼び出します。Defects_Bug_New サブルーチンにコードを追加することで、ユーザが [不具合の追加] ダイアログ・ボックスを開く際のアクションを実行できます。例えば、ユーザが QA Tester ユーザ・グループに属していない場合は、[検出モード] フィールドの値を BTW に変更することができます。228 ページ「使用例：ユーザ・グループに基づくフィールドの変更」を参照してください。

Quality Center イベント・プロシージャの命名規則

イベント・プロシージャの命名規則は次のとおりです。

<モジュール>_<エンティティ>_<イベント>

いくつかのイベント・プロシージャ名にはエンティティ名は含まれません。

モジュール

モジュール名は、プロシージャが発行される Quality Center モジュールまたはダイアログ・ボックスを示します。**モジュール**は次のいずれかです。

モジュール	プロシージャが発行されるモジュール
Project	これらのプロシージャはすべてのモジュールに共通です。これらは、スクリプト・エディタの「共通スクリプト」ノードの下に一覧表示されます。
Requirements	要件モジュール
TestPlan	テスト計画モジュール
TestLab	テストのラボ・モジュール
Defects	不具合モジュール
ManualRun	マニュアル・ランナー・ダイアログ・ボックス

注： マニュアル・ランナー・イベント・プロシージャからグローバル変数にアクセスすることはできません。マニュアル・ランナーに値を渡す、あるいはマニュアル・ランナーから値を渡すための次善策として、**Settings** オブジェクトを設定します。238 ページ「使用例：入力された最後の値の保存」を参照してください。

エンティティ

エンティティは次のいずれかです。

エンティティ	詳細
Req	要件モジュール：要件データ
Test	テスト計画モジュール：テスト・データ
DesignStep	テスト計画モジュール：デザイン・ステップ・データ
TestSet	テストのラボ・モジュール：テスト・セット・データ
TestSetTests	テストのラボ・モジュール：テスト・データ
Bug	不具合モジュール：不具合データ
Step	マニュアル・ランナー・ダイアログ・ボックス：テストの実行ステップ・データ
Run	マニュアル・ランナー・ダイアログ・ボックス：テストの実行データ

イベント

イベントは、関数名またはサブルーチン名です。イベント名は、190 ページ「Quality Center イベントのリファレンス」の一覧を参照してください。

Quality Center イベントのリファレンス

本項では、Quality Center イベント・関数とサブルーチンのアルファベット順のリファレンスを示します。このリファレンスには、イベント名、イベントの詳細、構文、タイプ（関数またはサブルーチン）、関数によって返される値、イベント・プロシージャを使用できるエンティティが含まれます。

イベント・プロシージャの命名規則については、189 ページ「Quality Center イベント・プロシージャの命名規則」を参照してください。

次のイベント関数が使用できます。

関数名	関数が呼び出されるタイミング
ActionCanExecute	ユーザ・アクションを実行する前
Attachment_CanDelete	添付ファイルを削除する前
Attachment_CanOpen	添付ファイルを開く前
Attachment_CanPost	添付ファイルを送信する前
CanAddTests	テスト・セットへテストを追加する前
CanCustomize	[カスタマイズ] ウィンドウを開く前
CanDelete	サーバからオブジェクトを削除する前
CanLogin	ユーザがプロジェクトにログインする前
CanLogout	ユーザがプロジェクトからログアウトする前
CanPost	サーバにオブジェクトを送信する前
CanRemoveTests	テスト・セットからテストを削除する前
DefaultRes	プロジェクトの標準設定を設定しなおす前
FieldCanChange	フィールドの値を変更する前
GetDetailsPageName	[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスを表示する前
GetNewBugPageName	[不具合の追加] ダイアログ・ボックスを表示する前

次のイベント・サブルーチンが使用できます。

サブルーチン名	サブルーチンが呼び出されるタイミング
AfterPost	オブジェクトがサーバに送信されたとき
Attachment_New	添付ファイルが追加されるとき
DialogBox	ダイアログ・ボックスが開くまたは閉じる時
EnterModule	ユーザがモジュールを切り替えるとき
ExitModule	ユーザがモジュールを終了するとき
FieldChange	フィールドの値が変わるとき

サブルーチン名	サブルーチンが呼び出されるタイミング
MoveTo	ユーザがフォーカスを変更するとき
MoveToSubject	テスト計画ツリーで、ユーザがサブジェクトをクリックするとき
New	オブジェクトが追加される時
RunTests	[テストのラボ] モジュールでユーザが [実行] をクリックするとき
RunTestSet	[テストのラボ] モジュールでユーザが [テストセットの実行] をクリックするとき
RunTestsManually	[テストのラボ] モジュールでユーザが [実行] > [手動で実行] をクリックするとき

ActionCanExecute

このイベントは、ユーザが開始したアクションが実行可能かどうかを検証するために、このアクションを Quality Center が実行する前に呼び出されます。

このイベント・プロシージャには、ユーザが特定のアクションを開始したときにアクションを実行する、あるいは特定の場合にアクションが実行されないようにするためのコードを追加することができます。232 ページ「使用例：ユーザ権限の制御」を参照してください。

構文	<モジュール> _ActionCanExecute(ActionName) ActionName には、ユーザが開始したアクションが入ります。
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Project_ActionCanExecute • Requirements_ActionCanExecute • TestPlan_ActionCanExecute • TestLab_ActionCanExecute • Defects_ActionCanExecute • ManualRun_ActionCanExecute

AfterPost

このイベントは、オブジェクトがサーバに送信された後で呼び出されます。

オブジェクトがサーバに送信された後、プロジェクト・フィールドが変更されてはなりません。新しい値がデータベースに保存されないためです。

構文	<モジュール> _ <エンティティ> _ AfterPost
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Req_AfterPost • TestPlan_Test_AfterPost • TestLab_TestSet_AfterPost • Defects_Bug_AfterPost • ManualRun_Step_AfterPost • ManualRun_Run_AfterPost

Attachment_CanDelete

このイベントは、添付ファイルが削除可能かどうかを検証するために、Quality Center がサーバから添付ファイルを削除する前に呼び出されます。

構文	<モジュール> _ Attachment_CanDelete(Attachment) Attachment は IAttachment インタフェースです。詳細については、『Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス』を参照してください。
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Attachment_CanDelete • TestPlan_Attachment_CanDelete • TestLab_Attachment_CanDelete • Defects_Attachment_CanDelete • ManualRun_Attachment_CanDelete

Attachment_CanOpen

このイベントは、添付ファイルを開くことができるかどうかを検証するために、Quality Center がサーバから添付ファイルを開く前に呼び出されます。

構文	<p><モジュール> _Attachment_CanOpen(Attachment)</p> <p>Attachment は IAttachment インタフェースです。詳細については、『Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス』を参照してください。</p>
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Attachment_CanOpen • TestPlan_Attachment_CanOpen • TestLab_Attachment_CanOpen • Defects_Attachment_CanOpen • ManualRun_Attachment_CanOpen

Attachment_CanPost

このイベントは、添付ファイルを送信できるかどうかを検証するために、Quality Center がサーバに添付ファイルを送信する前に呼び出されます。

構文	<p><モジュール> _Attachment_CanPost(Attachment)</p> <p>Attachment は IAttachment インタフェースです。詳細については、『Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス』を参照してください。</p>
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Attachment_CanPost • TestPlan_Attachment_CanPost • TestLab_Attachment_CanPost • Defects_Attachment_CanPost • ManualRun_Attachment_CanPost

Attachment_New

このイベントは、添付ファイルが Quality Center に追加されると呼び出されます。

構文	<モジュール> _Attachment_New(Attachment) Attachment は Attachment インタフェースです。詳細については、『Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス』を参照してください。
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Attachment_New • TestPlan_Attachment_New • TestLab_Attachment_New • Defects_Attachment_New • ManualRun_Attachment_New

CanAddTests

このイベントは、特定のテストを追加できるかどうかを検証するために、Quality Center がテスト・セットにテストを追加する前に呼び出されます。

構文	<モジュール> _<エンティティ> _CanAddTests(Tests_List) Tests_List はテスト ID の配列です。
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	TestLab_TestSet_CanAddTests

CanCustomize

このイベントは、特定のユーザが特定のオブジェクトをカスタマイズできるかどうかを検証するため、任意のユーザが [カスタマイズ] ウィンドウを開こうとすると呼び出されます。

構文	<モジュール> _CanCustomize(DomainName, ProjectName, UserName) DomainName はドメイン名, ProjectName はプロジェクト名, UserName はユーザ名です。
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	Project_CanCustomize

CanDelete

このイベントは、オブジェクトが削除可能かどうかを検証するために、Quality Center がサーバからオブジェクトを削除する前に呼び出されます。

次のオブジェクトに適用されます。要件、テストまたはサブジェクト・フォルダ (テスト計画モジュール)、テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダ (テスト・セット・モジュール)、および不具合。構文は、オブジェクトによって異なります。

- ▶ 要件と不具合への適用は、次のとおりです。

構文	<モジュール> _<エンティティ> _CanDelete
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Req_CanDelete • Defects_Bug_CanDelete

- ▶ テスト計画モジュールのテストまたはサブジェクト・フォルダへの適用は、次のとおりです。

構文	<p><モジュール> _ <エンティティ> _CanDelete(IsTest, Entity)</p> <p>各項目について説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IsTest が True の場合、Entity は ITest オブジェクトを参照します。IsTest が False の場合、Entity は ISubjectNode オブジェクトを参照します。ITest および ISubjectNode の詳細については、『Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス』を参照してください。 • Entity は、テストまたはサブジェクト・フォルダです。
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	TestPlan_Test_CanDelete

- ▶ テスト・セット・モジュールのテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダの場合：

構文	<p><モジュール> _ <エンティティ> _CanDelete(IsTestSet, Entity)</p> <p>各項目について説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IsTestSet が True の場合、Entity は ITestSet オブジェクトを参照します。IsTestSet が False の場合、Entity は ITestSetFolder オブジェクトを参照します。ITestSet および ITestSetFolder の詳細については、『Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス』を参照してください。 • Entity には、テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダのオブジェクトが含まれます。
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	TestLab_TestSet_CanDelete

CanLogin

このイベントは、特定のユーザが特定のプロジェクトにログインできるかどうかを検証するために呼び出されます。

構文	<モジュール> _CanLogin(DomainName, ProjectName, UserName) DomainName はドメイン名, ProjectName はプロジェクト名, UserName はユーザ名です。
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	Project_CanLogin

CanLogout

このイベントは、現在のユーザが現在のプロジェクトからログアウトできるかどうかを検証するために呼び出されます。

構文	<モジュール> _CanLogout
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	Project_CanLogout

CanPost

このイベントは、オブジェクトを送信できるかどうかを検証するために、Quality Center がサーバにオブジェクトを送信する前に呼び出されます。

このイベント・プロシージャには、特定の場合にはオブジェクトが送信されないようにするためのコードを追加できます。228 ページ「使用例：オブジェクトの検証」を参照してください。

構文	<モジュール> _<エンティティ>_CanPost
タイプ	関数

戻り値	True または False
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Req_CanPost • TestPlan_Test_CanPost • TestLab_TestSet_CanPost • Defects_Bug_CanPost • ManualRun_Step_CanPost • ManualRun_Run_CanPost

CanRemoveTests

このイベントは、特定のテスト・セットから特定のテストを削除できるかどうかを検証するために呼び出されます。

構文	<p><モジュール> _<エンティティ> _CanRemoveTests (Tests_List)</p> <p>Tests_List はテスト ID の配列です。</p>
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	TestLab_TestSet_CanRemoveTests

DefaultRes

このイベントは、ユーザが Quality Center イベントの標準設定を設定しなおそうとすると呼び出されます。関数が False を返すと、標準設定は再設定されません。

構文	<モジュール> _ DefaultRes
タイプ	関数
戻り値	True または False
使用可能範囲	Project_DefaultRes

DialogBox

このイベントは、ダイアログ・ボックスが開くか閉じると呼び出されます。

構文	<モジュール> _DialogBox(DialogBoxName, IsOpen) DialogBoxName はダイアログ・ボックスの名前です。 IsOpen はダイアログ・ボックスが開いているかどうかを示します。
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_DialogBox • TestPlan_DialogBox • TestLab_DialogBox • Defects_DialogBox • ManualRun_DialogBox

EnterModule

このイベントは、ユーザがこの Quality Center モジュールに切り替えると呼び出されます。

このイベント・プロシージャには、ユーザが特定のモジュールに切り替えるとアクションが実行されるようにするためのコードを追加できます。236 ページ「使用例：空のパスワードの検出」を参照してください。

構文	<モジュール> _EnterModule
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_EnterModule • TestPlan_EnterModule • TestLab_EnterModule • Defects_EnterModule • ManualRun_EnterModule

ExitModule

このイベントは、ユーザが特定のモジュールを終了すると呼び出されます。

構文	<モジュール> ExitModule
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_ExitModule • TestPlan_ExitModule • TestLab_ExitModule • Defects_ExitModule • ManualRun_ExitModule

FieldCanChange

このイベントは、フィールドが変更できるかどうかを特定するために、Quality Center によってフィールド値が変更される前に呼び出されます。

このイベント・プロシージャには、特定の場合にはフィールドが送信されないようにするためのコードを追加できます。229 ページ「使用例：フィールドの検証」を参照してください。

構文	<モジュール> _ <エンティティ> FieldCanChange(FieldName, NewValue) FieldName はフィールドの名前、 NewValue はフィールド値の名前です。
タイプ	関数
戻り値：	True または False
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Req_FieldCanChange • TestPlan_Test_FieldCanChange • TestPlan_DesignStep_FieldCanChange • TestLab_TestSet_FieldCanChange • TestLab_TestSetTests_FieldCanChange • Defects_Bug_FieldCanChange • ManualRun_Step_FieldCanChange • ManualRun_Run_FieldCanChange

別のフィールドのないように応じてフィールドの非表示にするためのコードを FieldChange イベント・プロシージャ（FieldCanChange イベント・プロシージャではない）に配置する必要があります。

FieldChange

このイベントは、特定のフィールドの値が変更されると呼び出されます。

フィールドがフォーカスを失っている場合は、値が変更されるたびにフィールドの変更イベントが呼び出されます。

このイベント・プロシージャには、特定のフィールドの値が変更されるとアクションが実行されるようにするためのコードを追加できます。例えば、ユーザが別のフィールドに入力した値に応じてフィールドを非表示にしたり表示したりできます。227 ページ「使用例：フィールドの別のフィールドに基づく変更」を参照してください。

構文	<モジュール> _<エンティティ> _FieldChange(FieldName) FieldName はフィールドの名前です。
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Req_FieldChange • TestPlan_Test_FieldChange • TestPlan_DesignStep_FieldChange • TestLab_TestSet_FieldChange • TestLab_TestSetTests_FieldChange • Defects_Bug_FieldChange • ManualRun_Step_FieldChange • ManualRun_Run_FieldChange

ユーザが [検索] > [置換] コマンドを使用してフィールド値を変更すると、ワークフロー・イベントは呼び出されません。ワークフロー・スクリプトで実装された制限が重要な場合は、特定のユーザ・グループに対して [置換] コマンドを無効にすることを検討し、ポリシーが無視されないようにします。

GetDetailsPageName

このイベントは、PageNum で指定されたインデックス番号を含む [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスのページ (タブ) の名前が Quality Center によって取得されると呼び出されます。

このイベント・プロシージャには、[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスのタブ名をカスタマイズするためのコードを追加できます。225 ページ「使用例：タブ名の変更」を参照してください。

構文	<モジュール> _GetDetailsPageName(PageName, PageNum) PageName は標準設定のページ名です (例えば Page 1 など)。 PageNum はページ番号です。
タイプ	関数
戻り値	String (ページ名を含む)
使用可能範囲	Defects_GetDetailsPageName

GetNewBugPageName

このイベントは、PageNum で指定されたインデックス番号を含む [不具合の追加] ダイアログ・ボックスのページ (タブ) の名前が Quality Center によって取得されると呼び出されます。

このイベント・プロシージャには、[不具合の追加] ダイアログ・ボックスのタブ名をカスタマイズするためのコードを追加できます。225 ページ「使用例：タブ名の変更」を参照してください。

構文	<モジュール> _GetNewBugPageName(PageName, PageNum) PageName は標準設定のページ名です (例えば Page 1 など)。 PageNum はページ番号です。
タイプ	関数
戻り値	String (ページ名を含む)
使用可能範囲	Defects_GetNewBugPageName

MoveTo

このイベントは、ユーザがあるオブジェクトから別のオブジェクトにフォーカスを変更すると呼び出されます。

このイベント・プロシージャには、ユーザがフォーカスを変更するとアクションを実行するようにするためのコードを追加できます。230 ページ「使用例：動的フィールドのリストの提示」を参照してください。

構文	<モジュール> _<エンティティ> _MoveTo
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Req_MoveTo • TestPlan_Test_MoveTo • TestPlan_DesignStep_MoveTo • TestLab_TestSet_MoveTo • TestLab_TestSetTests_MoveTo • Defects_Bug_MoveTo • ManualRun_Step_MoveTo

MoveToSubject

このイベントは、ユーザがテスト計画ツリーで特定のサブジェクトに移動すると呼び出されます。

構文	<p><モジュール> _MoveToSubject(Subject)</p> <p>Subject は ISysTreeNode インタフェースです。詳細については、『Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス』を参照してください。</p>
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	TestPlan_MoveToSubject

New

このイベントは、オブジェクトが **Quality Center** に追加されると呼び出されます。

このイベント・プロシージャには、新規オブジェクトが追加されるとアクションが実行されるようにするためのコードを追加できます。221 ページ「使用

例：不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ」を参照してください。

構文	<モジュール> _<エンティティ> _New
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	<ul style="list-style-type: none"> • Requirements_Req_New • TestPlan_Test_New • TestPlan_DesignStep_New • TestLab_TestSet_New • Defects_Bug_New • ManualRun_Step_New

RunTests

このイベントは、テストのラボ・モジュールでユーザが [実行] ボタンをクリックしてテストを実行すると呼び出されます。

構文	<モジュール> _RunTests(Tests) Tests はテスト ID の配列です。
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	TestLab_RunTests

RunTestSet

このイベントは、ユーザがテストのラボ・モジュールで [テストセットの実行] ボタンをクリックし、テスト・セットを実行すると呼び出されます。

構文	<モジュール> _RunTestSet(Tests) Tests はテスト ID の配列です。
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	TestLab_RunTestSet

RunTestsManually

このイベントは、ユーザが **[実行]** 矢印をクリックし、テストのラボ・モジュールで **[手作業で実行]** を選択してテストを実行すると呼び出されます。

構文	<モジュール> _RunTestsManually(Tests) Tests はテスト ID の配列です。
タイプ	サブルーチン
使用可能範囲	TestLab_RunTestsManually

第 17 章

ワークフロー・オブジェクトの参照情報

ワークフロー・スクリプトは、情報の取得とプロジェクト値の変更のために、Quality Center オブジェクトを参照できます。本章では、ワークフロー・スクリプトに使用できる Quality Center オブジェクトについて説明します。

本章では、以下の項目について説明します。

- ▶ Quality Center オブジェクトについて
- ▶ Actions オブジェクト
- ▶ Action オブジェクト
- ▶ Fields オブジェクト
- ▶ Field オブジェクト
- ▶ Lists オブジェクト
- ▶ TDConnection オブジェクト
- ▶ User オブジェクト

Quality Center オブジェクトについて

ワークフロー・スクリプトは、情報の取得、その情報に基づいた決定、これらの決定に基づいたプロジェクトの値の変更が行えます。

User オブジェクトや **Field** オブジェクトなどのオブジェクトにアクセスすることによって、現在のユーザが属するユーザ・グループなどの情報や、フィールドの値を取得できます。

スクリプトによって、フィールドの値またはフィールド・リストを変更できます。スクリプトによって、適切な **Field** オブジェクトの **Value** プロパティまたは **List** プロパティが変更されます。

ワークフロー・スクリプトを作成するための VBScript コードを配置するイベント・プロシージャの詳細については、第16章「ワークフロー・イベントのリファレンス」を参照してください。

次の表に、スクリプトの作成時に使用できる Quality Center オブジェクトを示します。

オブジェクト	説明
Actions	プロジェクト、要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、[マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスなどのモジュールに使用できるアクションのリスト。詳細については、210 ページ「Actions オブジェクト」を参照してください。
Action	Action オブジェクトは、 Actions オブジェクトによって操作されます。詳細については、210 ページ「Action オブジェクト」を参照してください。
Fields	<p>次のオブジェクトは特定のフィールドへのアクセスを提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Req_Fields: 要件モジュール。 • Test_Fields: テスト計画モジュールのテスト。 • DesignStep_Fields: テスト計画モジュールのデザイン・ステップ。 • TestSet_Fields: テストのラボ・モジュールのテスト・セット。 • TestSetTest_Fields: テストのラボ・モジュールのテスト。 • Bug_Fields : 不具合モジュールと [マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスの不具合。 • Step_Fields: [マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスのテスト・ステップ。 • Run_Fields: [マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスのテスト実行。 <p>詳細については、212 ページ「Fields オブジェクト」を参照してください。</p>
Field	Field オブジェクトは、 Fields オブジェクトによって操作されます。詳細については、213 ページ「Field オブジェクト」を参照してください。

オブジェクト	説明
Lists	Quality Center プロジェクトで使用できるリストが含まれます。詳細については、215 ページ「Lists オブジェクト」を参照してください。
TDCConnection	オープン・テスト・アーキテクチャ (OTA) ・オブジェクトへのアクセスを提供します。詳細については、216 ページ「TDCConnection オブジェクト」を参照してください。
User	現在のユーザのプロパティを含みます。このオブジェクトは、すべてのモジュールで使用できます。詳細については、216 ページ「TDCConnection オブジェクト」を参照してください。

注： 場合によっては、関数によってオブジェクトの ID のプロパティではなくオブジェクトそのものが返されることがあります。例えば、次のステートメントが実行された後、`testself` が **TestSetFolder** オブジェクトへの参照となります。

```
Set testself = TestSet_Fields("CY_FOLDER_ID").Value.
```

ワークフロー・スクリプトを記述するときに使用するスクリプト・エディタの詳細については、第 15 章「ワークフロー・スクリプト・エディタを使った作業」を参照してください。

本章では各 Quality Center オブジェクトに対して、オブジェクトのプロパティのリストを示します。このリストには、プロパティ名、説明、プロパティのデータ型が含まれます。プロパティが読み取り専用 (R) かスクリプトによって変更可能 (R/W) かが示されます。

Actions オブジェクト

Actions オブジェクトを使用して、ツールバー・ボタン、メニュー・コマンド、およびダイアログ・ボックスを操作できます。

例えば、ユーザが不具合モジュールに入力すると自動的に [不具合の追加] ダイアログ・ボックスが開くよう設定するには、次のコードを `Defects_EnterModule` イベント・プロシージャに配置します。

```
NewDefectAction=Actions.Action("BugAddAction1")
NewDefectAction.Execute
```

Actions オブジェクトのプロパティは、次のとおりです。

プロパティ	R/W	タイプ	詳細
Action	R	Object	リストのすべてのアクションにアクセスできます。このプロパティのインデックスはアクション名です。

Action オブジェクト

Action オブジェクトを使用して、ボタンやコマンドが有効か、チェックされているか、表示されているかを確認できます。また、このオブジェクトを使用してアクションを実行することもできます。

例えば、ユーザが不具合グリッドで不具合のある場所から別の場所に移動すると自動的に [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスが開くよう設定するには、次のコードを `Defects_Bug_MoveTo` イベント・プロシージャに配置します。

```
NewDefectAction=Actions.Action("DefectDetailsAction1")
NewDefectAction.Execute
```

アクション名を取得するには、モジュールの `ActionCanExecute` イベント・プロシージャに次の行を追加し、アクションを実行して、メッセージに表示されたアクション名を書き留めます。

```

Sub <module>_ActionCanExecute(ActionName)
    On Error Resume Next
    MsgBox "You have performed an action named: " & ActionName
    On Error GoTo 0
End Sub

```

このオブジェクトのプロパティは、次のとおりです。

プロパティ	R/W	タイプ	詳細
Checked	R/W	Boolean	アクションが Quality Center 中でチェックされているかどうかを示します。
Enabled	R/W	Boolean	アクションが有効であるかどうかを示します。無効なアクションは、ユーザは起動できませんが、ワークフロー・スクリプトからは起動できます。
Visible	R/W	Boolean	アクションが Quality Center 中で表示されているかどうかを示します。

Action オブジェクトには、次のメソッドが含まれます。

メソッド	詳細
Execute	アクションを実行します。

Action オブジェクトの **Execute** メソッドを使用して、ワークフロー・スクリプトからアクションが呼び出された場合、ユーザがダイアログ・ボックスからアクションを開始した場合に発行されるワークフロー・イベントは発行されません。したがって、**Action.Execute** を使用している場合は、ワークフロー・イベントに強制しているサイト・ポリシーをバイパスしないようにする必要があります。

Fields オブジェクト

ワークフロー・スクリプトで次のオブジェクトを使用して、Quality Center モジュールのフィールドにアクセスできます。

オブジェクト	詳細
Req_Fields	要件モジュールのフィールドへのアクセスを提供します。
Test_Fields	テスト計画モジュールのテストのフィールドへのアクセスを提供します。
DesignStep_Fields:	テスト計画モジュールのデザイン・ステップのフィールドへのアクセスを提供します。
TestSet_Fields	テスト計画モジュールのデザイン・ステップのフィールドへのアクセスを提供します。
TestSetTest_Fields	テスト計画モジュールのテストのフィールドへのアクセスを提供します。
Bug_Fields	不具合モジュールと [マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスの不具合フィールドへのアクセスを提供します。
Step_Fields	[マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスのステップのフィールドへのアクセスを提供します。
Run_Fields	[マニュアルランナー] ダイアログ・ボックスのテスト実行のフィールドへのアクセスを提供します。

例えば、**Req_Fields** オブジェクトのすべてのフィールドに特定のプロパティを設定するには、そのフィールドの ID 番号 (**Req_Fields.FieldByld**) を使用して各フィールドを参照できます。ダイアログ・ボックス内のすべてのフィールドを可視に設定するには、次のコードを使用できます。

```
For i = 1 to Req_Fields.Count
  Req_Fields.FieldByld(i).IsVisible = True
Next
```

これらのオブジェクトのプロパティは、次のとおりです。

プロパティ	R/W	タイプ	詳細
Count	R	Long	現在のオブジェクト内のフィールド数を返します。
Field(FieldName)	R	Object	フィールド名またはフィールド・ラベルを使用してフィールドにアクセスします。
FieldByld(FieldID)	R	Object	フィールドの ID 番号を使用してフィールドにアクセスします。

Field オブジェクト

Field オブジェクトを使用して、エンティティ・フィールドのプロパティにアクセスできます。

例えば、ユーザが **Status** フィールド内の値を変更する権限を持っていない場合にメッセージ・ボックスを表示するには、次のコードを使用できます。

```
Msgbox "You do not have permission to change <" & _
Bug_Fields.Field("BG_STATUS").FieldLabel & "> field."
```

Field オブジェクトのプロパティは、次のとおりです。

プロパティ	R/W	タイプ	詳細
FieldLabel	R	String	フィールドの表示ラベル。
FieldName	R	String	フィールドの論理名。
IsModified	R	Boolean	値が変更されたかどうかを示します。
IsNull	R	Boolean	フィールド値が欠如しているかどうかを示します。
IsReadOnly	R/W	Boolean	フィールド値が読み取り専用であるかどうかを示します。

プロパティ	R/W	タイプ	詳細
IsRequired	R/W	Boolean	<p>フィールド値が必要であるかどうかを示します。これにより、フィールドのカスタマイズ情報をオーバーライドできます。フィールドのIsRequired プロパティを変更するには、IsVisible プロパティは True でなければなりません。フィールド値が表示されていない場合、IsRequired になされた変更はすべて無視されます。</p> <p>注：このプロパティは Run_Fields オブジェクトと使用して実行フィールドを希望通り設定できません。</p>
IsVisible	R/W	Boolean	<p>フィールドが表示されているかどうかを示します。</p>
List	R/W	List	<p>タイプ・ルックアップ・リストのフィールドに添付されたフィールド・リストを設定または取得します。</p>
PageNo	R/W	Integer	<p>[不具合の追加] ダイアログ・ボックスまたは [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスでフィールドが表示されているページ (タブ) を設定または取得します。</p>
Value	R/W	Variant	<p>フィールドの値を設定または取得します。</p>
ViewOrder	R/W	Integer	<p>[不具合の追加] ダイアログ・ボックスまたは [不具合の詳細] ダイアログ・ボックスでフィールドが表示されている順番を設定または取得します。</p>

Lists オブジェクト

Lists オブジェクトを使用して、フィールドへの入力を値の特定のリストに制限できます。

例えば、[終了予定バージョン] フィールドのリストを [プロジェクト] フィールドの値に応じて設定するには、次のコードを使用できます。

```
If Bug_Fields.Field("BG_PROJECT").Value = "Project 1" Then
    Bug_Fields.Field("BG_PLANNED_CLOSING_VER").List _
    = Lists("All Projects")
...
End If
```

詳細については、230 ページ「使用例：動的フィールドのリストの提示」を参照してください。

Lists オブジェクトのプロパティは、次のとおりです。

プロパティ	R/W	タイプ	詳細
List	R	ISysTreeNode	Quality Center リストにアクセスします。

注：ワークフローのカスタマイズ機能を使って、移行ルールが定義されているフィールドの候補値リストを変更すると、フィールドはワークフロー・スクリプトと移行ルールの両方を満たすように変更されます。詳細については、112 ページ「移行ルールの設定」を参照してください。

TDConnection オブジェクト

ワークフロー・スクリプトでは、使用可能な唯一のオブジェクトは、コードが記述され、グローバル・オブジェクトの数が制限されるモジュールのオブジェクトです。グローバル・オブジェクトの1つが **TDConnection** オブジェクトです。**TDConnection** はオープン・テスト・アーキテクチャ (OTA) ・オブジェクトへのアクセスを提供します。

TDConnection オブジェクトを使用して、他のモジュールからオブジェクトにアクセスし、一般的なセッション・パラメータにアクセスすることができます。任意のプロシージャの **TDConnection** プロパティに任意のモジュールからアクセスできます。

TDConnection オブジェクトおよび **TDConnection** プロパティのリストの詳細については、『**Mercury Quality Center** オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス』を参照してください。

ワークフロー・スクリプトの **TDConnection** オブジェクトの使用例については、第18章「ワークフローの例」を参照してください。

User オブジェクト

User オブジェクトにアクセスして、現在のユーザ名を取得したり、ユーザが特定のユーザ・グループに属しているかどうかを検証したりできます。ユーザの氏名を取得または変更できます。

例えば、ユーザが管理者権限を持つ場合にメッセージ・ボックスが表示されるようにするには、次のコードを使用します。

```
If User.IsInGroup("TDAdmin") Then
    MsgBox "The user " & User.FullName & _
        " has administrative permissions for this project."
End If
```

詳細については、228 ページ「使用例：ユーザ・グループに基づくフィールドの変更」および 232 ページ「使用例：ユーザ権限の制御」を参照してください。

例えばユーザ・パスワードなど、**User** オブジェクトによってアクセスできないユーザ・プロパティにアクセスするには、Quality Center オープン・テスト・アー

キテクチャ (OTA) の **TDCConnection** オブジェクトを使用できます。詳細については、236 ページ「使用例：空のパスワードの検出」を参照してください。

User オブジェクトのプロパティは、次のとおりです。

プロパティ	R/W	タイプ	詳細
FullName	R/W	String	現在のユーザの氏名を設定または取得します。
IsInGroup (GroupName)	R	Boolean	現在のユーザが定義済みまたはユーザ定義のグループのメンバーであるかどうかを確認します。
UserName	R	String	Quality Center にログインしたときのユーザ名を返します。

第 18 章

ワークフローの例

本章では、次のワークフロー・スクリプトの例を示します。

- ▶ ワークフローの例について
- ▶ 使用例：不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ
- ▶ 使用例：タブ名の変更
- ▶ 使用例：メモ・フィールドへのテンプレートの追加
- ▶ 使用例：フィールドの別のフィールドに基づく変更
- ▶ 使用例：ユーザ・グループに基づくフィールドの変更
- ▶ 使用例：オブジェクトの検証
- ▶ 使用例：フィールドの検証
- ▶ 使用例：動的フィールドのリストの提示
- ▶ 使用例：フィールド変更時のフィールド・プロパティの変更
- ▶ 使用例：ユーザ権限の制御
- ▶ 使用例：ボタン機能の追加
- ▶ 使用例：エラー処理
- ▶ 使用例：セッション・コンテキストの取得
- ▶ 使用例：セッション・プロパティの取得
- ▶ 使用例：空のパスワードの検出
- ▶ 使用例：メールの送信
- ▶ 使用例：入力された最後の値の保存
- ▶ 使用例：フィールド値の他のオブジェクトへのコピー

ワークフローの例について

本章で示すワークフローの例は、いくつかの種類の実行タスクを実行します。次の表に示す例は、それぞれ異なるタスクを実行します。

ワークフローのタスク	参照例
ダイアログ・ボックスのカスタマイズ	使用例：不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ 使用例：タブ名の変更
フィールド値の自動入力	使用例：メモ・フィールドへのテンプレートの追加 使用例：フィールドの別のフィールドに基づく変更 使用例：ユーザ・グループに基づくフィールドの変更
データの検証	使用例：オブジェクトの検証 使用例：フィールドの検証
動的フィールドのカスタマイズ	使用例：動的フィールドのリストの提示 使用例：フィールド変更時のフィールド・プロパティの変更
ユーザ権限の制御	使用例：ユーザ権限の制御
機能	使用例：ボタン機能の追加
エラー処理	使用例：エラー処理
OTAを使用したセッション・パラメータの取得	使用例：セッション・コンテキストの取得 使用例：セッション・プロパティの取得 使用例：空のパスワードの検出
メールの送信	使用例：メールの送信
Settings オブジェクト	使用例：入力された最後の値の保存
モジュール間での値のコピー	使用例：フィールド値の他のオブジェクトへのコピー

使用例：不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ

この例では、[不具合の追加] ダイアログ・ボックスでフィールドのレイアウトやその他のフィールドの値をカスタマイズする方法について説明します。同様のコードを作成して、[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスのレイアウトを変更することができます。

この例では、すべてのユーザ・グループのフィールドのプロパティをカスタマイズするソリューションを示します。不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのレイアウトをカスタマイズするには、スクリプト・ジェネレータを使用することも可能です。スクリプト・ジェネレータを使用する場合は、ユーザ・グループごとにカスタマイズを実行する必要があります。これらのスクリプト・ジェネレータの詳細については、161 ページ「不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ」を参照してください。

この例には、次の 2 つの手順が含まれます。

- ▶ **SetFieldApp** は、フィールド名とプロパティをパラメータとして受け取り、プロパティをフィールドに割り当てる汎用的な手順です。222 ページ「SetFieldApp」を参照してください。
- ▶ **FieldCust_AddDefect** は、[不具合の追加] ダイアログ・ボックスの各フィールドに **SetFieldApp** を呼び出し、フィールドのプロパティを設定します。フィールドによっては、**FieldCust_AddDefect** によって現在のユーザが属しているユーザ・グループを検証され、フィールドのプロパティが適宜カスタマイズされます。**FieldCust_AddDefect** への呼び出しは、**Defects_Bug_New** イベント・プロシージャに配置されます。222 ページ「SetFieldApp」を参照してください。

注：この例を実装するために、[不具合の追加] フィールドのカスタム化スクリプト・ジェネレータを実行し、その結果のスクリプトを変更することができます。

- ▶ 生成された関数である **WizardFieldCust_Add** の名前を **FieldCust_AddDefect** に変更し、必要に応じて内容を変更します（生成されたスクリプトを変更する前に、次回スクリプト・ジェネレータを実行したときに上書きされないよう、名前を変更する必要があります）。
- ▶ スクリプト・ジェネレータは **Defects_Bug_New** イベント・プロシージャに **WizardFieldCust_Add** への呼び出しを配置します。これを **FieldCust_AddDefect** に変更します。

- ▶ 関数 **SetFieldApp** は、スクリプト・ジェネレータの実行時に生成されます。この関数は、名前や内容を変更する必要はありません。
-

SetFieldApp

SetFieldApp 関数は、フィールド名とプロパティをパラメータとして受け取り、プロパティをフィールドに割り当てます。

この関数は、フィールドの可視性、必須フィールドかどうか、フィールドが表示されるページ（タブ）番号、およびビューの順序（左から右へ、上から下へ）など、フィールドのプロパティを割り当てます。

SetFieldApp ユーザ定義関数の **FieldCust_AddDefect** に **SetFieldApp** 関数への呼び出しを追加します。

```
Sub SetFieldApp(FieldName, Vis, Req, PNo, VOrder)
    On Error Resume Next
    With Bug_Fields(FieldName)
        .IsVisible = Vis
        .IsRequired = Req
        .PageNo = PNo
        .ViewOrder = VOrder
    End With
    PrintError "SetFieldApp"
    On Error GoTo 0
End Sub
```

FieldCust_AddDefect

ユーザ定義関数の **FieldCust_AddDefect** は、**SetFieldApp** 関数を呼び出します。

この関数は、まず可視のすべてのフィールド（必要でないフィールドも）が 100 ページの位置 0 に表示されるように設定します。これにより、[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの「**プロジェクト エンティティのカスタマイズ**」リンクを使用して新規フィールドを追加しても、レイアウトは変わりません。

Defects_Bug_New イベント・プロシージャに **FieldCust_AddDefect** への呼び出しを追加して、ユーザが新規不具合を見つけるとこのイベント・プロシージャが発行されるようにします。

```
Sub Defects_Bug_New
  FieldCust_AddDefect
End Sub
```

まず、このコードによってすべてのユーザ・グループに共通のフィールドが処理されます。このコードは、ダイアログ・ボックスで特定のユーザ・グループだけに表示されるフィールド、あるいはユーザごとに異なるプロパティを持つフィールドに条件付きステートメントを使用します。

```
Sub FieldCust_AddDefect
  On Error Resume Next
  For i= 0 To Bug_Fields.Count
    SetFieldApp Bug_Fields.FieldByID(i), False, False, 100, 0
  Next

  ViewNum = 0
  PageNum = 0

  SetFieldApp "BG_BUG_ID", True, True, PageNum, ViewNum
  ViewNum = ViewNum + 1
  SetFieldApp "BG_DESCRIPTION", True, False, PageNum, ViewNum
  ViewNum = ViewNum + 1
  SetFieldApp "BG_SUMMARY", True, True, PageNum, ViewNum
  ViewNum = ViewNum + 1
  SetFieldApp "BG_DETECTED_BY", True, True, PageNum, ViewNum
  ViewNum = ViewNum + 1
  SetFieldApp "BG_DETECTION_DATE", True, True, PageNum, ViewNum
  ViewNum = ViewNum + 1
  SetFieldApp "BG_DETECTION_VERSION", True, True, PageNum, _
ViewNum
  ViewNum = ViewNum + 1
  SetFieldApp "BG_SEVERITY", True, True, PageNum, ViewNum
  ViewNum = ViewNum + 1
  SetFieldApp "BG_PRIORITY", True, True, PageNum, ViewNum
  ViewNum = ViewNum + 1
  SetFieldApp "BG_PROJECT", True, False, PageNum, ViewNum
  ViewNum = ViewNum + 1
  SetFieldApp "BG_REPRODUCIBLE", True, False, PageNum, ViewNum
  ViewNum = ViewNum + 1
```

```
SetFieldApp "BG_STATUS", True, False, PageNum, ViewNum  
ViewNum = ViewNum + 1
```

'次に、ユーザ・グループごとに異なるフィールドを処理します。

```
If User.IsInGroup("Developer") Then  
    SetFieldApp "BG_PLANNED_CLOSING_VERSION", True, False, _  
    PageNum, ViewNum  
    ViewNum = ViewNum + 1  
    SetFieldApp "BG_PLANNED_FIX_TIME", True, False, PageNum, _  
    ViewNum  
    ViewNum = ViewNum + 1  
End If
```

```
If User.IsInGroup("QATester") Then  
    PageNum = PageNum + 1  
    SetFieldApp "BG_USER_01", True, False, PageNum, ViewNum  
    ViewNum = ViewNum + 1  
    SetFieldApp "BG_USER_02", True, False, PageNum, ViewNum  
    ViewNum = ViewNum + 1  
End If
```

```
SetFieldApp "BG_ACTUAL_FIX_TIME", True, False, PageNum, _ViewNum  
ViewNum = ViewNum + 1
```

:

```
PrintError "FieldCust_AddDefect"  
On Error GoTo 0  
End Sub
```

使用例：タブ名の変更

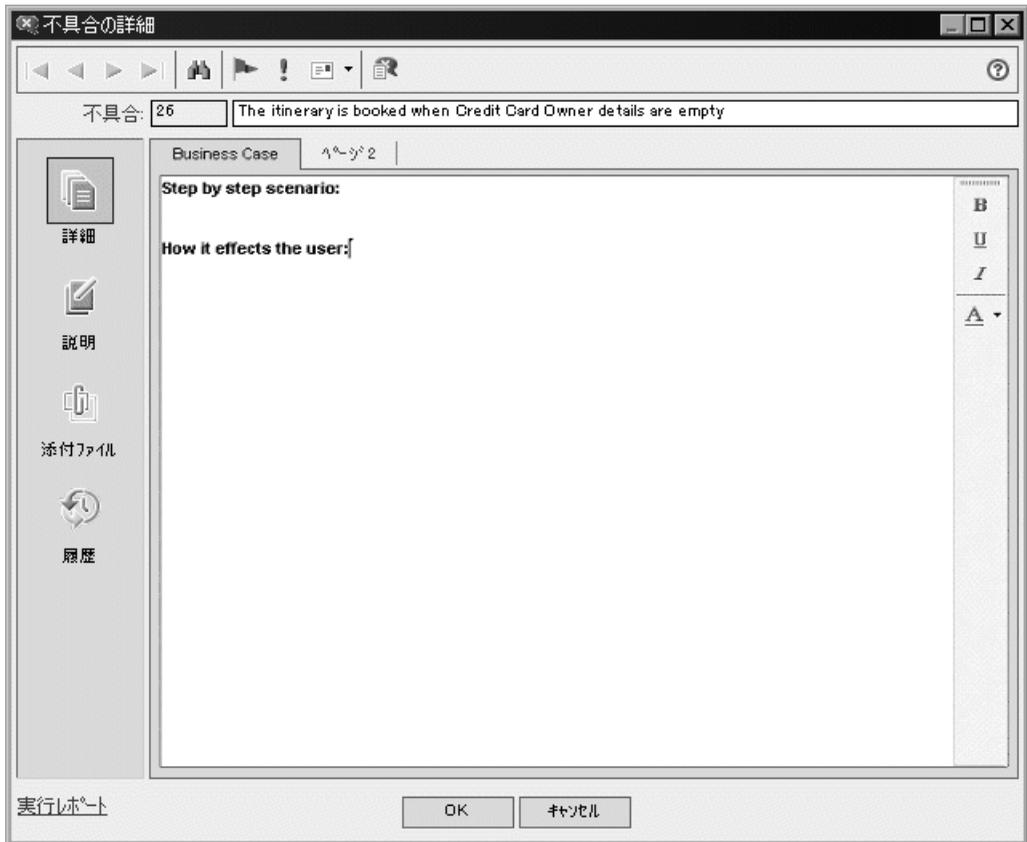
[不具合の追加] ダイアログ・ボックスのタブ名を変更できます。この例では、タブを全般、環境、およびブリーフケース に設定しています。

Quality Center で [不具合の追加] ダイアログ・ボックスが開く前に呼び出される Defects_GetNewBugPageName イベント・プロシージャに次のコードを追加します。[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスのタブ名を変更するには、Defects_GetDetailsPageName イベント・プロシージャに同様のコードを追加します。

```
Function Defects_GetNewBugPageName(PageName, PageNum)
  On Error Resume Next
  Select case PageNum
    case "1"
      Defects_GetNewBugPageName=" 全般 "
    case "2"
      Defects_GetNewBugPageName=" 環境 "
    case else
      Defects_GetNewBugPageName=" ブリーフケース "
  End Select
  PrintError "Defects_GetNewBugPageName"
  On Error GoTo 0
End Function
```

使用例：メモ・フィールドへのテンプレートの追加

ワークフロー・スクリプトを使用して、メモ・フィールドに標準設定のテンプレートを追加できます。この例では、**Business Case** というメモ・フィールドにテキストを追加して、次のテンプレートが表示されるようにします。



不具合が追加されたときに **BG_USER_25** フィールドにテキストの HTML コードを配置することによってこのカスタマイズを実行します。この例では、**Business Case** の文字列の格納にユーザ定義フィールド **BG_USER_25** が使用されていると想定します。

Defects_Bug_New イベント・プロシージャにコードを追加します。このイベント・プロシージャは、ユーザが新規不具合を追加すると発行されます。

```

Sub Defects_Bug_New
  On Error Resume Next
  Bug_Fields("BG_USER_25").value = _
  "<html><body><b>Step by step scenario:</b>" & _
  "<br><br><br><b>How it affects the user:</b></body></html>"
  PrintError "Defects_Bug_New"
  On Error GoTo 0
End Sub

```

使用例：フィールドの別のフィールドに基づく変更

この例では、フィールドの値を別のフィールドに入力した値に基づいて変更する方法を示します。

例えば、**Category** フィールドに **UI Suggestion** が入力されるとユーザ **alex_qc** に、**Security Issues** が入力されるとユーザ **alice_qc** に不具合が割り当てられるようにできます。

この例では、カテゴリの格納にユーザ定義フィールド **BG_USER_05** に使用されていると想定します。**Category** フィールドが不具合モジュールで変更されると、**BG_RESPONSIBLE** フィールドに適切な値が割り当てられます。

Defects_Bug_FieldChange イベント・プロシージャにコードを追加して、ユーザが不具合モジュールのフィールド値を変更するとこのイベント・プロシージャが発行されるようにします。

```

Sub Defects_Bug_FieldChange(FieldName)
  On Error Resume Next
  If FieldName = "BG_USER_05" then
    Select case Bug_Fields("BG_USER_05").Value
      case "UI Suggestion"
        Bug_Fields("BG_RESPONSIBLE").value="alex_qc"
      case "Security Issue"
        Bug_Fields("BG_RESPONSIBLE").value="alice_qc"
    End Select
  End If
  PrintError "Defects_Bug_FieldChange"
  On Error GoTo 0
End Sub

```

使用例：ユーザ・グループに基づくフィールドの変更

この例では、不具合を入力するユーザのユーザ・グループにしたがって、フィールド値を変更する方法について示します。

この例では、ユーザ定義フィールド **BG_USER_01** は、不具合を検出したユーザがその検出方法を入力できる検出モード・フィールドです。取り得る値は、**Formal testing**、**Informal testing**、および **BTW** です。

この例では、**QA Tester** グループに含まれないユーザによって不具合が追加された場合に検出モード・フィールドの値を **BTW** に設定します。

Defects_Bug_New イベント・プロシージャに次のコードを追加して、不具合が追加されたときにこのイベント・プロシージャが呼び出されるようにします。

```
Sub Defects_Bug_New
  On Error Resume Next
  If not User.IsInGroup("QATester") then
    Bug_Fields("BG_USER_01").Value = "BTW"
  End If
  PrintError "Defects_Bug_New"
  On Error GoTo 0
End Sub
```

使用例：オブジェクトの検証

この例では、**CanPost** イベント・プロシージャを使用して、すべてのフィールドの検証を実行する方法を示します。例えば、次のコードの一部は、ユーザがコメントを追加しないと不具合を却下できないようにします。

この例では、**R&D Comment** フィールド (**BG_DEV_COMMENTS**) に説明のテキストが入力されていなければ、ユーザは不具合のステータス (**BG_STATUS**) が「却下」に変更された不具合を送信しません。

Defects_Bug_CanPost イベント・プロシージャに次のコードを追加して、ユーザが不具合を送信しようとするすると検証が実行されるようにします。

```

Function Defects_Bug_CanPost
  On Error Resume Next
  If Bug_Fields("BG_STATUS").IsModified and _
  Bug_Fields("BG_STATUS").Value = "Rejected" and _
  not Bug_Fields("BG_DEV_COMMENTS").IsModified then
    Defects_Bug_CanPost = False
    msgbox "You must enter a comment when rejecting a defect."
  Else
    Defects_Bug_CanPost = True
  End If
  PrintError "Defects_Bug_CanPost"
  On Error GoTo 0
End Function

```

使用例：フィールドの検証

この例では、1つのフィールド値を検証する方法について示します。例えば、次のコードの一部は、特定のグループのユーザが不具合の重大度を引き下げられないようにする方法を示します。

この例では、ユーザが **QATester** グループに含まれ、**BG_PRIORITY** フィールドが変更されている場合に、**BG_PRIORITY** フィールドの新しい値を現在の値より低くすることはできません。

この例は、プロジェクトの **Priority** フィールド・リスト内の値が重大度の低い順にアルファベット順で並べ替えられるようにします。例えば、要素が 1-Low, 2-Medium, 3-High の場合、リストはこの要件に適合します。

Defects_Bug_FieldCanChange イベント・プロシージャにコードを追加して、ユーザが不具合モジュールのフィールド値を変更しようとするときのイベント・プロシージャが発行されるようにします。

```

Function Defects_Bug_FieldCanChange(FieldName, NewValue)
  On Error Resume Next
  If User.IsInGroup("QATester") and FieldName = "BG_PRIORITY" Then
    If NewValue < Bug_Fields("BG_PRIORITY").Value then
      Defects_Bug_FieldCanChange = False
      msgbox "You do not have permission to lower defect priority."
    Else

```

```
        Defects_Bug_FieldCanChange = True
    End If
End If
PrintError "Defects_Bug_FieldCanChange"
On Error GoTo 0
End Function
```

使用例：動的フィールドのリストの提示

この例では、フィールド内のフィールド・リストを、別のフィールドの値に応じてさまざまに表示する方法について示します。

ユーザ定義関数 `SW_SetLists_Environment` は、**Environment Specification** フィールドの値を検証し **Environment Type** フィールドに適切なフィールド・リストを割り当てます。

この例では、フィールド・リストがプロジェクト内で定義されているものと想定しています。詳細については、140 ページ「プロジェクト・リストのカスタマイズ」を参照してください。

注：ワークフロー・スクリプトを使用して、フィールドに割り当てられるリストを変更または作成するには、オープン・テスト・アーキテクチャ (OTA) ・インタフェースを使用する必要があります。

`Defects_Bug_MoveTo` イベント・プロシージャにコードを追加して、不具合モジュールでユーザがフォーカスを変更すると、ユーザ定義関数 `SW_SetLists_Environment` が呼び出されるようにします。

```
Sub Defects_Bug_MoveTo()
    On Error Resume Next
    SW_SetLists_Environment
    PrintError "Defects_Bug_MoveTo"
    On Error GoTo 0
End Sub
```

Defects_Bug_FieldChange イベント・プロシージャにコードを追加して、ユーザが不具合モジュールの **Environment Type** フィールドの値を変更すると、ユーザ定義関数 SW_SetLists_Environment が呼び出されるようにします。

```
Sub Defects_Bug_FieldChange(FieldName)
    On Error Resume Next
    If FieldName = "BG_USER_01" then
        SW_SetLists_Environment
    End If
    PrintError "Defects_Bug_FieldChange"
    On Error GoTo 0
End Sub
```

ユーザ定義関数 SW_SetLists_Environment は、**Environment Specification** フィールド (**BG_USER_02**) の値を検証し **Environment Type** フィールド (**BG_USER_01**) に適切なフィールド・リストを割り当てます。

```
Sub SW_SetLists_Environment()
    Dim listName
    On Error Resume Next
    Select Case Bug_Fields("BG_USER_01").Value
        Case "Browser"
            listName = "Browsers"
        Case "Database Type"
            listName = "Database Type"
        Case "Operating System"
            listName = "Platform"
        Case "Web Server"
            listName = "Web Server"
        Case Else
            listName = "Environment Specification"
    End Select
    Bug_Fields("BG_USER_02").List = Lists(listName)
    PrintError ("Set Environment List")
    On Error GoTo 0
End Sub
```

使用例：フィールド変更時のフィールド・プロパティの変更

この例では、各フィールドが変更されたときにフィールドのプロパティを変更する方法について示します。

この例では、不具合（**BG_STATUS**）のステータスが **Closed** に変わった場合、フィールド **Closed in Build**（**BG_CLOSING_VERSION**）の値を指定する必要があります。

Defects_Bug_FieldChange イベント・プロシージャにコードを追加して、ステータスが **Closed** に変わった場合に **Closed in Build** フィールドを必須フィールドにします。

```
Sub Defects_Bug_FieldChange(FieldName)
    On Error Resume Next
    If FieldName= "BG_STATUS" and _
    Bug_Fields("BG_STATUS").value="Closed" then
        Bug_Fields("BG_CLOSING_VERSION").IsRequired=True
    End If
    PrintError "Defects_Bug_FieldChange"
    On Error GoTo 0
End Sub
```

使用例：ユーザ権限の制御

この例では、特定のユーザ・グループのメンバーがアクションを実行できないようにする方法について示します。

このコードは、ユーザが **Admin** ユーザ・グループに属している場合だけ不具合を置換できるようにします。

Defects_ActionCanExecute イベント・プロシージャにコードを追加して、ユーザがアクションを実行しようとするとき検証が実行されるようにします。

```
Function Defects_ActionCanExecute(ActionName)
    On Error Resume Next
    If ActionName = "BugReplaceAction1" _
    And Not User.IsInGroup("Admin") then
        Defects_ActionCanExecute = False
        msgbox "You do not have permission to perform this action"
```

```

Else
    Defects_ActionCanExecute = True
End If
PrintError "Defects_ActionCanExecute"
On Error GoTo 0
End Function

```

使用例：ボタン機能の追加

この例では、ユーザがアクション名 **Calculator** で定義されたボタンをクリックすると計算機能が起動します。

Defects_ActionCanExecute イベント・プロシージャにコードを追加して、ユーザがアクションを開始するとこのイベント・プロシージャが発行されるようにします。

Wscript.Shell オブジェクトの詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。VBScript 言語のヘルプにアクセスするには、スクリプト・エディタで **[ヘルプ]** > **[VBScript ホームページ]** を選択します。

```

Function Defects_ActionCanExecute(ActionName)
    On Error Resume Next
    If ActionName = "Calculator" Then
        Set shell = CreateObject("Wscript.Shell")
        shell.Run "Calc"
        set shell = Nothing
    End If
    Defects_ActionCanExecute = Project_DefaultRes
    PrintError "Defects_ActionCanExecute"
    On Error GoTo 0
End Function

```

使用例：エラー処理

この例は、標準エラー・メッセージを表示する方法を示します。エラー処理は、作成する各ワークフロー・スクリプトに追加する必要があります。ワークフロー・コードで検出されないエラーは、ユーザのブラウザがクラッシュする原因となる可能性があるからです。

ユーザ定義関数 **PrintError** は、パラメータとして呼び出しプロシージャの名前を受け取ります。エラーが発生すると、**PrintError** はエラー番号、説明、重大度、エラーが発生したプロシージャ名を出力します。

Err オブジェクトは、VBScript に組みこまれているため作成する必要はありません。**Err** オブジェクトの詳細については、Microsoft のマニュアルを参照してください。

```
Sub PrintError(strFunctionName)
    If Err.Number <> 0 Then
        MsgBox "Error #" & Err.Number & ": " & Err.Description, _
            vbOKOnly+vbCritical, _
            "Workflow Error in Function " & strFunctionName
    End If
End Sub
```

次のコードの一部は、エラー処理をサブルーチンに追加する方法について示しています。

```
Sub <サブルーチン名> ()
    On Error Resume Next
    :
    [コードをここに入力]
    :
    PrintError " <サブルーチン名> "
End Sub
```

次のコードの一部は、エラー処理を関数に追加する方法について示しています。

```
Function <関数名> ()
    On Error Resume Next
    :
    [Yコードをここに入力]
    :
```

```
PrintError " <関数名> "
End Function
```

使用例：セッション・コンテキストの取得

ワークフロー・スクリプトで **TDConnection** オブジェクトを使用して、スクリプトの実行時にユーザが作業中のセッションに関する情報を取得します。

次の例では、サーバ時間がメッセージ・ボックスに表示されます。

```
MsgBox "The current time on the server is: " & TDConnection.ServerTime
```

使用例：セッション・プロパティの取得

この例では、**TDConnection** オブジェクトを使用して現在のセッションのプロパティを取得する方法について示します。これらのプロパティが必要なプロシージャにコードを追加します。プロパティは互いに依存しないため、各プロパティは個々に取得できます。

セッション・プロパティの例を次に示します。

```
TDConnection.ServerName
TDConnection.ServerTime
TDConnection.DomainName
TDConnection.ProjectName
TDConnection.ProjectType (Oracle or MS SQL)
TDConnection.Password
User.UserName
```

ユーザ名を取得するのに **TDConnection** を使用する必要はありません。ワークフローにはあらかじめ定義された **User** オブジェクトがあるためです。詳細については、216 ページ「TDConnection オブジェクト」を参照してください。

次の例では、サーバ URL の最初の 5 文字をテストして、ユーザが HTTP または HTTPS を使用するサーバに接続できるかどうかを確認します。

```
If Left(UCCase(TDConnection.ServerName), 5) = "HTTPS" Then
    MsgBox "You are currently connected to the server using SSL."
```

```
Else  
    MsgBox "You are not using SSL."  
End If
```

使用例：空のパスワードの検出

この例では、**TDConnection** にアクセスして現在のユーザのパスワードを取得します。ユーザがパスワードに何も指定していない場合は、メッセージが出力されます。

次のユーザ定義関数を共通スクリプト・セクションに追加して、すべてのモジュールからアクセスできるようにします。

```
Function CheckPassword  
    On Error Resume Next  
    If IsObject(TDConnection) Then  
        Set tdc = TDConnection  
        currentPwd = tdc.Password  
        If Len(currentPwd) < 1 Then  
            MsgBox "Your password is empty (null)." & _  
                "Please change your password (Tools -> Change Password).", 0, _  
                "Your Password Is Empty"  
        End If  
    End If  
    On Error GoTo 0  
End Function
```

各モジュールの **EnterModule** イベント・プロシージャに次の行を追加して、パスワードを指定していないユーザがモジュールを入力したときにメッセージを受け取るようにします。この例では、不具合モジュールを使用します。

```
Sub Defects_EnterModule  
    On Error Resume Next  
    CheckPassword  
    On Error GoTo 0  
End Sub
```

使用例：メールの送信

この例では、**TDConnection** オブジェクトを使用して不具合モジュールからメールを送信し、テスト計画モジュールで値が変わるとメールを送信する方法を示します。

不具合モジュールからのメールの送信

この例では、不具合モジュールからメールを送信します。

Defects_Bug_AfterPost イベント・プロシージャの **SendDefect** プロシージャに呼び出しを追加します。

注： **SendDefect** プロシージャが不具合が送信される前に呼び出されると、現在の更新で変更された値は含まれません。データベースは、不具合が追加されるまで新しい値に更新されません。

```
Sub SendDefect (iObjectId, strTo, strCc, strSubject, strComment)
    On Error Resume Next
    Dim objBugFactory, objBug
    Set objBugFactory = TDConnection.BugFactory
    Set objBug = objBugFactory.Item(iObjectId)
    objBug.Mail strTo, strCc, 2, strSubject, strComment
    Set objBug = Nothing
    Set objBugFactory = Nothing
    PrintError "SendDefect"
    On Error Then GoTo 0
End Sub
```

objBug.Mail への呼び出しにおける定数 **2** は、履歴がメールに含まれることを示します。電子メールのカスタマイズに使用できる定数のリストについては、『**Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス**』で **tagTDMAIL_FLAGS** エミュレーションを参照してください。ワークフロー・スクリプトでは、列挙値ではなく数値定数を使用します。

テスト計画モジュール・フィールドの変更時にメールを送信する

次の例では、テスト計画モジュールでステータス・フィールドの値が変更された場合に同様の関数が呼び出される方法について示します。

このコードを `TestPlan_Test_FieldChange` イベント・プロシージャに追加します。これは、電子メールの件名とコメントで構成されており、ユーザ定義関数 `SendTest` を呼び出します。`SendTest` が、テスト計画モジュールからメールを送信します。`SendTest` は、237 ページ「不具合モジュールからのメールの送信」で示す `SendDefect` サブルーチンと同様にコード化できます。

```
Sub TestPlan_Test_FieldChange(FieldName)
    On Error Resume Next
    Dim strSubject, strComment
    If FieldName = "TS_STATUS" Then
        strSubject = "Test Change Notification" & _
            " for project " & TDConnection.ProjectName & _
            " in domain " & TDConnection.DomainName
        strComment = "The user " & User.FullName & _
            " changed the status of the test " & _
            Test_Fields("TS_NAME").Value & _
            " to " & Test_Fields("TS_STATUS").Value
        SendTest Test_Fields("TS_TEST_ID").Value, _
            Test_Fields("TS_RESPONSIBLE").Value, "[QA Testers]", _
            strSubject, StrComment
    End If
End Sub
```

使用例：入力された最後の値の保存

この例では、`TDConnection` オブジェクトを使用してアクション間で永続的なデータを実装する方法について説明します。ルーチンに含まれる変数は、そのルーチンの実行においてのみ存続します。したがって、後で使用可能にする必要がある永続的なデータは保存しなければなりません。永続的データの保存には、外部オブジェクト、ファイル、レジストリを使用するのではなく、できる限り `Quality Center API` を使用することをお勧めします。

この例では、`SW_KeepLastValue` ユーザ定義関数は、ユーザが不具合を送信したときに、`Settings` オブジェクトを使用して `BG_DETECTION_VERSION`,

BG_USER_01, および **BG_USER_03** フィールドに入力された値を保存します。これらの値は、ユーザが新規不具合を追加すると、標準設定の値として取得され割り当てられます。

ユーザ定義関数は、ユーザが新規不具合を追加する前に **Defects_Bug_CanPost** から **SET** アクションを使って呼び出されます。フィールド内のこの値は保存されます。

```
Function Defects_Bug_CanPost()
  If Bug_Fields("BG_BUG_ID").Value = "" Then
    SW_KeepLastValue ("SET")
  End If
End Function
```

この関数は、**Defects_Bug_New** イベント・プロシージャから **GET** アクションを使用して呼び出されます。ユーザが新規不具合を追加すると、このユーザのフィールドに格納される値がこれらのフィールドに入力されます。

```
Sub Defects_Bug_New()
  SW_KeepLastValue ("GET")
End Sub
```

パラメータとして渡されるアクションに応じて、**SW_KeepLastValue** ユーザ定義関数は現在のユーザの一般的な設定テーブルにフィールドの値を格納するか、**Settings** オブジェクトから値を読み取り、その値を適切なフィールドに割り当てます。

```
Sub SW_KeepLastValue(action)
  Dim tdc, vals, flds
  Dim uset, pairs, pair
  Dim bld
  On Error Resume Next
  bld = ""
  Set tdc = TDConnection
  Set uset = tdc.UserSettings

  If action = "SET" Then
    flds = Array("BG_DETECTION_VERSION", _
      "BG_USER_01", "BG_USER_03")
    vals = ""
```

```

For i = 0 To UBound(flds)
    If vals <> "" Then vals = vals & ","
    vals = vals & flds(i) & "=" & Bug_Fields(flds(i)).Value
Next
'KeepLValueSetting カテゴリを開く
uset.Open ("KeepLValueSetting")
'KeepLValueSetting カテゴリで KeepValueFields を設定
uset.Value("KeepValueFields") = vals
uset.Close
End If 'SET

If action = "GET" Then
    uset.Open ("KeepLValueSetting")
    vals = uset.Value("KeepValueFields")
    If vals <> "" Then
        pairs = Split(vals, ",")
        For i = 0 To UBound(pairs)
            pair = Split(pairs(i), "=")
            If UBound(pair) = 1 Then
                Select Case pair(0)
                    Case "BG_USER_03"
                        bld = pair(1)
                    Case Else
                        If Bug_Fields(pair(0)).Value = "" Then
                            Bug_Fields(pair(0)).Value = pair(1)
                        End If
                End Select
            End If
            If Bug_Fields("BG_DETECTION_VERSION").Value <> "" _
            And bld <> "" Then
                SW_SetLists_VersionsBuilds _
                "BG_DETECTION_VERSION", _
                "BG_USER_03"
                Bug_Fields("BG_USER_03").Value = bld
                If Err.Number <> 0 Then Err.Clear
            End If 'Bug_Fields
        End If 'UBound(pair)
    Next
End If 'vals <> ""
End If 'GET

```

```

uset.Close
PrintError ("Keep Last Value (" & action & ")")
On Error GoTo 0
End Sub

```

使用例：フィールド値の他のオブジェクトへのコピー

この例は、**TDConnection** オブジェクトを使用して実行 (**RN_USER_02**) の **Build Number** フィールドからテストセット (**TC_USER_03**) のテストの **Last Ran On Build** フィールドに値をコピーする方法について示します。

ManualRun_Run_AfterPost イベント・プロシージャにコードを追加します。

```

Sub ManualRun_Run_AfterPost
  On Error Resume Next
  Set TSFactory = TDConnection.TestSetFactory
  Set TS = TSFactory.Item(Run_Fields("RN_CYCLE_ID").value)

  Set TSTestFactory = TS.TSTestFactory
  Set TSTest = TSTestFactory.Item(Run_Fields("RN_TEST_ID").Value)

  TSTest.Field("TC_USER_03") = Run_Fields("RN_USER_02")
  TSTest.Post

  Set TSFactory = Nothing
  Set TS = Nothing
  Set TSTestFactory = Nothing
  Set TSTest = Nothing

  PrintError ("ManualRun_Run_AfterPost")
  On Error GoTo 0
End Sub

```


第 4 部

付録

付録 A

Quality Center サーバ・コンポーネントの検証

Quality Center をインストールしたら、Quality Center Checker を使って主要な Quality Center サーバ・コンポーネントが正しくインストールされたことを検証できます。ディレクトリ・パス、オペレーティング・システム、ポートの可用性といった情報も検証できます。

Quality Center Checker は、Quality Center が使用する Quality Center サーバ・コンポーネントの多くをテストする診断ツールです。Quality Center Checker を実行すると、Quality Center へのアクセスと関連する多くのサーバ側の問題の原因を特定できます。

Quality Center Checker によって次のコンポーネントが検証されます。

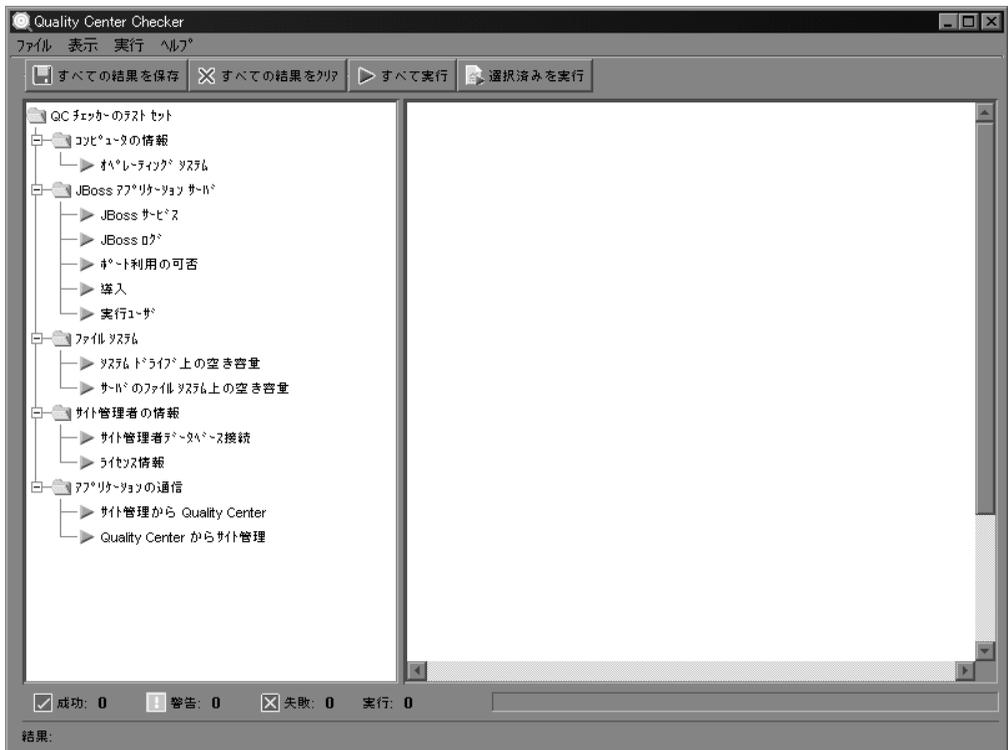
コンポーネント	説明
コンピュータの情報	オペレーティング・システムについての情報を検証します。
<アプリケーション・サーバ名> アプリケーションサーバ	ディレクトリ・パス、オペレーティング・システム、ポート、サービス・バックなどのアプリケーション・サーバについての情報を検証します。
ファイル システム	十分なディスク領域が利用可能かどうかを検証します。
サイト管理者の情報	データベース・サーバとサイト管理者データベースの設定を検証します。Quality Center ライセンスも検証します。
アプリケーションの通信	Quality Center とサイト管理者の接続を検証します。

Quality Center サーバ・コンポーネントを検証するには、次の手順を実行します。

1 Quality Center Checker を開くには、次の手順を実行します。

- ▶ **Windows の場合** : [スタート] > [プログラム] > [Mercury Quality Center] > [Mercury Quality Center Checker] を選択します。あるいは `..%MercuryInteractive%Quality Center%qcchecker%bin` ディレクトリから `qcchecker.bat` ファイルを実行します。
- ▶ **Linux または Solaris の場合** : `..%MercuryInteractive%Quality Center%qcchecker%bin` ディレクトリから `qcchecker.sh` ファイルを実行します。

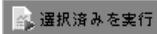
[Quality Center Checker] ウィンドウが開きます。



コンポーネント・ツリーのすべての分岐は展開したり、折りたたんだりすることが可能です。すべての分岐を展開するには、任意の分岐で右クリックして

[**すべて展開**] を選択します。すべての分岐を折りたたむには、任意の分岐で右クリックして [**すべて折りたたみ**] を選択します。

2 サーバ・コンポーネントのステータスの検証には、次の方法があります。

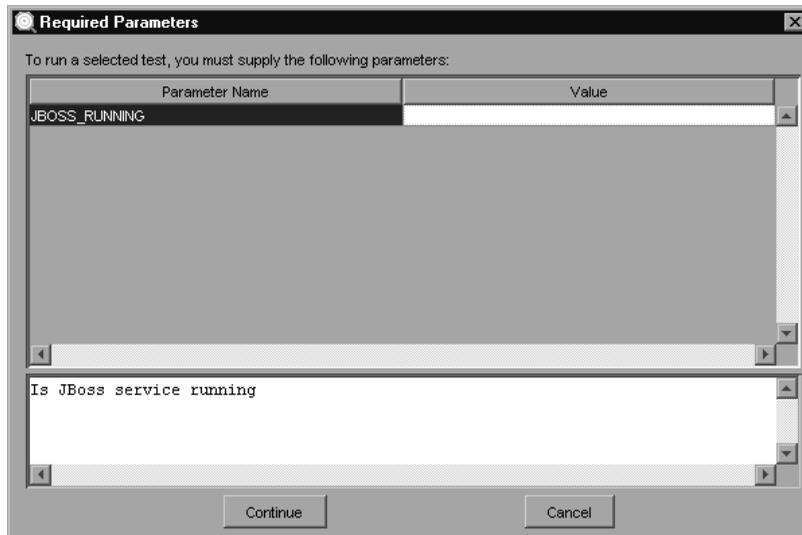
 選択済みを実行

▶ 分岐を選択して、[**選択済みを実行**] ボタンをクリックするか、[**実行**] > [**選択済みを実行**] を選択します。

 すべてを実行

▶ [**すべて実行**] ボタンをクリックするか、[**実行**] > [**すべて実行**] を選択して、すべてのコンポーネントを検証します。

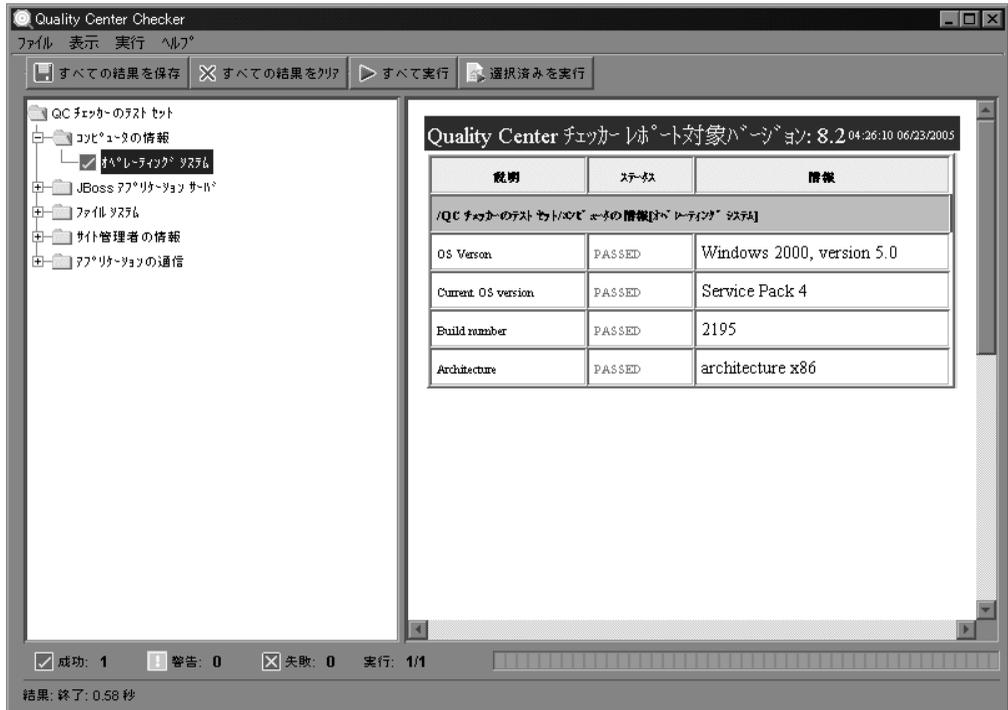
3 コンポーネントを実行するときにパラメータ値が必要な場合は、[Required Parameters] ダイアログ・ボックスが開きます。



必要なパラメータの [**Value**] ボックスをクリックして、値を入力します。[**Continue**] をクリックします。検証処理が継続されます。

コンポーネントの検証を開始する前にパラメータが必要かどうかを表示するには、分岐を選択して、[**実行**] > [**必須パラメータ**] を選択します。パラメータが必要な場合は、[Required Parameters] ダイアログ・ボックスが開きます。

4 Quality Center Checker ウィンドウの右側の表示枠で、検証されたコンポーネントのレポートを表示できます。



レポートには、検証された各分岐の説明、ステータス、情報が表示されます。その他のレポート情報を表示するには、[表示] > [プロパティの表示] を選択します。

ステータスバーには、検証されたコンポーネントのステータスが示されます。検証に合格したコンポーネントはチェックマーク付きの緑で表示されます。検証に不合格のコンポーネントは×付きの赤で表示されます。問題が発生する可能性のあるコンポーネントや、Quality Center 管理者が注意すべきコンポーネントは、感嘆符付きの黄色で表示されます。

5 すべての結果をクリアするには、[すべての結果をクリア] ボタンをクリックするか、[ファイル] > [すべての結果をクリア] を選択します。

6 すべての結果を保存するには、[すべての結果を保存] ボタンをクリックするか、[ファイル] > [すべての結果を保存] を選択します。

7 Quality Center Checker を閉じるには、[ファイル] > [終了] を選択します。

索引

A

ActionCanExecute イベント 192
Actions オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 210
Action プロパティ 210
admin ユーザ 102
Adobe Acrobat Reader x
AfterPost イベント 193
ATTACH_MAX_SIZE パラメータ 78
Attachment_CanDelete イベント 193
Attachment_CanOpen イベント 194
Attachment_CanPost イベント 194
Attachment_New イベント 195
AUTO_MAIL_SUBJECT_FORMAT パラメータ 81
AUTO_MAIL_WITH_ATTACHMENT パラメータ 78
AUTO_MAIL_WITH_HISTORY パラメータ 78

B

BASE_REPOSITORY_PATH パラメータ 78
Bug_Fields オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 212
Business Process Testing ユーザーズ・ガイド ix

C

CanAddTests イベント 195
CanCustomize イベント 196
CanDelete イベント 196
CanLogin イベント 198
CanLogout イベント 198
CanPost イベント 198
CanRemoveTests イベント 199
Checked プロパティ 211
Command オブジェクト,
DISABLE_COMMAND_INTERFACE パラメータ 82

COPY_PASTE_CHANGES_OWNER パラメータ 81
Count プロパティ 213
CREATE_HTTP_SESSION パラメータ 79
CUSTOM_ENABLE_USER_ADMIN パラメータ 79, 101

D

dbid.xml ファイル 10
DB 管理者パスワード, データベース・サーバ 75, 76
DB 管理者パスワードの変更リンク 76
DB 管理者ユーザ, データベース・サーバ 74, 76
DB 管理者ユーザ・リンク 76
DefaultRes イベント 199
Defects_ActionCanExecute イベント 192
Defects_Attachment_CanDelete イベント 193
Defects_Attachment_CanOpen イベント 194
Defects_Attachment_CanPost イベント 194
Defects_Attachment_New イベント 195
Defects_Bug_AfterPost イベント 193
Defects_Bug_CanDelete イベント 196
Defects_Bug_CanPost イベント 199
Defects_Bug_FieldCanChange イベント 201
Defects_Bug_FieldChange イベント 202
Defects_Bug_MoveTo イベント 204
Defects_Bug_New イベント 205
Defects_DialogBox イベント 200
Defects_EnterModule イベント 200
Defects_ExitModule イベント 201
Defects_GetDetailsPageName イベント 203
Defects_GetNewBugPageName イベント 203
DesignStep_Fields オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 212
DialogBox イベント 200
DIRECTORY_TIME_LIMIT_CONSTRAINT パ

ラメータ 82
 DISABLE_COMMAND_INTERFACE パラメータ 82
 DISABLE_EXTENDED_STORAGE パラメータ 82

E

Enabled プロパティ 211
 EnterModule イベント 200
 Execute メソッド 211
 ExitModule イベント 201
 ExtendedStorage, DISABLE_EXTENDED_STORAGE パラメータ 82
 ExtendedStorage オブジェクト
 管理者権限 82

F

FieldById プロパティ 213
 FieldCanChange イベント 201
 FieldChange イベント 202
 FieldLabel プロパティ 213
 FieldName プロパティ 213
 Field オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 213
 Field プロパティ 213
 FullName プロパティ 217

G

GetNewBugPageName イベント 203
 guest ユーザ 102

H

HEBREW パラメータ 83
 HTML, MAIL_FORMAT パラメータ 80
 HTTP, CREATE_HTTP_SESSION パラメータ 79
 https, SECURED_QC_URL パラメータ 85

I

IsInGroup プロパティ 217
 IsModified プロパティ 213
 IsNull プロパティ 213
 IsReadOnly プロパティ 213
 IsRequired プロパティ 214
 IsVisible プロパティ 214

L

LDAP
 ユーザのインポートのための設定 54
 LDAP_SEARCH_USER_CRITERIA パラメータ 79
 LDAP_SEARCH_USER_CRITERIA パラメータ 62
 LDAP 詳細を表示ボタン 53
 LDAP 認証 62
 LDAP インポート設定ダイアログ・ボックス 55
 LICENSE_ARCHIVE_PERIOD パラメータ 79
 Lists オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 215
 List プロパティ, Lists オブジェクト 215
 List プロパティ, Field オブジェクト 214
 LoadRunner, LR DIRECTFILEACCESS パラメータ 83
 LOCK_TIMEOUT パラメータ 79
 LR DIRECTFILEACCESS パラメータ 83

M

MAIL_FORMAT パラメータ 80
 MAIL_INTERVAL パラメータ 80
 MAIL_MESSAGE_CHARSET パラメータ 80
 ManualRun_ActionCanExecute イベント 192
 ManualRun_Attachment_CanDelete イベント 193
 ManualRun_Attachment_CanOpen イベント 194
 ManualRun_Attachment_CanPost イベント 194
 ManualRun_Attachment_New イベント 195
 ManualRun_DialogBox イベント 200
 ManualRun_EnterModule イベント 200
 ManualRun_ExitModule イベント 201
 ManualRun_Run_AfterPost イベント 193
 ManualRun_Run_CanPost イベント 199
 ManualRun_Run_FieldCanChange イベント 201
 ManualRun_Run_FieldChange イベント 202
 ManualRun_Step_AfterPost イベント 193
 ManualRun_Step_CanPost イベント 199
 ManualRun_Step_FieldCanChange イベント 201
 ManualRun_Step_FieldChange イベント 202
 ManualRun_Step_MoveTo イベント 204
 ManualRun_Step_New イベント 205
 Mercury Quality Center Business Process Testing
 ユーザーズ・ガイド ix
 Mercury Quality Center インストール・ガイド

- ix
- Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ・ガイド ix
- Mercury Quality Center チュートリアル ix
- Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド ix
- Mercury の Web サイト xi
- Microsoft IIS SMTP サービス・オプション 72
- Microsoft SQL
プロジェクトのコピー 16
プロジェクトの作成 12
- Microsoft SQL (Win 認証)
データベース・サーバの定義 74
- Microsoft SQL (SQL 認証)
データベース・サーバの定義 74
- MIGRATION_MAX_NUMBER_OF_PROJECTS
パラメータ 83
- MoveToSubject イベント 204
- MoveTo イベント 204
- N**
- New イベント 204
- NLS_SEARCH_LOCALE パラメータ 84
- O**
- Oracle
データベース・サーバの定義 74
プロジェクトのコピー 16
プロジェクトの作成 12
- P**
- PageNo プロパティ 214
- Ping データベース サーバ・ダイアログ・ボックス 75
- Ping データベース・サーバ・ダイアログ・ボックス 77
- Ping ボタン 75, 77
- Project_ActionCanExecute イベント 192
- Project_CanCustomize イベント 196
- Project_CanLogin イベント 198
- Project_CanLogout イベント 198
- Project_DefaultRes イベント 199
- Q**
- QC Server の削除ボタン, サーバ・タブ 72
- qcbn 仮想ディレクトリ 71
- QC サーバ・リストの更新ボタン 73
- QC ユーザ・パスワード, データベース・サーバ 77
- QC ユーザ・パスワード・リンク 77
- Quality Center サーバ情報 70-73
- Quality Center サーバのログ・ファイル 70
- Quality Center ドメイン
削除 27
作成 10
リポジトリ構造 8
- Quality Center のドキュメント ix
- Quality Center プロジェクト
Ping 25
SQL クエリー 22
コピー 16
削除 26
作成 12
接続文字列の編集 28
名前の変更 25
プロジェクトの詳細の表示 19
プロジェクトへのアクセスの復元 29
プロジェクト・リストからの削除 26
無効化 24
有効化 24
- Quality Center モジュール
アクセスのカスタマイズ 128
ユーザ接続の監視 65
- Quality Center ライセンス
使用中のモジュール・ライセンス 65, 67
ライセンス番号の変更 67
- R**
- REPLACE_TITLE パラメータ 84
- Req_Fields オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 212
- REQUIREMENT_REVIEWED_FIELD_AUTOMATIC_UPDATE パラメータ 85
- Requirements_ActionCanExecute イベント 192
- Requirements_Attachment_CanDelete イベント 193
- Requirements_Attachment_CanOpen イベント 194
- Requirements_Attachment_CanPost イベント 194
- Requirements_Attachment_New イベント 195
- Requirements_DialogBox イベント 200

Requirements_EnterModule イベント 200
 Requirements_ExitModule イベント 201
 Requirements_Req_AfterPost イベント 193
 Requirements_Req_CanDelete イベント 196
 Requirements_Req_CanPost イベント 199
 Requirements_Req_FieldCanChange イベント 201
 Requirements_Req_FieldChange イベント 202
 Requirements_Req_MoveTo イベント 204
 Requirements_Req_New イベント 205
 Run_Fields オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 212
 RunTestSet イベント 205
 RunTestsManually イベント 206
 RunTests イベント 205

S

sabin 仮想ディレクトリ 71
 SAQ_MAIL_WITH_ATTACHMENT パラメータ 78
 SAQ_MAIL_WITH_HISTORY パラメータ 78
 SAQFORMAT パラメータ 81
 SECURED_QC_URL パラメータ 85
 Settings button 55
 SMTP サーバ・オプション 72
 SQL クエリー 22
 SQL の実行ボタン 23
 SSL, SECURED_QC_URL パラメータ 85
 Step_Fields オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 212

T

TDConnection オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 216
 Test_Fields オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 212
 TestDirector, 「Quality Center」参照
 TestDirector, プロジェクトの Quality Center への移行 38
 TestDirector プロジェクトの Quality Center への移行 38
 TestLab_ActionCanExecute イベント 192
 TestLab_Attachment_CanDelete イベント 193
 TestLab_Attachment_CanOpen イベント 194
 TestLab_Attachment_CanPost イベント 194
 TestLab_Attachment_New イベント 195

TestLab_DialogBox イベント 200
 TestLab_EnterModule イベント 200
 TestLab_ExitModule イベント 201
 TestLab_RunTestSet イベント 205
 TestLab_RunTestsManually イベント 206
 TestLab_RunTests イベント 205
 TestLab_TestSet_AfterPost イベント 193
 TestLab_TestSet_CanAddTests イベント 195
 TestLab_TestSet_CanDelete イベント 197
 TestLab_TestSet_CanPost イベント 199
 TestLab_TestSet_FieldCanChange イベント 201
 TestLab_TestSet_FieldChange イベント 202
 TestLab_TestSet_MoveTo イベント 204
 TestLab_TestSet_New イベント 205
 TestLab_TestSetTests_FieldCanChange イベント 201
 TestLab_TestSetTests_FieldChange イベント 202
 TestLab_TestSetTests_MoveTo イベント 204
 TestPlan_ActionCanExecute イベント 192
 TestPlan_Attachment_CanDelete イベント 193
 TestPlan_Attachment_CanOpen イベント 194
 TestPlan_Attachment_CanPost イベント 194
 TestPlan_Attachment_New イベント 195
 TestPlan_DesignStep_FieldCanChange イベント 201
 TestPlan_DesignStep_FieldChange イベント 202
 TestPlan_DesignStep_MoveTo イベント 204
 TestPlan_DesignStep_New イベント 205
 TestPlan_DialogBox イベント 200
 TestPlan_EnterModule イベント 200
 TestPlan_ExitModule イベント 201
 TestPlan_MoveToSubject イベント 204
 TestPlan_Test_AfterPost イベント 193
 TestPlan_Test_CanDelete イベント 197
 TestPlan_Test_CanPost イベント 199
 TestPlan_Test_FieldCanChange イベント 201
 TestPlan_Test_FieldChange イベント 202
 TestPlan_Test_MoveTo イベント 204
 TestPlan_Test_New イベント 205
 TestSet_Fields オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 212
 TestSetTest_Fields オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 212
 TestLab_TestSet_CanRemoveTests イベント 199

U

UNIX_SERVER パラメータ 86
 URL, SECURED_QC_URL パラメータ 85
 UserName プロパティ 217
 User オブジェクト, ワークフロー・スクリプト 216
 UTF-8, MAIL_MESSAGE_CHARSET パラメータ 80

V

Value プロパティ 214
 VBScript ホームページ・コマンド, スクリプト・エディタ 175
 VC パラメータ 80
 ViewOrder プロパティ 214
 Visible プロパティ 211

W

WAIT_BEFORE_DISCONNECT パラメータ 80
 WR DIRECTFILEACCESS パラメータ 86

あ

値の一覧ボタン 174
 値の確認チェック・ボックス, プロジェクト・エンティティのカスタマイズ・ダイアログ・ボックス 135
 値の格納, ワークフロー例 238
 アップグレード
 プロジェクト 34

い

移行ツール 38
 移行ルール
 削除 114
 設定 112
 変更 114
 移行ルール・エディタ・ダイアログ・ボックス 113
 イベント・プロシージャ
 関数 188
 サブルーチン 188
 参照情報 187-206
 命名規則 189
 モジュール 189
 印刷ボタン, スクリプト・エディタ 173
 インストール・ガイド ix

インポート・ボタン 53

う

上書き保存ボタン, スクリプト・エディタ 173

え

永続的データ, ワークフロー例 238
 エラー処理, ワークフロー例 234
 エンティティ 132-139
 イベント・プロシージャの命名規則 190
 システム・フィールドとユーザ定義フィールドの変更 136
 定義 132
 フィールド設定 133
 ユーザ定義フィールドの削除 137
 ユーザ定義フィールドの追加 135

お

オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス x
 オープン・テスト・アーキテクチャ・ガイド ix
 オブジェクトの検証, ワークフロー例 228
 オブジェクト, ワークフロー 207-217
 オンライン・サポート xi
 オンライン文書 x
 オンライン・ヘルプ x
 オンライン・リソース x

か

カスタマー・サポート・オンライン xi
 カスタマイズ, プロジェクト 131-144
 カスタマイズ・リンク 93
 仮想ディレクトリ
 qcbn 71
 sabin 71
 カバレッジからテストを削除するタスク 121
 カバレッジにテストを追加タスク 121
 空のパスワードの検出, ワークフロー例 236
 関数, ワークフロー・イベント 188
 管理者タブ, ユーザの権限の設定ダイアログ・ボックス 126
 管理者パスワードの変更ダイアログ・ボックス 6

索引

き

競合を処理ダイアログ・ボックス 58
切り取りボタン, スクリプト・エディタ 173

く

グループの新規作成ダイアログ・ボックス 107
グループの設定ダイアログ・ボックス 107, 118
グループの設定タスク 127
グループ名の変更ダイアログ・ボックス 118

け

権限

移行ルール 112
他のユーザ・グループへの既存のセッ
トの割り当て 118
データの非表示 115
表示 108
変更 109
モジュール・アクセスの監視 65
ユーザ・グループの設定 108
ユーザ・グループのモジュール・アク
セスへのカスタマイズ 128
検索ボタン, スクリプト・エディタ 173

こ

公開お気に入りビューの修正タスク 126
公開お気に入り表示の削除タスク 126
公開お気に入り表示の追加タスク 126
構文チェック・ボタン 174
項目の新規作成ダイアログ・ボックス 141
項目の新規作成ボタン 141
項目の名前を変更ボタン 142
項目を削除ボタン 144
コード完了ボタン 177
コードのテンプレート・ボタン 177
個人お気に入りビューの修正タスク 126
個人お気に入り表示の削除タスク 126
個人お気に入り表示の追加タスク 126
コピー・ボタン, スクリプト・エディタ 173

さ

サーバ・タブ, サイト管理者 70-73
最初にお読みください x
最大数のプロジェクト,
MIGRATION_MAX_NUMBER_OF_PRO

JECTS パラメータ 83

サイト管理クライアント API リファレンス x
サイト管理者

Quality Center サーバの削除 72

起動 3

サーバ・タブ 70-73

サイト構成タブ 78-87

接続タブ 65

パスワードの変更 6

プロジェクト・タブ 7-32, 33

ユーザ・タブ 50-63

ライセンス・タブ 67

サイト管理者の起動 3

サイト構成タブ, サイト管理者 78-87

削除ボタン, DB サーバ・タブ 77

削除ボタン, グループの設定ダイアログ・
ボックス 119

削除ボタン, サイト構成タブ 87

削除ボタン, スクリプト・エディタ 173

削除ボタン, ユーザ・タブ 63

サブ項目の新規作成ダイアログ・ボックス 141

サブ項目の新規作成ボタン 141

サブルーチン, ワークフロー・イベント 188

サポート・オンライン xi

し

システム・フィールド

設定 133

定義 133

変更 136

実行の削除タスク 124

実行の修正タスク 124

自動更新, コマンド 67

条件タブ, メールの設定ダイアログ・ボック
ス 148

所有者 111

所有者のみが削除可能チェック・ボックス,
ユーザの権限の設定ダイアログ・ボッ
クス 110

所有者のみが変更可能チェック・ボックス,
ユーザの権限の設定ダイアログ・ボッ
クス 110

所有者フィールド,

COPY_PASTE_CHANGES_OWNER パ
ラメータ 81

新機能 x

新規フィールド・ボタン 136
 新規ボタン 74
 新規ボタン, グループの新規作成ダイアログ・ボックス 107
 新規ボタン, サイト構成タブ 87
 新規ボタン, ユーザ・タブ 51
 新規ボタン, ユーザをプロジェクトへ追加ダイアログ・ボックス 101
 新規リスト・ダイアログ・ボックス 141
 新規リスト・ボタン 135, 141

す

スクリプト, LR DIRECTFILEACCESS パラメータ 83
 スクリプト・エディタ 171-186
 ウィンドウ 172
 コマンド 173
 ツールバー 173
 開く 168
 プロパティの設定 182
 スクリプト・エディタ・タブ 173
 スクリプト・ジェネレーター不具合の詳細フィールドのカスタム化ダイアログ・ボックス 163
 スクリプト・ジェネレーター不具合の追加フィールドのカスタム化ダイアログ・ボックス 162
 スクリプト・ジェネレーターリストのカスタム化ダイアログ・ボックス 158
 「スクリプト・ジェネレータ, ワークフロー」フィールド・リストのカスタマイズ 157
 スクリプト・ジェネレータ, ワークフロー不具合モジュール・ダイアログ・ボックスのカスタマイズ 161
 スクリプト・ツリー 172
 スクリプトツリーを表示/隠すボタン 174
 スクリプトの作成タスク 122
 スクリプト表示枠 172
 すべて選択コマンド, スクリプト・エディタ 174
 すべて展開コマンド, スクリプト・エディタ 174
 すべて閉じるコマンド, スクリプト・エディタ 174
 すべて保存コマンド, スクリプト・エディタ

174

せ

セッション・コンテキスト, ワークフロー例 235
 セッション・プロパティ, ワークフロー例 235
 接続タブ 65
 接続文字列エディタ・ダイアログ・ボックス 28, 76
 接続文字列の編集ボタン, DB サーバ・タブ 76
 接続文字列の編集ボタン, プロジェクト・タブ 28
 接続文字列, 編集 28
 接続リストの更新ボタン 67
 設定ボタン 63

た

第 1 次 / 第 2 次規則 157
 第 1 次 / 第 2 次規則の削除ボタン 159
 第 1 次 / 第 2 次規則の追加ボタン 159
 ダイアログ・ボックスのカスタマイズ, ワークフロー例 220, 221
 タスク, ユーザの権限の設定ダイアログ・ボックス
 管理者タブ 126
 テスト計画タブ 121
 テスト・ラボ・タブ 123
 不具合タブ 125
 要件タブ 120
 タブ名のカスタマイズ, ワークフロー例 225

ち

置換ボタン, スクリプト・エディタ 173
 チュートリアル ix

つ

ツールバー・ボタン, 追加 179
 次の行番号に移動コマンド, スクリプト・エディタ 174
 次を検索ボタン, スクリプト・エディタ 173
 ツリーをスクリプトに合わせて更新ボタン 174

て

データの検証, ワークフロー例 220

データの非表示 115
データ非表示フィルタ・リンク 116
データベース・サーバ
削除 77
データベース・サーバの作成ダイアログ・
ボックス 74
データベース・サーバのプロパティ, 変更
76-77
データベース最大接続数ダイアログ・ボック
ス 72
データベース名 74
デザイン・ステップの削除タスク 122
デザイン・ステップの修正タスク 122
デザイン・ステップの追加タスク 122
テスト計画タブ, ユーザの権限の設定ダイア
ログ・ボックス 121
テスト計画非表示フィルタ・ダイアログ・
ボックス
表示タブ 117
フィルタ・タブ 116
テスト計画非表示フィルタ・リンク 116
テスト・セットからテストを削除 124
テスト・セットでテストを変更するタスク 124
テスト・セットの移動タスク 123
テスト・セットのコピー・タスク 123
テスト・セットの削除タスク 123
テスト・セットの修正タスク 123
テスト・セットの追加タスク 123
テスト・セットのリセットタスク 124
テスト・セットへテストを追加タスク 124
テストの削除タスク 122
テストの実行タスク 124
テストの修正タスク 122
テストの追加タスク 122
テスト・ラボ・タブ, ユーザの権限の設定ダイ
アログ・ボックス 123
テスト・ラボ・データ非表示フィルタ・ダイ
アログ・ボックス
表示タブ 117
フィルタ・タブ 116
テスト・ラボ・データ非表示フィルタ・リン
ク 116
電子メールの送信プロトコル・リンク 72
電子メールの題名,
AUTO_MAIL_SUBJECT_FORMAT パラ
メータ 81

電子メール・プロトコルの設定ダイアログ・
ボックス 72
添付ファイル, ATTACH_MAX_SIZE パラメー
タ 78
添付ファイル,
AUTO_MAIL_WITH_ATTACHMENT パ
ラメータ 78

と

動的フィールドのカスタマイズ, ワークフ
ロー例 220
動的フィールドのリスト, ワークフロー例 230
ドメイン
削除 27
作成 10
リポジトリ構造 8
ドメインの削除ボタン 27
ドメインの作成ダイアログ・ボックス 10
ドメインの作成ボタン 10
ドメインのユーザ制限ダイアログ・ボックス
12
トレーサビリティ通知ルール 151-154
トレーサビリティ通知ルール・タスク 127
トレーサビリティ通知ルールの設定ダイアロ
グ・ボックス 154

な

名前の変更ボタン 25
名前の変更ボタン, グループの設定ダイアロ
グ・ボックス 118
名前を付けて設定ボタン, グループの設定ダイ
アログ・ボックス 118

に

入力マスク・エディタ・ダイアログ・ボック
ス 138

は

バージョン管理, VC パラメータ 80
パスワード
サイト管理者での変更 6
ユーザ・パスワードの変更 61
パスワードの検出, ワークフロー例 236
パスワードの変更リンク
サイト管理者 6

プロジェクト カスタム化ウィンドウ 95
 パスワード・ボタン, DB サーバ・タブ 76
 パスワード・ボタン, ユーザ・タブ 61
 パラメータ 78-87
 パラメータの作成ダイアログ・ボックス 87
 パラメータの編集ダイアログ・ボックス 87
 パラメータ・リストの更新ボタン 87
 貼り付けボタン, スクリプト・エディタ 173

ひ

表記規則 xi
 標準設定 DB ユーザ・パスワード・リンク 77

ふ

フィールド値のコピー, ワークフロー例 241
 フィールド値の自動入力, ワークフロー例 220
 フィールド値の変更, ワークフロー例 227, 228
 フィールドの検証, ワークフロー例 229
 フィールドの削除ボタン 137
 フィールド・プロパティの変更, ワークフロー例 232
 フィールド名コマンド, スクリプト・エディタ 178
 フィールド名の並べ替え (フィールドラベル順) コマンド, スクリプト・エディタ 175
 フィールド・リストのカスタマイズ, スクリプトの生成 157
 フィールド・タブ, メールの設定ダイアログ・ボックス 147
 フォルダの移動タスク 122, 124
 フォルダのコピー・タスク 122, 124
 フォルダの削除タスク 122, 124
 フォルダの修正タスク 122, 124
 フォルダの追加タスク 122, 124
 不具合タブ, ユーザの権限の設定ダイアログ・ボックス 125
 不具合データ非表示フィルタ・ダイアログ・ボックス
 表示タブ 117
 フィルタ・タブ 116
 不具合データ非表示フィルタ・リンク 116
 不具合の削除タスク 125
 不具合の修正タスク 125
 不具合の追加タスク 125
 不具合のメールを自動的に送信するチェッ

ク・ボックス 21
 不具合モジュール, プロジェクトごとの名前の変更 32
 複数プロジェクトのアップグレード・ボタン 36
 プロジェクト
 Ping 25
 SQL クエリー 22
 TestDirector プロジェクトの Quality Center への移行 38
 コピー 16
 削除 26
 作成 12
 接続文字列の編集 28
 名前の変更 25
 バックアップと復元 31
 プロジェクトのアップグレード 34
 プロジェクトの詳細の表示 19
 プロジェクトの不具合モジュール名の変更 32
 プロジェクトへのアクセスの復元 29
 プロジェクト・リストからの削除 26
 無効化 24
 有効化 24
 プロジェクト・エンティティ 132-139
 プロジェクト・エンティティのカスタマイズ・ダイアログ・ボックス 132
 プロジェクトエンティティのカスタマイズ・タスク 127
 プロジェクトカスタム化ウィンドウ 91
 プロジェクト管理
 SQL クエリー 22
 TestDirector プロジェクトの Quality Center への移行 38
 接続文字列の編集 28
 データベース・サーバの削除 77
 ドメインの削除 27
 ドメインの作成 10
 不具合モジュール名の変更 32
 プロジェクト構造 8
 プロジェクトのアップグレード 34
 プロジェクトのコピー 16
 プロジェクトの削除 26
 プロジェクトの作成 12
 プロジェクトの詳細の表示 19
 プロジェクトのバックアップと復元 31

- プロジェクトの無効化 24
 - プロジェクトの有効化 24
 - プロジェクトへの Ping 25
 - プロジェクトへのアクセスの復元 29
 - プロジェクト名の変更 25
 - プロジェクト・リストからのプロジェクトの削除 26
 - Quality Center サーバの削除 72
 - プロジェクト説明の編集ダイアログ・ボックス 22
 - プロジェクト・タブ, サイト管理者 7-32, 33
 - プロジェクトに Ping コマンドを適用ボタン 25
 - プロジェクトのカスタマイズ 131-144
 - 概要 91, 131
 - 起動 91
 - 項目またはサブ項目の削除 143
 - 項目またはサブ項目の名前の変更 142
 - 終了 94
 - フィールドの変更 136
 - プロジェクト カスタム化ウィンドウ 91
 - ユーザ定義フィールドの削除 137
 - ユーザ定義フィールドの追加 135
 - リストの削除 143
 - リストの作成 141
 - リスト名の変更 142
 - ワークフロー・スクリプトの生成 155
 - プロジェクトのカスタマイズの開始 91
 - プロジェクトの更新ボタン 35
 - プロジェクトの削除, プロジェクト・タブ 26
 - プロジェクトの削除ボタン 27
 - プロジェクトの作成ダイアログ・ボックス 13
 - プロジェクトの作成ボタン 13
 - プロジェクトの不具合に関するメール 149
 - プロジェクトの復元ダイアログ・ボックス 30
 - プロジェクトの復元ボタン 29
 - プロジェクトのユーザの設定ダイアログ・ボックス 100, 102, 104
 - プロジェクト ユーザ接続許可数ダイアログ・ボックス 21
 - プロジェクト・リスト 140-144
 - プロジェクト・リストのカスタマイズ・ダイアログ・ボックス 140
 - プロジェクト・リストのカスタマイズ・タスク 127
 - プロジェクト・リストの更新ボタン 22
 - プロジェクトをアクティブにするボタン 24
 - プロジェクトを非アクティブにするボタン 24
 - プロパティ・ダイアログ・ボックス 182
 - プロパティ・ボタン, スクリプト・エディタ 174
- へ
- 変更ボタン, グループの設定ダイアログ・ボックス 109
 - 編集ボタン 87
- ほ
- ホスト・グループの削除タスク 124
 - ホスト・グループの追加タスク 124
 - ホスト・グループの変更タスク 124
 - ホストの削除タスク 124
 - ホストの追加タスク 124
 - ホストの変更タスク 124
 - 保存時の状態に戻すコマンド, スクリプト・エディタ 174
 - ボタン機能, ワークフロー例 233
- ま
- マスクされているチェック・ボックス, プロジェクト・エンティティのカスタマイズ・ダイアログ・ボックス 134
- み
- 右から左, HEBREW パラメータ 83
- め
- 命名規則, ワークフロー・イベント 189
 - メールの設定タスク 127
 - メールの設定 145-150
 - 条件の定義 148
 - フィールドの指定 146
 - メールの設定ダイアログ・ボックス 147
 - メールの送信, ワークフロー例 237
 - メールの不具合
 - メール条件の定義 148
 - メール対象フィールドの指定 146
 - メッセージ枠を表示/隠すボタン 174
 - メッセージ表示枠, スクリプト・エディタ 173
 - メッセージをクリアコマンド, スクリプト・エディタ 175
 - メモ・フィールド・テンプレート, ワークフ

- ロー例 226
- も**
- 目次と索引, オンライン・ヘルプ x
 - 文字セット, MAIL_MESSAGE_CHARSET パラメータ 80
 - モジュール
 - アクセスのカスタマイズ 128
 - イベント・プロシージャの命名規則 189
 - ユーザ接続の監視 65
 - モジュール, イベント・プロシージャの命名規則 189
 - モジュール, 名前の変更 84
 - モジュールの名前 REPLACE_TITLE パラメータ 84
 - モジュールへのアクセスのカスタマイズ・ダイアログ・ボックス 129
 - モジュールへのアクセスのカスタマイズ・タスク 127
 - 元に戻すボタン, スクリプト・エディタ 173
- や**
- やり直しボタン, スクリプト・エディタ 173
- ゆ**
- ユーザ 99-104
 - 新しい名前のインポート 52
 - 新しい名前の追加 50
 - 削除 63
 - 接続の監視 65
 - パスワードの変更 61
 - プロジェクトからの削除 104
 - プロジェクトへの追加 100
 - プロパティの定義 59
 - ユーザ・グループへの割り当て 102
 - ユーザ, CUSTOM_ENABLE_USER_ADMIN パラメータ 79
 - ユーザーズ・ガイド ix
 - ユーザ・グループ
 - 移行ルールの設定 112
 - 権限 108-118
 - 削除 119
 - 追加 107
 - データの非表示 115
 - 名前の変更 118
 - モジュール・アクセスのカスタマイズ 128
 - ユーザの割り当て 102
 - ユーザ・グループごとのフィールドのカスタマイズ 161
 - ユーザ権限, ワークフロー例 232
 - ユーザ詳細ダイアログ・ボックス 51, 60
 - ユーザ制限リンク 12, 21
 - ユーザ・タブ, サイト管理者 50-63
 - ユーザ定義フィールド
 - 削除 137
 - 設定 133
 - 追加 135
 - 定義 133
 - 変更 136
 - ユーザのインポート・ダイアログ・ボックス 53
 - ユーザの権限の設定ダイアログ・ボックス 63, 109, 119
 - ユーザの削除ボタン, カスタマイズ 104
 - ユーザの切断ボタン 67
 - ユーザの設定タスク 127
 - ユーザの追加ボタン, カスタマイズ 101
 - ユーザのプロパティとパスワードの変更タスク 127
 - ユーザ・パスワード, データベース・サーバ 77
 - ユーザ・パスワードの設定ダイアログ・ボックス 61
 - ユーザ・プロパティの変更リンク 95
 - ユーザをプロジェクトへ追加ダイアログ・ボックス 101
- よ**
- 要件タブ, ユーザの権限の設定ダイアログ・ボックス 120
 - 要件チェック・ボックス, プロジェクト・エンティティのカスタマイズ・ダイアログ・ボックス 134
 - 要件の削除タスク 120
 - 要件の修正タスク 120
 - 要件の追加タスク 120
- ら**
- ライセンス・タブ 67
 - ライセンスの修正ボタン 68

索引

ライセンス・リストの更新ボタン 68

り

リスト 140–144

項目またはサブ項目の削除 143

項目またはサブ項目の名前の変更
142

削除 143

作成 141

名前の変更 142

ワークフローを使用したカスタマイズ
157

リストから値を選択ダイアログ・ボックス 178

リスト項目名の変更ダイアログ・ボックス 142

リストの名前を変更ボタン 142

リスト比較規則 158

リスト比較規則の削除ボタン 160

リスト比較規則の追加ボタン 160

リストへ移動ボタン 135

リスト名の変更ダイアログ・ボックス 142

リストを削除ボタン 143

リポジトリ, BASE_REPOSITORY_PATH パラ
メータ 78

履歴, AUTO_MAIL_WITH_ATTACHMENT パ
ラメータ 78

履歴チェック・ボックス, プロジェクト・エ
ンティティのカスタマイズ・ダイアロ
グ・ボックス 134

履歴のクリア・タスク 126

れ

連絡先電子メールリンク 11

連絡先の電子メールを設定ダイアログ・ボッ
クス 11

連絡先の名前リンク 11

連絡先名の設定ダイアログ・ボックス 11

ろ

ログアウト・ボタン 94

ログイン・ダイアログ・ボックス, プロジェ
クトのカスタマイズ 93

ログ最高日数ダイアログ・ボックス 72

ログ最高日数リンク 72

ログ最大行数ダイアログ・ボックス 72

ログ最大行数リンク 72

ログのステータス・ダイアログ・ボックス 71

ログ・ファイル, Quality Center サーバ 70

ログ・ファイルのステータス・リンク 71

ログ・ファイル保管場所ダイアログ・ボック
ス 72

ロケール, NLS_SEARCH_LOCALE パラメー
タ 84

わ

ワークフロー・イベント, 「イベント・プロ
シージャ」を参照

ワークフロー・スクリプト

Actions オブジェクト 210

Action オブジェクト 210

Bug_Fields オブジェクト 212

DesignStep_Fields オブジェクト 212

Field オブジェクト 213

Lists オブジェクト 215

Req_Fields オブジェクト 212

Run_Fields オブジェクト 212

Step_Fields オブジェクト 212

TDConnection オブジェクト 216

Test_Fields オブジェクト 212

TestSet_Fields オブジェクト 212

TestSetTest_Fields オブジェクト 212

User オブジェクト 216

概要 167–169

スクリプト・エディタの使用 171

スクリプト・ジェネレータの使用 155

ワークフロー・スクリプト・エディタ, 「スク
リプト・エディタ」を参照

ワークフロー・スクリプト・ジェネレータ,
「スクリプト・ジェネレータ, ワークフ
ロー」を参照

ワークフロー・スクリプトの生成 「スクリプ
ト・ジェネレータ, ワークフロー」を
参照

ワークフローの設定ダイアログ・ボックス 156

ワークフローの設定タスク 127

ワークフローの設定リンク 156, 167

ワークフロー・プロシージャ, 「イベント・プ
ロシージャ」を参照